

鹿児島高専だより

第 68 号

平成26年 3 月

〈特集〉 大学間連携共同教育推進事業(9 高専連携事業)

— 高専・企業・アジア連携による実践的・創造的技術者の養成 —

◆ 創立50周年記念事業



独立行政法人 国立高等専門学校機構

鹿児島工業高等専門学校

目次

校長室から

鹿児島高専創立50周年と今後に向けて … 1

特集

9 高専連携事業について

— 高専・企業・アジア連携による実践的・創造的技術者の養成 — … 3

シンガポールでの英語キャンプ … 6

テクニカルチャレンジ in 香港 2013 … 7

タイでのインターンシップについて … 8

電子制御工学科3年生のシンガポール海外研修旅行 … 9

シンガポール研修を終えて … 10

教務だより

平成25年度教務委員会の活動について … 11

平成25年度一日体験入学 … 12

90分授業と補習体制 … 13

中学校訪問 … 13

平成25年度一年生集団研修報告 … 14

学生だより

輪 … 15

文化祭を終えて … 15

体育祭を終えて … 16

東京国体 … 17

都城・鹿児島高専親善試合結果 … 18

第50回（平成25年度）九州沖縄地区国立

高等専門学校体育大会等 結果一覧 … 20

学生表彰者リスト … 22

志学寮だより

原点回帰 … 24

寮生会より … 24

一年生集合自習 … 25

自己紹介 … 26

それでも汚い部屋が良いのかい？（整理整頓と人格形成） … 26

寮生の健康状態について … 28

専攻科だより

専攻科の課題と展望 … 29

専攻科の特別研究について … 30

学会発表を経験して … 30

専攻科の1年を過ごしてみて … 31

ISTTS2013 in Hong Kongに参加して … 31

贈る言葉 … 32

地域共同テクノセンターだより

地域共同テクノセンター報告 … 33

ソフトプラザかごしま「鹿児島高専産学官

連携推進室」 … 33

共同研究について … 34

地域交流について … 34

平成25年度人材育成事業について … 35

科研費錬成塾 … 36

新技術説明会 … 36

平成25年度の今後の取り組みについて … 37

学生何でも相談室だより

この5年間を振り返って … 38

教職員研究活動

Peer Effects of Swimmers … 39

地球磁気圏の研究 … 40

これからの地域スポーツ … 41

卒業

「ありがとう」の素直な気持ちをいつまでも … 42

卒業を迎えて … 42

専門教科を学ぶことの楽しさ … 43

卒業を迎えるにあたって … 43

高専と5年間 … 44

卒業を迎えて … 44

専攻科修了にあたって … 45

専攻科をふりかえって … 46

専攻科修了にあたり … 46

卒業研究テーマ一覧 … 47

特別研究テーマ一覧 … 52

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の

就職・進学一覧 … 53

教職員の動向

新任挨拶 … 56

ご挨拶～採用から半年を振り返って～ … 56

新任のご挨拶 … 57

新任挨拶 … 57

新任のご挨拶 … 58

新任挨拶 … 58

新任のご挨拶 … 58

新任挨拶 … 59

新任挨拶 … 59

新任挨拶 … 60

新任挨拶 … 60

退職にあたって … 61

退職の御挨拶 … 61

鹿児島高専での1年間 … 62

鹿児島高専での2年間 … 62

平成25年度教育功労者表彰について … 63

国際交流だより

平成25年度国際交流事業 … 64

広報委員会だより

平成25年度の広報委員会の活動について … 65

同窓生だより

高専って本当にすごい！ … 67

学生の時に見つけるべきもの … 67

在校生の皆さんへ … 68

在校生の皆さんへ … 69

在校生の皆さんへ … 69

高専生活でしょ!!! … 70

「聴く」ことの大切さ … 70

在校生の皆様へ … 71

後援会だより

5年間を振り返って … 72

高専に出会えて良かった … 72

応援団が繋ぐもの … 73

社会に飛び立つエンジニアの皆さんへ … 73

親も子も楽しく有意義に … 74

二人の高専生 … 74

行事予定

平成26年度行事予定表 … 75

【表紙の説明】

本校は、平成25年11月1日（金）本校第1・第2体育館にて、創立50周年記念式典を挙行了しました。また、本校正門前でモニュメントの除幕式を行い、祝賀会はホテル京セラに会場を移し、約250名が参加しました。

写真上左：創立50周年記念モニュメント除幕式

写真上右：創立50周年記念祝賀会での乾杯挨拶

写真中央：創立50周年記念式典校長式辞

写真下左：創立50周年記念式典会場の様子

写真下右：創立50周年記念ホテル京セラ本館の祝賀メッセージ





鹿児島高専創立50周年と今後に向けて

校長 赤坂 裕

今回の「校長室から」は、平成25年11月1日に開催した鹿児島高専創立50周年記念式典で述べた校長式辞を編集して作成しました。

昭和38年に創立された本校は、平成25年度に創立50周年の節目を迎えました。当初は機械工学科2学級と電気工学科1学級で発足しましたが、現在は機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科、都市環境デザイン工学科の5学科体制に拡充されています。平成12年度には2年間の専攻科が設置され、専攻科を修了し大学評価・学位授与機構の審査に合格すれば、学士の学位を取得できるようになりました。

本校創立の目的は何でしょうか？創立10周年記念誌には初代小原校長の「10年史の発刊に際して」という巻頭言が掲載されています。そこには、入学して二年生までの全寮制、クラス担任制による学生指導、職業とのつながりを重視した実践的教育、技術科学大学院（仮称）の必要性等、本校創立に尽力された初代校長の想いが記されています。小原初代校長が述べておられる全寮制、学生指導、実践的教育の重視は今に受け継がれている、いわば本校の建学の精神です。なお、高専本科修了生を受け入れる技術科学大学院は、昭和51年度に豊橋、長岡の両技術科学大学の設置により実現しました。

創立50周年の意味は何でしょうか？第2代垂水校長が創立20年史の中で述べておられる言葉を引用します。『20年といっても、…人間の一生になぞらえていえば、それはやっと成年に達する時期である。…「教育は国家百年の大計」と観られる限り、先ず、50年の沿革を経て始めて、その社会に定着し、認められるのが通例といえようか。…その教育実践の所産である卒業生の実績を通じて、その学校の存在価値が社会に認識されるばかりで

なく、学校構成員のすべてに、建学の精神とか、設置目的が浸透し、教育と研究と管理の体制が整い、その上に、学風とか校風とか伝統といったものが生まれ、かつ定着するまでには、少なくとも半世紀の時間が必要かと思われるのである。』創立20年は、まだまだ実績を積み上げることに邁進すべき時であって、成果をとやかく言うには短すぎると説かれた垂水校長の謙虚な姿勢が読み取れます。

それでは、創立50年を経て、高専は社会からどのように評価されているのでしょうか？この点に関して、平成20年12月の中央教育審議会（中教審）答申「高等専門学校教育の充実」には、高専が養成してきた実践的・創造的技術者が社会から高い評価を受けていること、それは高専卒業生への高い求人倍率・就職率等に表れていること、高専は「中堅技術者の養成」を目的として設置されたが、今後は「幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成」が求められること、等が述べられています。社会的評価に関しては、高専は大いなる成功を収めたのです。

では、高専が成功を収めた実践性と創造性を育む教育に関して、本校はどのように位置づけられるのでしょうか。私は、本校の実践性教育は全国高専の中でも高いレベルにあり、それは端的に、課外活動における本校学生の活躍に表れていると考えています。もちろん授業と課外活動は同じではありませんが、課外活動も教育の一環で、教員の学生への接し方は担任に似て授業以上に難しい面があります。そのような観点から、本校では全教員が何らかの課外活動の指導に係っています。といっても数多い運動部で技術的な指導ができる教員は限られていますが、教員はクラブの運営、引率、外部との交渉等のあらゆる面において学生活動を幅広くサポートしています。

本校の高専体育大会での成績をみると、全国大会に出場する種目は毎年5～7種目であり、サッカー、ソフトテニス、テニス、弓道、空手道で全国優勝しています。特に本校サッカー部は平成25年度に23回目の全国優勝を果たしました。これは高専サッカー全国大会46回の歴史の半分を占める回数です。スポーツでは競技者の取り組むべき課題がはっきりしています。地道にそれぞれが持つ弱点を強化し練習に励むことが好成績につながります。スポーツにおける本校の実績に高さは、チームの一員として与えられた課題に取り組む学生、及び学生の活動を支援する指導教員の勤勉さの表れです。

高専ロボコンは、平成20年度より全国大会への連続出場を続けています。全国大会の出場枠は九州沖縄地区9校10キャンパスのうちの4キャンパスですから、6回連続して出場する確率は5%以下です。平成22年度は高専ロボコン全国優勝を果たしました。プログラミングコンテ

スト（プロコン）には、競技部門、課題部門、自由部門があります。本校学生が実績をあげつつあるのが競技部門で、平成25年度は初めて3位に入賞しました。競技部門は課題が明確に示されており、与えられた仕様とルールに従ってプログラムを組み、他高専のプログラムと競います。

課外活動の重要性は、試合の結果だけではなく、そのプロセスにあります。殆どの学生が課外活動を行っている本校では、結果の如何に係らず、学生（及び教員）が課外活動を通じて人間的に成長します。学生が与えられたテーマに真剣に取り組んでいる点、教員がその支援に励んでいる点で、本校は高い実践力を持つ学生を育てていると私は考えています。

それでは、全国の高専の中で、本校の創造性教育はどのように位置づけられるのでしょうか？まず、創造性とは一体何でしょうか？実践の中から新たな着想が芽生えることもあります。実践は創造の源ともいえませんが、実践力と創造力は同じではありません。創造力は、イノベーションを生み出す力とも言い換えられます。平成25年10月17日、長岡技科大、豊橋技科大、高専機構の3者による教育改革シンポジウムが開催され、イノベーションの創出には何が必要か、が議論されました。豊橋技科大学長はイノベーションにはセンスが必要で、大学はセンスを磨く機会を学生に与えなければならないと述べられました。長岡技科大学長は、センスとは言い換えればひらめきで、努力により裏付けられるとコメントされました。努力、不屈の闘志を表す言葉として、Thomas Edisonの”Genius is 1 percent inspiration and 99 percent perspiration.” はあまりに有名ですが、次の彼の言葉は、諦めないことの重要性を一層明確に説いています。“Many of life’s failures are people who did not realize how close they were to success when they gave up.”

本校学生の創造力を高めるためには、私は一層の教育方法の工夫が必要であると考えています。例えば、プロコンを例にとると、本校は、課題部門や自由部門ではこれまで殆ど実績がありません。課題部門の課題は大枠的で、平成24、25年度は「ITが支える少子高齢化社会」でした。学生が提案するプログラムも多種多様です。自由部門では学生は自由な発想でプログラムを提案します。創造力を養うには、普段から創造力を養う心掛けが大切です。今、高専はエンジニアリングデザイン教育のウエイトを高めています。実社会では、答えがないかもしれない、逆に答えがいくつもあるかもしれないような課題があふれています。エンジニアリングデザイン教育と

は、このような課題に専門性を生かしながら挑戦することです。そのようなトレーニングの繰り返しは、創造性の養成につながると考えられます。

さて、今、日本は国を挙げて教育のグローバル化の遅れを取り戻そうとしていますが、グローバル化に対応できる技術者の養成という観点から本校の取組をご紹介します。本校は10年程前から学生の海外派遣を推進してきました。中国、韓国、カナダに始まり、最近タイ、シンガポール、香港、マレーシア、インドネシア等の東南アジアの国々との交流を行っています。平成25年度、海外に派遣した学生数は130名を超えました。これは1学年200名の約65%に相当します。高専は専攻科まで含めると成長盛りの学生を7年間預かって教育する学校です。学生の成長に合わせ、初歩的なレベルから高いレベルの交流プログラムを準備する必要があります。

先ほどご紹介した3者による教育改革シンポジウムのテーマは「グローバル化時代に求められる実践的技術者像」でした。旭化成相談役は「グローバルな価値観と視点で課題を解決し事業を展開できる技術者が必要である」と話されました。グローバル化が進行する中で、日本のマーケットが相対的に小さくなり、日本の中でよいと言われるものを作っても価値が低くなった、世界を相手にするには、グローバルな価値観と視点が必要という意味です。英語力などの語学力は2番目で最も必要な能力は国際的に通用する技術力であると述べられました。とはいえ、英語力が高専学生の弱点であることは多くの方々指摘してきた点です。高専機構理事長は、高専生のリベラルアーツ（教養力）や英語によるコミュニケーション力を高めるためには、ICTの導入による教育の合理化が必要であると述べられました。

平成19年4月1日に鹿児島高専の校長に就任して7年間校長を務め、平成25年度末をもって退任することになりました。

高専の現場を支えるのは、何と言っても、結局は現場で教育指導に当たる教員です。日常的な繰り返しの中にも、その時々学生に応じ、工夫と苦心を重ねながら職務に取り組む有様は、現場で仕事を共にしてはじめてわかります。今後とも、本校教職員が創意工夫と地道な取り組みを重ね、学生教育と本校の発展にご尽力されることを願ってやみません。



9 高専連携事業について

— 高専・企業・アジア連携による 実践的・創造的技術者の養成 —

9 高専連携事業推進責任者
電子制御工学科 植村 眞一郎

1. 9 高専連携事業とは

2010年に発表された中央教育審議会における大学分科会報告によりますと、近年の我が国を取り巻く国際的な経済環境や産業構造の変化等に伴い、海外諸国との経済交流、特に東アジア諸国との経済的つながりが大きくなってきているとされます。このような状況の中、海外進出に取り組む多くの企業において、グローバル化およびグローバル人材育成が議論されており、さらには当然のごとく教育機関におけるグローバル化教育について、様々な場で提言されています。高度な知識と技術を有する技術者を育成する高専においては、学生さらには学内全体に対するグローバル化はもはや避けて通れない状況にあり、多くの高専でグローバル化に向けて真剣に取り組んでいる現状です。

一方で、グローバル化教育に取り組む際における問題点の一つに、費用面での負担増という大きな問題があります。学生の海外派遣、また教員派遣においても各高専において腐心している点でもあると思われれます。

そのような中、昨年度文部科学省が大学間連携共同教育推進事業を募集し、これに対し鹿児島高専が代表校となり九州・沖縄地区の9高専が海外で活躍できる技術者育成を見据えたグローバル化教育に連携して取り組むべく、応募しました。事業名は、「高専・企業・アジア連携による実践的・創造的技術者の養成」で、全国から153件の応募があったなかで選定されました。そのうち、高専関係では本校をはじめとする5件が選定されています。この補助事業は5年間継続で、交付額は、平成24年度が4,250万円、平成25年度は5,800万円です。本事業は、アジア諸国との連携をうたっており、主な交流対象国は、シンガポール、香港、タイ、マレーシア、インドネシア、台湾です。本事業を省略して9高専連携事業と称していますが、以下に事業の概要について報告します。

2. 9 高専連携事業の目的

9 高専連携事業は、グローバルに活躍できる実践的・創造的技術者の養成を目的として、九州沖縄地区の9高専が連携し、学生及び教員の海外派遣・研修、国内及び海外でのインターンシップ、9高専における専攻科の単位互換等を推進する取組です。

高専はこれまで実験、実習、演習等の授業を重視し、

インターンシップを推進する等により実践的教育では実績を上げてきましたが、この取り組みでは長期インターンシップや海外インターンシップを強化します。その方策として、約900の会員企業を有する九州経済連合会と連携します。

一方、高専にとって喫緊の課題であるグローバル化への対応は決して進んでいるとは言えません。本事業によるグローバル化への具体的な取組として、これまで培った海外交流の実績に加えて、学生の海外派遣のみならず、アジア諸国からの学生を研修生、留学生として受け入れると共に、高専教員のグローバル化に対応した教育力の向上を目指しています。また専攻科の教育プログラムを見直すことで、単位互換、長期のインターンシップ、海外研修を行い易くするとともに、海外からの研修生、留学生の受け入れを推進します。9高専が連携を強化し、これらの人材養成に関する機能の強化を図ることで、9高専全体のグローバル化の底上げを推進することを目的としています。

3. これまでの主な取り組み

平成24年度に取り組んだ主な事業は以下の通りです。

(1) 事業推進のための9高専連携実施体制組織の規則制定と各組織を立ち上げおよび各部会開催

図1に示すように、本事業を推進するため、①カリキュラム検討・単位互換部会、②インターンシップ推進部会、③国際交流推進部会の3部会を設置し、更にその上位組織として、④運営委員会、⑤企画委員会、⑥推進会議が置かれています。

(2) 高専間連携教育支援システム（TV会議システム）の基幹校（鹿児島、北九州、熊本）および沖縄の各高専への導入および各種会議への活用

3部会の会議等に本システムを活用し、さらには教員・学生の海外派遣の報告会システムを用いて開催しました。平成25年度には全高専に導入されています。



写真-1 高専間連携教育支援システムによる会議

(3) 海外学生交流、海外インターンシップ調査のための海外訪問調査

平成25年の3月にアジアの6カ国に9高専の先生方延べ61名が学生交流やインターンシップの調査のため、海外訪問調査しました。それらの調査情報資料をもとに平成25年度の事業計画を策定しました。

(4) 国際交流コーディネータ採用の取り組みとして、鹿児島、北九州、熊本での採用を検討

海外交流やインターンシップを実施するにあたり、海外の大学などとの交渉や調整にあたってもらう国際交流コーディネータの採用を検討し、平成25年度には2名採用しています。

平成25年度に関する国際交流および海外インターンシップに関する事業計画は、前年度の海外訪問調査を参考にし、「9高専が連携して行う事業」と、「連携校が主体的に行う事業」に分けています。

「9高専が連携して行う事業」の特徴は、それまで熊本高専が主催して行っていた英語キャンプなど3つの事業を9高専連携事業に組み入れ、引率教員も各高専から出してもらっています。それまで主催校が学生募集から引率教員などの業務を担っていましたが、それを9高専で負担することで負荷の軽減を図っています。具体的な交流事業は表1に示すとおりです。

一方の「連携校が主体的に行う事業」とは、これまで各校が独自に行っていたものをさらに発展させるため、

クラス単位或いはグループ単位での学生の海外派遣や、教員の1ヶ月程度の短期海外研修や学生引率について推奨しその予算措置を行ったものです。本校の場合、今年度実施した電子制御工学科3年生の希望者によるシンガポールのニース・ポリテクニクの学生交流及び海外工場見学がそれに該当します。

海外インターンシップについては、表2に示すようにこれまで鹿児島高専で行っていたタイでのインターンシップを他高専の学生にも募集して行ったものの他に、九経連の紹介で新たに台湾の平田機工でのインターンシップを加えて実施することになりました。

以上の他に、今年度取り組むこととして、9高専といく



写真-2 タイにおける海外インターンシップ

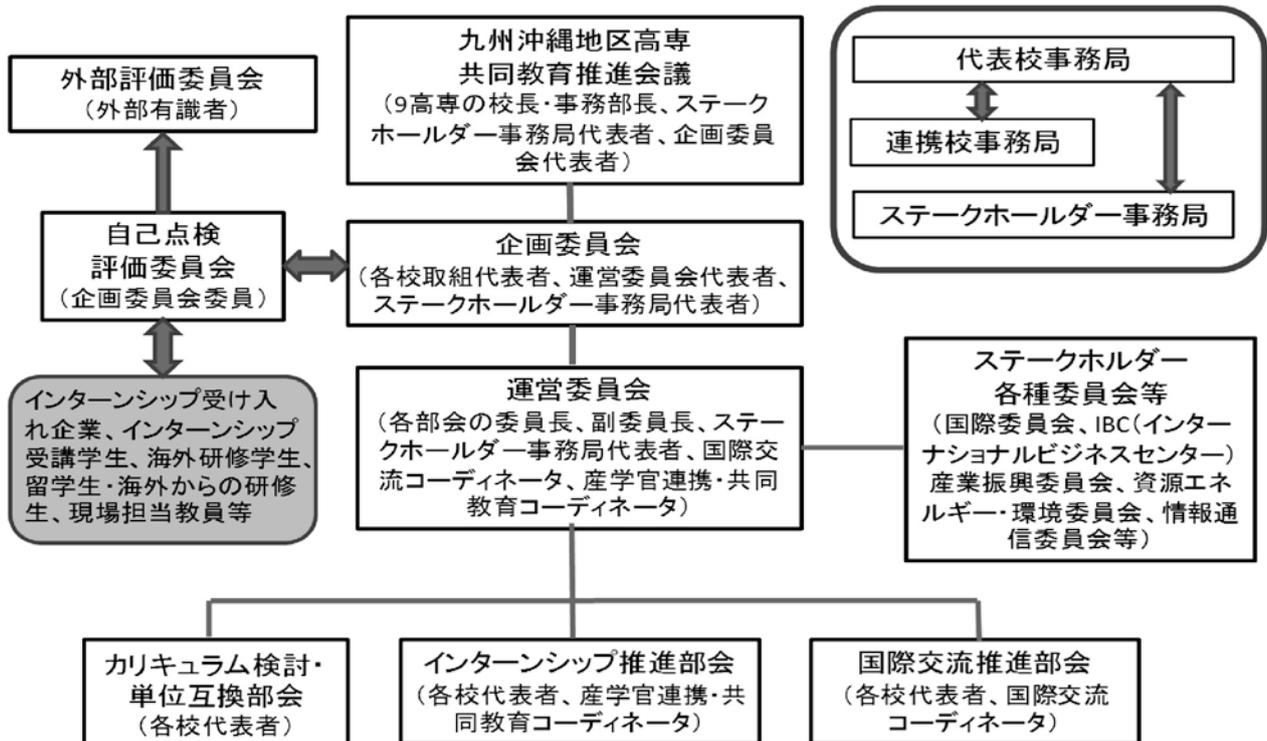


図-1 高専連携事業における組織体制

つかの大学がMOU締結の調印を予定しています。具体的には、タイのカセサート大学、およびキングモンクット工科大学ノースバンコク校、マレーシアのペトロナス工科大学、インドネシアのガジャマダ大学です。学生交流を円滑に進めるためにはMOUを締結することが先決だという判断に基づくものです。

4. 今後の課題

本事業に取り組み始めてから、9高専連携事業における体制作り、海外訪問調査とそれに基づいた学生交流や海外インターンシップの実施、また9高専と海外大学とのMOU締結への道筋など様々取組んできましたが、色々な課題も見えてきました。

一つは海外からの学生受入の点です。中央教育審議会の報告の中に、多様性・互恵性の尊重という点について、

「制度や慣習、文化など様々な違い、多様な特色を認め合いながら、大学間交流を促進するための共通の枠組の構築を図る際には、我が国にとってのメリットとともに、相手側の大学にとってのメリットも考慮する等、互恵性の尊重が必要である。」と述べられています。日本からの派遣だけでなく、相手国からの受入れも重要なグローバル化における国際交流です。

本事業採択からほぼ1年が経過しようとしています、本格的な連携事業に取り組んだのは実質平成25年度からであり、平成28年度終了までの間、九州・沖縄地区の9高専とさらに緊密に連携し、グローバル化へ向けて着実に成果を上げ、大卒にも負けない国際的に活躍できる実践的・創造的な技術者と成るべく、学生の育成に向けて今後とも努めていきたいと考えています。

表-1 9高専が連携して行う事業

	事業名 (派遣国)	交流先	参加学生	期間	担当校	引率教員
①	英語キャンプ (シンガポール)	シンガポール・ポリテクニク	20名 9高専	平成25年 8月17日～31日 2週間	熊本	4名 熊本2 都城1 鹿児島1
②	テクニカルチャレンジ (香港)	香港 VTC/IVE	15名 久留米2 北九州2 熊本(熊本)6 鹿児島4 沖縄1	平成25年 8月18日～27日 10日間	熊本 北九州	4名 熊本2 北九州1 鹿児島1
③	プログラミング チャレンジ	リパブリック・ポリテクニク	9高専 10名(予定)	平成26年 3月頃、1週間	熊本	4名 (予定)
④	タイ学生交流 (タイ)	キングモンクット工科大学(ラカバン校) カセサート大学 キングモンクット工科大学(北校)	5名 久留米1 熊本(八代)1 鹿児島2 沖縄1	平成25年 8月26日～ 9月7日 2週間	久留米 鹿児島	6名 北九州2 久留米2 大分1 鹿児島1
⑤	マレーシア学生交流 (マレーシア)	ペトロナス工科大学	10名程度 (予定)	平成26年 3月頃、10日間	鹿児島 大分	4名 (予定)

表-2 海外インターンシップ企業と参加学生

	事業名	企業名	参加学生数	時期	引率
①	タイ	MK ウォーターテック	2名 有明1(専1) 鹿児島1(専1)	平成25年8月14日～ 9月10日、4週間	2名 鹿児島1 有明1
②	タイ	SIAM DAIWA INTERNATIONAL	2名 鹿児島2(専1)	平成25年8月14日～ 9月10日、4週間	1名 鹿児島1
③	台湾	平田機工	2～3名予定	3月予定	1名予定

シンガポールでの英語キャンプ

一般教育科文系 塚崎 香織

2013年8月17日から31日まで、シンガポールのシンガポール・ポリテクニクにおいて、2週間の英語キャンプが行われました。この英語キャンプは、コミュニケーション能力の向上を目標に、高専の学生のためにカスタマイズされた短期集中型の英語プログラムです。九州沖縄地区の学生20名のクラスと、全国の高専生22名のクラスの計2クラスで実施されました。本校からは3年生が2名、5年生が2名の計4名が参加しました。

ここで、英語キャンプに参加した本校の2名の学生の感想を紹介します。情報工学科5年の新納佳那子さんは、「以前の海外経験で、英語で相手に正確な内容まで伝えられず悔しい思いをしたことがありました。その経験から、今回英語キャンプでは細かなことまで相手に伝わる英語を話すことが自分自身の目標でした。授業の中で、先生から高専の学生は学士の資格を取れるのかという質問に、本科生と専攻科生の違いを説明したうえで質問に答えることができた時、自分自身の目標に一步近づくことができ、勉強の楽しさ喜びを今まで以上に感じることができました。英語キャンプの授業はすべて英語で行われたので、自然と2週間のうちに覚えていた単語があったことに、帰国後に気づき嬉しかったです。放課後も、街中で英語を使ってショッピングをしたりして、英語をとりあえず話してみるということに抵抗がなくなりました。」と感想を述べています。

また、同じく、情報工学科5年の柳田智也さんは、「シンガポールに行く前は、他の高専の方と仲良くできるかとか、英語でコミュニケーションがとれるかなど不安でしたが、一緒に行った人や英語を教えてくださいました先生が気さくな方で、勉学、異文化交流の両面で楽しく過ごせました。特に、放課後、現地の学生とバスケットをしたことが印象的です。文化としては、法律が厳しく、地下鉄が飲食禁止・ドリアン持ち込み禁止だった点に驚きました。また、学生の素行がよかったため、先生方がナイト・サファリに連れて行ってくれたりもして、毎日楽しみました。現地の学校では、英語での面接練習や、様々な場所にグループで行き、文化について英語で質問するなど、生活の中で英語を使い、英語の使い方についてより深く知ることができました。」と感想を述べています。

この二人は、もともと英語に対するモチベーションが高く、この英語キャンプ以前にも、ドイツまたはカナダで研修した経験がそれぞれあります。加えて、今回、シンガポール・ポリテクニクで集中的に英語を学び、英

語を生活の中で使うことを通して、さらに実力をつけ、学習意欲がますます向上したことは大変喜ばしいことです。英語キャンプの授業において、日本人学生とのグループ・ワークは言うまでもなく、現地の先生とも、伸び伸びと英語でコミュニケーションを図る様子が観察されました。

研修後の12月に受験したTOEIC IPでは、新納さんと柳田さんはそれぞれ、610点と570点という自身の最高スコアを取得しています。新納さんは、5年で卒業して就職、柳田さんは本校の専攻科に進学する予定ですが、二人の次の目標は、TOEIC 700点をクリアすることです。英語キャンプが一つの良いきっかけとなり、参加した学生がこれまで以上に英語の勉強に励み、活躍してくれる姿を見ることは、英語教師として嬉しい限りです。今後も、一人でも多くの学生に、海外研修に参加してもらいたいと思っています。



写真-1 英語授業の様子



テクニカルチャレンジ in 香港 2013

機械工学科 椎 保幸

1. 本プログラムの趣旨

本プログラムは、平成24年度から実施されている九州沖縄地区9高専連携事業のひとつであり、日本と香港の学生による混成のグループをつくり、与えられた課題に対して各グループで取り組み、問題解決を行うPBL型のものづくりプログラムである。また、ものづくり以外にも企業見学や施設見学などもあり、大変充実した内容となっている。学生は、期間全般を通して主に英語を用いてコミュニケーションをとり、それぞれの文化や考え方の違いについて理解を深め、グローバル化への対応力を身につけることができる。

2. プログラムの内容

日 程：平成25年8月18日（日）～8月27日（火）

場 所：香港VTC/IVE (Tsing Yiキャンパス)

参加者：学生15名、引率者4名

(参加者内訳)

北九州高専 学生2名、引率1名

久留米高専 学生2名

熊本高専 学生6名、引率2名

鹿児島高専 学生4名、引率1名

沖縄高専 学生1名

課 題：

規定の大きさに収まるように、木製の角材を用いて橋模型を製作する。完成品の橋模型に荷重を掛け、どれだけの荷重に耐えられるかその強度を競うものである。

スケジュール：

Date	Venue	Activity
19th August (Day 1)	IVE, Tsing Yi	・Welcome speech ・Briefing of exchange activities ・Campus Tour ・Technical Workshop
20th August (Day 2)	IVE, Tsing Yi	Technical Workshop
21st August (Day 3)	Kowloon Bay, Tsim Sha Tsui	・Visit Tour EMSD, Epoxy Casting, Science Museum
22nd August (Day 4)	Tai Po, Kowloon Bay, Kowloon Tong, Tsim Sha Tsui	・Visit Tour Dah Chong Moor Service Centre, Hong Kong Productivity Council, Sightseeing
23rd August (Day 5)	Cheung Kwan O, Victoria Peak	・Theatre Game Workshop, Chatteris Workshop at HKDI
24th August (Day 6)	Cheung Kwan O, Stanley, Causeway Bay	・Visit Tour HAESL, Sightseeing
25th August (Day 7)	Free day	Travel with different groups of HK students
26th August (Day 8)	IVE, Tsing Yi	・Technical Workshop ・Sharing experience sharing session ・Farewell Dinner

3. まとめ

今回は、香港IVEのTsing Yi校が主体となり、九州各地区の5高専から学生および教職員が参加するプログラムであった。参加した学生からは「とても良い経験であった」「英語の必要性を感じた」等の前向きなコメントがあり、今後もこのプログラムを継続かつ発展させていけるよう、高専間ならびに海外教育機関との連携をさらに深めていきたい。



写真-1 集合写真

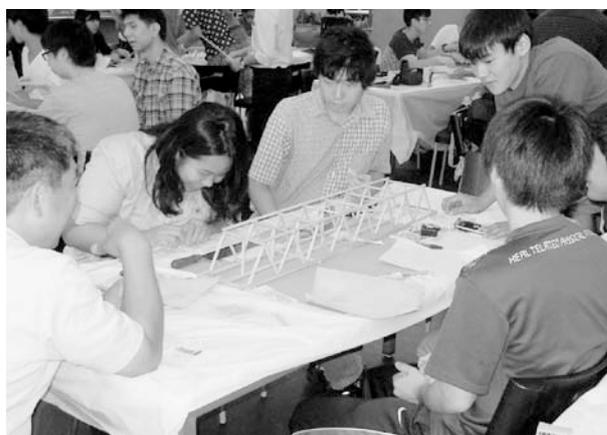


写真-2 グループワークの一コマ

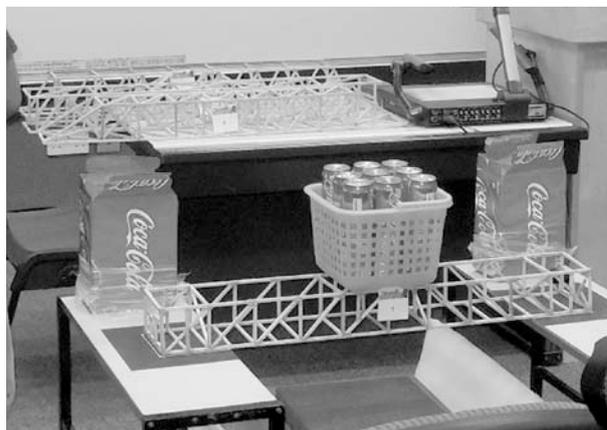


写真-3 完成品の強度計測

タイでのインターンシップについて

機械・電子システム工学専攻 1年 竹下 智之

私は今年度の夏の長期休暇に九州高専連携事業のタイでのインターンシップに参加しました。

今回のインターンシップでは排水処理を行う機械やプラントを設計・製作を行っている「SIAM DAIWA INTERNATIONAL CO., LTD.」という企業にお世話になりました。私は排水処理の分野は環境工学の講義で軽く触れた程度の知識しか持ち合わせていませんでした。しかし、タイで1ヶ月間、訪問先の企業の方から、基礎的なことから少し踏み込んだ所まで教えていただきました。

今回のインターンシップの実習の中で私は現場の見学に行くことが楽しみでした。現場の見学では、実際の機械を見たり触れたりでき、担当のスタッフの方から詳しい原理や動作の説明を受けることができました。しかし、今回のインターンシップでは数回しか現場に出ることができなかったので少し残念でした。

また、一番苦労したことはコミュニケーションの面についてです。タイ人のスタッフの方とは主に英語でしたが、自分の英語力が足りず最初の頃は会話の回数が疎らになってしまいもどかしい感じでした。しかし、短い会話や現場での説明を繰り返し聞いているうちに、定型的な文法でなく砕けた文法でも伝わればいいやという考えに変わり終盤の方は、休憩中にしゃべりをしたり英語で簡単な日本語を教えたりしました。

また、今回はタイの様々な文化に触れることができました。タイの人々はとても温厚で優しい人が多かったです。労働などの面では、社長や社員の人から、給与や労働条件が自分の思っていたものと違うと辞めて、また次の職に移っていくと聞きました。フットワークが軽いようでした。そして国民の多くが王家を敬っていて、街の色々な所や工場の入り口などに国王や王妃を写真や肖像画が掲げられていました。

食事に関しては有名な「トム・ヤム・クン」などのように辛いものが多かったです。そして、甘いものも多く、しょっぱいものはあまり見ませんでした。私はもともと辛い食べ物が好きで、それに加え、物価も安かったので1ヶ月間食事に困るということはありませんでした。

タイでの休日は、王宮の「ワット・ポー」やアユタヤ遺跡を見て周り、歴史にも触れました。特にアユタヤは街のいたるところに遺跡があり、1日中見て回ることができ、像にも乗ることもできました。

今回のインターンシップで多くの経験をして、今までより広い視野を持てるようになったと感じます。 将

来、1度は海外で働きたいと思っているので、学生のうちに海外で過ごせたことを今後の人生に活かしていきたいと思います。



写真-1 現場での装置の研修



写真-2 休日における遺跡での研修



電子制御工学科3年生の シンガポール海外研修旅行

一般教科文系 坂元 真理子

9/15(日)から9/21(土)まで、9高専連携事業の一貫として電子制御工学科3年生の海外研修旅行(シンガポール)に、植村教員、福添教員と共に同行いたしました。

今回のプログラムでは、7日間という限られた日程の中で出来るだけ多くの体験をし学んでほしいとの趣旨から、市内見学、企業・工場見学、提携校であるニーン・ポリテクニク訪問、現地学生との交流等様々な企画が盛り込まれ充実した内容になっておりました。また、ニーン・ポリテクニク訪問の際に日本や鹿児島 の風土や文化についてのプレゼンテーションを行うことになっており、学生達は事前研修の中でその準備も行っておりました。

1日目の市内見学では市街の様子や施設、歴史について学ぶことができました。シンガポールは国土面積が少なく経済が発達し居住者が増加しているという事情から、高層でデザイン性の高い建築物がとて多のが特徴です。また、その週末に街の幹線道路を使用してF-1レースが行われるとのことで、各地でその準備や展示がされていました。

2日目の企業見学では三井ハイテックと牧野フライス製作所という二つの会社を見学することができました。シンガポールで実際に技術者として働いている人々の様子や製作所の中を詳しく見学することができ、また現地に暮らしながら働くことの魅力や大変さについてのお話も伺うことができました。学生たちもグローバルに活躍する技術者となる自分の姿を思い描くことができたのではないかと思います。

3日目のニーン・ポリテクニク訪問では、現地の公共交通機関を使つての移動から始まりポリテクの学生達との交流会、構内視察、研究施設の訪問等この日も多くの体験ができたと思います。学生達はポリテクの学生たちと一緒に学食で昼食をとったり、ゲームや歓談、構内視察をしたりして、緊張しながらも楽しく過ごせていたようでした。

その翌日はポリテクの学生達と共に市街地や観光名所を見て回ったり、食事をしたりして交流することができました。英語がなかなか通じず大変な面もあったようですが、それでもお互いに工夫しあいながら楽しく交流できていたようで、こういった体験は学校の授業の中だけではなかなかできない貴重な経験となったのではないかと

と思いました。出発の日にはポリテクの学生達が空港まで見送りに来てくれたのですが、皆とても別れ難い様子でした。

復路は台北経由で、少しの間でしたが台北市街を見学することができました。同じアジア圏にある国でも、シンガポールと台湾と日本は全く異なる風土と歴史と文化を持っています。学生たちはその社会や人々の様子を目の当たりにし、多くを学ぶことができたのではないかと思います。

学生達は初めての海外の地で、日本との環境の違いに戸惑うことも多々あったのではないかと思います。食事や買い物、移動方法一つとっても異なる習慣に驚くことが多かったようです。そういった異文化経験は、その渦中にいる時には大変に感じるのかもしれませんが、その驚きや戸惑いを身をもって経験することこそが研修の意義であり、「自分と異なる価値観を認める」という、グローバルに活躍する技術者として不可欠な態度を身に付けるための一歩として重要な経験となったのではないかと思います。自分達が今まで暮らしてきた環境は「当たり前」などでは決してなく、世界の中での恵まれた一地域にすぎないことを知り、様々な背景や文化、価値観を持つ人々と協力していくことを理解し相手を尊重するという姿勢でこのグローバル化された社会で活躍してほしいと思います。



写真1 シンガポール・フライヤーから見たマリーナ・ベイ



写真2 ニーン・ポリテクニクの学生とゲームによる交流

シンガポール研修を終えて

電子制御工学科3年 西村 亮

今年の9月、僕は語学研修として5日間シンガポールを訪れました。日本から台北を経由し飛行機で約4時間のフライトでしたが、時差が1時間と短く無事にシンガポールへ到着しました。気候、気温ともに夏の日本と同じで、建物等も日本に似たものが数多くありました。1日目はシンガポール・フライヤーやセントーサ島を訪れ、2日目は日系企業の工場見学を行いました。仕事量や仕事日数など人それぞれで異なっていること、買い物をするときのお金の払い方など多民族国家ならではの文化、習慣を学ぶことができました。また、工場に勤めている日本の方は英語がペラペラで、海外で企業に従事するために必要なことは何かと知ることができました。3～4日目はニース・ポリテクニクの学生と交流しました。英語がほとんど話せない中、学生とジェスチャーや片言の英語で話しかけ友達になることができました。ニースの学生は各学校の紹介から買い物まで面倒をみてくれ、シンガポール人の優しさを感じました。言葉の通じない場面で相手に思いを伝えるための手段、それが英語であることをニースの学生と交流して初めて知りました。5日間という短い語学研修でしたが、想像以上の経験ができ、もっと若いうちに海外で語学研修できたらよかったと常々思います。日常では経験できない文化や能力を、研修を通じて知ることができた良い体験でした。



写真-2 工場見学で学ぶ



写真-3 ニース・ポリテクニクの学生と交流



写真-1 シンガポールの歴史を学ぶ



写真-4 ニース・ポリテクニクの学生と全員集合



平成25年度教務委員会の活動 について

教務主事 芝 浩二郎

教務委員会は教務主事、教務主事補、各科からの教務委員で構成され鹿児島高専の教務関係全般を担当しています。本年度（平成25年度）、前任の植村教務主事から教務主事を引き継ぎました。本年度のこれまでの教務委員会の主要な活動について報告してみたいと思います。

4月は入学式です。本科1年の学生205名、4年への編入学生4名、留学生1名、専攻科1年の学生27名の計237名の新たな学生を迎えて新年度を開始しました。この237名を加えて、平成25年度の在學生は本科學生が1035名、専攻科學生が49名です。本科1年の学生205名に対しては、入学式の後すぐに大隅自然少年の家で「1年生集団研修」を行っています。また、本年度から昨年度までの授業時間割50分×8時限から90分×4時限に変えて授業を実施しています。「1年生集団研修」と「90分授業」については、後述の教務主事補の記事で詳しく述べさせていただきます。

6月は前期中間試験です。6月5日（水）から6月8日（土）までの4日間で実施しました。授業日数を確保するために本年度は中間テストの最終日を土曜日に実施しています。ちなみに昨年度は夏休みの9月の後半を当てていましたが、土曜日を試験日にすることで本年度は9月一杯を夏休みとしています。

7月末から8月初めにかけて前期末試験です。7月26日（金）から8月2日（金）までの6日間で実施しています。その翌週の8月5日（月）から8月9日（金）は前期末試験の答案返却の期間です。前期末試験の答案を採点・返却し、學生が試験の間違ったところなどを十分理解できるように解説するための期間です。この答案返却が終わると學生は夏休みに入りますが、夏休みの前半は多くの學生が全国高専体育大会へ参加しています。また、本科4年と専攻科1年の多くの學生が夏休み期間中に県内・県外企業でのインターンシップに参加しています。

8月は前期末試験と答案返却の間の8月4日（日）が一日体験入学でした。中学3年生を主な対象とした鹿児島高専を紹介するイベントです。本校を受験する中学生の多くがこの一日体験入学に参加してくれています。「一日体験入学」については、後述の教務主事補の記事で詳しく述べさせていただきます。

10月1日から後期の授業の開始です。10月は来年度の新入學生募集のための中学校訪問、高専説明会を行っています。中学校訪問は、県内のほぼ全中学校を全教員で手分けして訪問し鹿児島高専の紹介を行っています。

また、鹿児島高専の説明会を、霧島市地区、鹿児島市地区・薩摩川内市地区・鹿屋市地区等に会場を設けて、地区毎に、中学校の先生・生徒・保護者に対する説明会を開催しています。「中学校訪問」については、後述の教務主事補の記事で詳しく述べさせていただきます。

11月4日（月）から11月8日（金）は4年生の工場見学旅行です。各学科が将来の就職のためにも兼ねて企業の見学を行っています。11月末は後期中間試験です。11月27日（水）から11月30日（土）までの4日間で実施しました。前期中間試験と同様に土曜日を含む日程で実施しました。

以上、4月からの本年の教務委員会の活動の概要を述べさせていただきます。鹿児島高専は、本年、創立50周年を迎えました。本校の設立が昭和38年、西暦ですと1963年ですので、半世紀たったこととなります。東京オリンピック開催と東海道新幹線開通が1964年ですので、その前の年に設立されたこととなります。鹿児島高専が設立された1963年当時は、経済規模を表す国内総生産GDPが、25兆円でした。昨年2012年では475兆円ですので、この50年間で約20倍になったこととなります。現在、アメリカ、中国について世界第3位です。この発展をささえてきた大きな柱が、技術者たちです。アメリカや中国と違い、国土も資源もはるかに小さい日本がこれだけの発展をできたのは、創意工夫をこらし品質のよい製品を生み出してきた技術者たちがいたからです。

鹿児島高専は、このような技術者を育成するために設立され、これまで多くの技術者を世に送り出してきました。これからもそうあり続けていきたいと思えます。そのためには、まず数学や英語などの基礎学力をしっかり身に付け、そのうえで専門分野の学力をつけなければ、創意工夫をこらした品質のよい製品を生み出せる技術者、本校の学習・教育目標でもある「創造力豊かな開発型技術者」になることはできません。基礎学力も専門分野の学力も、高専に入学してからの授業をしっかりと集中して受けていけば、自然に身に付きます。

そこで、基礎学力、専門学力をしっかりと身に付けられるように、前述しましたように本年から90分×4時限の授業時間割にしました。この90分の授業を集中して受けるようにしてほしいと思っています。また、これによって昨年まで授業の終了が16時55分だったのが、16時5分と50分早く終了することになりました。この時間は、学力不足の學生の補習、授業でわからなかったことの質問や復習、課外活動のより一層の活性化などに有効につかってもらいたいと考えています。

以上

平成25年度一日体験入学

教務主事補 濱川 恭央

今年度の一日体験入学は、前学期末試験後の8月4日(日)の雨天での開催となりました。一日体験入学の内容は、体験実習、学校説明会、学科説明会、展示テーマの見学、学寮での昼食、進学相談、奨学金・授業料免除相談、保護者・引率者のための学校説明会、体験入学学科以外の学科説明会(午後)でした。参加は、機械工学科68(女子8)名、電気電子工学科107(21)名、電子制御工学科129(9)名、情報工学科109(19)名、都市環境デザイン工学科67(15)名の合計480名の中学生と160名の引率者で、特に女子中学生は、全体の約15%と昨年度を上回りました。保護者向け学校説明会は、立ち見での参加が出るほど大盛況となりました。

このように参加者が多かったのは、中学生の情報の入手先がポスターが約30%、中学校の先生の紹介が約60%ということから、本校の教職員の中学校訪問、学校説明会の案内の効果が大きいと言えます。

また雨天時の一日体験入学はバスでの対応となり、食堂と学生課前の往復運転で、バス内での待ち時間が長いなどのアンケート結果をもらっていました。その対策として、今年は学生課で500本の傘の購入と貸出しを実施し、大変便利だったという意見をもらえました。

一日体験入学実施後のアンケートは、「楽しかった」、「充実した」、「受験したいっ!とさらに強く思えた」などの記述が多く、参加した中学生の95%以上が「満足した」との回答でした。開催側にとっては、毎年あまり変化のない開催ですが、中学生にとっては新鮮かつあこがれの高专だということをアンケートから改めて知りました。

これも学生会・教職員の事前清掃から、寮生会の食事指導、そして5年生を中心とした体験実習、準備片づけ、

食堂関係者、後援会、鹿児島高専の関係者による支えと協力のおかげだと思います。

関係者のご協力に感謝し、来年度も意欲ある中学生が受験してくれることを期待します。



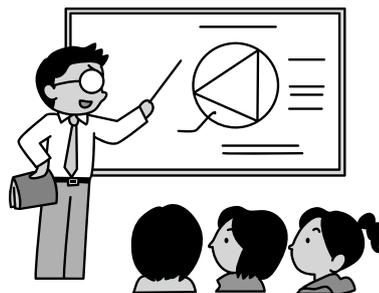
写真2 体験実習の様子



写真3 学科展示の様子



写真1 全体会の様子



90分授業と補習体制

教務主事補 逆瀬川栄一

H25年度から授業時間割が90分単位の時間割に変更になりました。具体的には昨年度までは、1単位時間が50分であることから50分単位の時間割を組んでいましたが、90分で2単位時間と取り扱うことができることから、今年度から90分単位の時間割となりました。これは放課後に補習等の学習指導を行う時間を確保することなどを目的として導入されました。昨年度までは、1日の最終授業の終了時刻は16時55分であり、放課後に補習等を行うことが難しい状況でしたが、この変更により、1日の最終授業の終了時刻は16時5分となり補習を行う時間が確保されたこととなります。そのほかにも、この変更によりクラブ活動等の時間に余裕が生まれ、学生が課外活動にこれまで以上に取り組むことが期待されます。

導入時の対応として、先生方には同じ科目の50分授業が週に2回あった場合、90分授業1回に変更するという対応をしていただきました。また、実習系科目などの一部の科目には45分単位の授業があり、授業交替の方法等について懸念事項もありましたが、大きな問題もなく導入することができたと考えており、教職員の皆様のご協力にお礼申し上げます。50分から90分に変更になった科目は1、2年生に多く、数学、物理、英語演習、国語等の科目が90分授業となりました。1年生にとっては長く感じられるかもしれませんが、数学では1回の授業の中で講義だけでなく演習を行うことも可能になり、良い学習効果も期待できると思いますので慣れてほしいと思います。なお、今年度は一部の科目に45分単位の授業がありましたが、来年度からほとんどの学科はすべての科目が90分単位に変更になり、授業交替時の問題も解決される見込みです。

次に、補習体制についてです。90分授業の導入により、4限の終了時間が16時5分になりました。そのため、教務委員会では放課後から17時までを補習優先の時間として位置づけました。これまで補習への参加については学生の自由意志に任せられていた部分がありましたが、今年度の後期から担当教員が指名した学生（クラス全員、特定の学生、複数クラスにわたる特定の学生等）は必ず補習に参加してもらうことになりました。学校としては入学した学生全員が、留年することなく進級し、卒業することを期待していますので、学生の皆さんは理解の足りない部分を補習等で十分に補い、教授されている内容を修得してほしいと思います。

中学校訪問

教務主事補 拜田 稔

高専の知名度向上と受験生を増やす目的も兼ねて、全教員で分担し、離島も含めて毎年秋に県内の中学校を訪問し、鹿児島高専の紹介を行っています。一方、夏休み前を中心に、5月から10月頃にかけて実施される高等学校説明会にも顔を出しています。

高専を熟知されているベテランの先生方には、くどい説明は不要ですが、中には熱心に話を聞いてくださる校長先生や進路指導の先生もいらっしゃいます。高専のことを知る先生が増え、中学生の進路選択の幅が少しでも広がれば、ささやかな社会貢献でもあるのかなと思います。

県内には小規模校が多いので、必ずしも訪問先の中学校に本校の受験を希望する生徒さんがいるわけではありません。しかし、何年かに一度、どうしても高専に行きたいという生徒さんが現れるようで、そういう生徒さんほど有意義な高専生活を満喫して卒業していくようです。

何年か前に入学した〇〇君は元気になっていますか、などと聞かれることもあります。訪問先の中学校から入学した学生の動向については、あらかじめ調べてから行きますが、それが中学校の先生の前任校の生徒さんの場合は、偶然授業や部活を担当したりして知っている場合は別ですが、返答に困る場合があります。何年たっても、よく覚えていらっしゃるものだなあと、感心させられます。

いろいろな地域の中学校に足を運んで、現場の先生方のお話を伺うことにより、本校の学生がどういう環境で育ち、どういう教育を受けてきているのかを垣間見することもできます。私自身も11月に甞島の中学校を訪問させて頂きました。のどかな環境でのびのびと育ち、元気に「こんにちは！」と挨拶してくれる生徒さんたちに迎えられ、全教員で見送って下さった学校もありました。ご多忙の中快く対応して下さい、頭の下がる思いがしました。

そういう温かい教育環境を巣立って入学してくれている学生たちの教育を担っているのだということを肝に銘じて、これからも学生たちと接していきたいと思えます。

平成25年度一年生集団研修報告

教務主事補 塚崎 香織

新入生 207 名は、学生会役員 20 名と教職員 13 名に引率され、まだ入学間もない平成 25 年 4 月 9 日（火）と 10 日（水）に、大隅少年自然の家に集団研修に出かけました。

行きのバスでは、クラス毎に乗車し、学生会役員を中心に、自己紹介などで盛り上がりました。

到着後、赤坂裕校長先生、教務主事の芝浩二郎先生、学生主事の白坂繁先生の講話がありました。次に、タイ鹿児島県人会会長の大山勝也氏に講演をしていただきました。現在タイ在住で、これまで国際社会で活躍してこられた大山氏のお話は大変興味深く、将来エンジニアとして世界に羽ばたく高専生にとって、国際社会の現状や心構えを学ぶ良い機会となったようです。ご多忙のところをわざわざ講演に来てくださった大山氏に、この場を借りて再度お礼申し上げます。

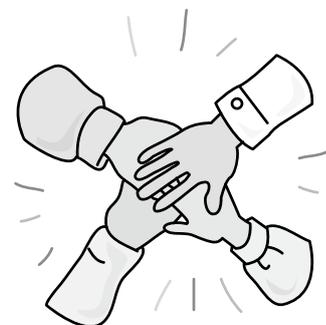
講演の後、野外活動では、班に分かれてスコアオリエンテーリングを行いました。制限時間内に課題をクリアするために協力することを通して、知り合ってもないクラスメートと、お互いを知り合う良い機会になったようです。結果は、制限時間ぎりぎりまで頑張った情報工学科の女子チームが見事優勝し、学生会が準備した賞品（お菓子）をもらっていました。（たくさんの賞品は、翌日帰りのバスの中で、クラス全員で山分け（!?) するほほえましい姿が見られました。）

楽しい夕食の後は、入浴と高専祭 DVD の放映、学生会役員と新入生との交流会が行われ、22 時に消灯しました。

2 日目は、学寮の起床よりもはるかに早い 6 時に起床し、各自洗面や班ごとにシーツの返却、部屋の清掃を行いました。7 時からの「朝のつどい」の後、2 班に分かれて朝食をとりました。

8 時半からは、学生何でも相談室長の松田信彦先生による「何でも相談室ガイダンス」、その後、都市環境デザイン工学科の山田真義先生による「地球環境問題」に関する講演がありました。

その後、プレイホールにて、学生会役員の指導の下、クラス対抗のドッジボール大会やレクレーションを行いました。特にドッジボールは大変盛り上がっていました。一泊二日の集団研修を通して、クラスメートや学生会役員との交流をしました。この交流がその後の学生生活の充実につながったのならば、大変嬉しいです。学生会役員のみなさん、1 年生の指導、ありがとうございます。





輪

学生主事 白坂 繁

2013年2月24日トルコの元機長オルハン・スヨルジョさんが亡くなった。享年87歳であった。

1985年3月17日イラクのフセイン大統領は「19日20時半以降はイランの上空を飛ぶすべての飛行機を撃ち落とす」と一方的な宣言を行った。近隣諸国の外国人は一斉に帰国した。が、日本人には脱出する飛行機が無かった。というのは、当時はトルコまでの直通便もなく、自衛隊も法律上出動できず、民間機を特別機として出す案も出されたが、当然、命の保障もなく飛ばせなかった。他国に逃げるにも、どの飛行機も自国民優先なので、日本人は乗せてくれなかった。残された日本人の命運は、まさに風前の灯であった。

このとき、2機のトルコ航空機が空港に舞い降り、日本人215人を救出しトルコへ離陸した。タイムリミット1時間15分前であった。

この飛行機の機長の一人がオルハン氏である。

なぜ機長は、トルコ政府は、命の危険もある行動に出たのだろう。

1890年9月16日和歌山県串本町の沖合でトルコ軍艦エルトゥールル号が座礁沈没した。串本町の住民は69人を救出（587名は行方不明）。町から非常用に蓄えていた食料が無くなるほど献身的に保護した。

日本人を救ったのは、このときの恩返しだという。

「情けは人のためならず」とは、巡り巡って自分のためになるという意味だが、人の関係、人間の命運は他人と関わっている。どこでどう繋がっているかは、わからない。自分に記憶がなくても他人は覚えている。おそらく、大きな螺旋状の輪があって、そこを歩くのが人生なのだろうと思うこともある。

何かの縁があって現在鹿児島高専で関係を持っている。これはここで終わる関係ではない。長いスパンで影響してくる関係だと思う。目先の小さな関係や私欲に走ってはいけない。世の中にはもっと、もっと大きな関係がある。

お互い、誠実に、真摯に向き合い、お互いを尊重して生活してほしい。それが学校生活を、学校をよくすることにつながる。

奇しくも、今年の世相を表す漢字は「輪」であり、2020年のオリンピックは東京と決まったが、トルコのイスタンブールもその候補地であった。ここにも何かの関係があったのかもしれない。

文化祭を終えて

文化祭実行委員長

電気電子工学科4年 平石 凌聖

私は、先輩に誘われ2年生の頃から文化祭実行委員として活動していました。2年、3年の頃は、仕事も何をすればいいのかわからず、先輩の言うことをただ聞くだけでした。そして仕事も良く分らないまま文化祭実行委員長をすることになり、私に実行委員や全校生徒をまとめることが出来るか不安でした。5月から月に1回話し合いをしていったのですが、どの仕事から進めていけばよいか分らず前任者の澁谷さんに、分らないことは聞きながら少しずつ進めていきました。最初の頃は、話し合いすらも上手く進めることができず、そこで改めて、人の上に立つ難しさを知りました。しかし先生方の助けもあり、例年より1週間早く準備を進めることで、焦ることなく準備が進められました。1番大変だったことは、隼人中学校にテントを借りることです。やはり、人の物を借りて使うということは、それだけ綺麗に使わなければならない、借りたときと同じ状態で返すことが出来るように努力しました。テントのたたみ方も覚え、幕をたたむときは雑巾で拭き、文化祭の準備・片付けを通して1番頑張りました。文化祭準備の日には、風が強くて、テントの幕を全てはずして当日を迎えることになりました。また、台風の心配もされました。しかし当日は、日頃の行いが良かったのでしょうか、雲1つない快晴でした。私は司会もすることが出来、大きなトラブルもなく、無事文化祭を終えることができました。こうして文化祭実行委員長をさせていただき、いろいろと苦労しながらも無事成功したことは、自分にとってとても大きく、大きな自信となりました。これからの私の人生において、大きな財産となるでしょう。先生方をはじめ、私をサポートしていただいた全ての方々に感謝したいです。来年は5年生となり、サポートする立場になるので、今年の経験を活かして後輩たちをしっかりとサポートしていきたいです。

体育祭を終えて

電子制御工学科4年 二見 隼人

“ファイトーファイトーこーせんっ。あつしたー” 実行委員長としての最後の仕事を終え、わたしは、充実感に浸っていました。

平成25年10月27日。第51回体育祭は学生の日頃の行いがいいのか、快晴の中、行われました。この日を迎えるにあたって、「学生のための体育祭」「みんなで作る体育祭」を目標に掲げ活動しました。活動の中、様々な苦難困難がありました。カリキュラム変更に伴い例年より体育祭までの日数が短かったこと。ラジオ体操をしかりすること。台風のこと。計画書作成に追われること。竹焼きのこと。私が頼りないため、学生をまとめられないこと…などなどたくさん苦労しました。また、実行委員が教職員と学生の架け橋となりたかったのですが、意見が食い違い衝突することもありました。思うように進まない現実と、千人の学生の想い、自分の無力さ。何度も実行委員長という重みから逃げ出したくなりました。

そんな私を実行委員のみんな、応援団幹部のみんな、櫓絵隊長、先輩方、先生方、学生課のみなさん、たくさんの人にたすけてもらいました。すごく助かりました。ありがとうございます。皆さんに助けてもらったおかげで「51回体育祭」を成功させることができました。というより、みんなで「体育祭」を作ることが出来ました。

ところで、来年の4年生の皆さん!!!来年はあなたがたが、学校を引っ張っていきます。楽しいこともあれば苦しいこともあります。たまには友人間で衝突することもあるでしょう。それでもひたむきに、がんばってください。悔いの残らないようにしてください。妥協しないでください。そうしたら、4年生の体育祭は一生忘れられないとても楽しいものになると思います。来年の体育祭も楽しみにしています。

最後に実行委員長の仕事を通して、私はたくさんの人に支えられていることをとても実感しました。困っているとき助けてくれる友達、親身に相談に乗ってくださった先生方、学生課の皆さん。毎日騒音で迷惑をかけました近隣住民の方々。自分達のががままを聞いてくれる親…。皆さんのおかげで、私は最高に楽しい1日を過ごすことができました。ありがとうございました。



東京国体

電子制御工学科3年 中島 亮

「国体で入賞する！」

それが自分の目標でした。この目標をはっきりさせたのは、中学2年生の頃でした。何が自分にその目標をもたせたのかという先輩という存在です。

自分は小学6年生の頃から、平川で活動している鹿児島ジュニアヨットクラブに所属しています。そのクラブにいる先輩には、世界大会に出場し入賞している先輩や、インターハイで入賞する先輩など尊敬出来る先輩方が沢山います。

そういった先輩方は、小学校低学年の頃からヨットを始め沢山の大会に出場し経験を積んでいます。そういった先輩方の存在が“自分もいつかこうなりたい”と自分の目標になりました。

しかし、自分が中学1年の頃に初めて出場した全日本大会で全国のレベルの高さを痛感しました。その結果、入賞はおろか100位以内にも入らないレベルの違いでした。

そこから、レベルの高い人の動きを見ては自分のものにしていくという練習の日々でした。その成果もあってか、中学3年のときに出場したJOCジュニアオリンピックカップでは、準優勝することができました。この時から“国体で入賞する”という目標が明確になってきました。

そして、高専1・2年の頃、山口国体・岐阜国体に出場。結果は、21位・15位でした。内容としては満足はいくものではなく、目標とは程遠いものでした。国体終了後色々と考えてみると敗因は“体力不足”でした。

今年、少年男子としては最後の東京国体でした。山口県の光や唐津に遠征に行ったり、鹿児島で行う練習も例年に比べ多くやりました。その結果、国体の前哨戦でもある九州インターハイでは、完全優勝することができ、国体に向けての準備は万全の状態でした。そのおかげか、レース直前になっても緊張することなく、冷静な判断で自分の思うベストな走りができたと思います。

結果は4位入賞と目標を達成することができました。小学生の頃からの努力がついに実ったので表彰台に登ったときの感動は、今まで味わったことのないものでした。

国体を通して、何事も事前に十分な準備をすることで、余裕を持って挑めることを再確認しました。ここで学んだことを今後活かしていきたいと思います。

最後に、このような結果を出せたのも、コーチを始めサポートしてくれた両親、練習相手になってくれた友人のおかげだと思います。ありがとうございました。



スタート風景



練習風景



都城・鹿児島高専親善試合結果

平成25年5月11日(土)

鹿児島高専会場

競技種目	試合結果		
陸上	総合点	都城	(152 - 175) ○鹿児島
硬式野球	第1試合(4・5年)	○都城	(8 - 5) 鹿児島
	第2試合(低学年)	都城	(0 - 2) ○鹿児島
男子バレーボール	第1試合	都城	(23 - 25) ○鹿児島
	第2試合	都城	(22 - 25) ○鹿児島
女子バレーボール	第1試合	○都城	(25 - 11) 鹿児島
	第2試合	○都城	(25 - 14) 鹿児島
卓球	◆ 団体戦		
	第1試合 A	○都城	(3 - 1) 鹿児島
	第2試合 B	○都城	(3 - 0) 鹿児島
	第3試合 C	都城	(2 - 3) ○鹿児島
	第4試合 D	○都城	(3 - 0) 鹿児島
	◆ 個人戦	1位	木村 匠吾 (都城)
		2位	大平 拓巳 (鹿児島)
		3位	五反田浩志 (鹿児島)
		3位	大重 哲也 (鹿児島)
	テニス	◆ 男子団体戦	
第1試合		都城	(1 - 2) ○鹿児島
第2試合		都城	(1 - 2) ○鹿児島
第3試合		都城	(1 - 2) ○鹿児島
柔道	◆ 団体戦		
	第1試合	都城	(2 - 4) ○鹿児島
	第2試合	都城	(2 - 2) ○鹿児島
弓道			※内容差で鹿児島高専の勝ち
	◆ 男子団体戦		
	第1試合	都城	(6 - 10) ○鹿児島
	第2試合	都城	(8 - 10) ○鹿児島
	◆ 女子団体戦		
	第1試合	○都城	(5 - 2) 鹿児島
	第2試合	都城	(2 - 4) ○鹿児島
	◆ 男子個人戦	1位	中村 亮太 (鹿児島)
		2位	早川 光 (都城)
		3位	川崎 康汰 (都城)
◆ 女子個人戦	1位	七夕 萌 (鹿児島)	
	2位	椎屋 彩音 (都城)	
	3位	武田 夏菜 (都城)	

都城・鹿児島高専親善試合結果

平成25年5月11日(土)

都城高専会場

競技種目	試 合		結 果	
サッカー	第1試合	A 都城	(1 - 6)	○ 鹿児島 A
	第2試合	1年 都城	(1 - 2)	○ 鹿児島 1年
	第3試合	総合 都城	(2 - 5)	○ 鹿児島 総合
	第4試合	B 都城	(0 - 3)	○ 鹿児島 B
ハンドボール	第1試合	都城	(11 - 12)	○ 鹿児島
	第2試合	○ 都城	(16 - 13)	鹿児島
	第3試合	都城	(10 - 14)	○ 鹿児島
	第4試合	○ 都城	(8 - 5)	鹿児島
男子バスケットボール	第1試合	都城	(57 - 61)	○ 鹿児島
	第2試合	○ 都城	(88 - 37)	鹿児島
女子バスケットボール	第1試合	○ 都城	(36 - 14)	鹿児島
	第2試合	○ 都城	(22 - 20)	鹿児島
バドミントン	第1試合	都城	(0 - 3)	○ 鹿児島
	第2試合	都城	(0 - 3)	○ 鹿児島
	第3試合	都城	(1 - 2)	○ 鹿児島
ソフトテニス(男子)	第1試合	都城 A	(0 - 3)	○ 鹿児島 A
	第2試合	都城 B	(0 - 3)	○ 鹿児島 B
	第3試合	都城 C	(0 - 3)	○ 鹿児島 C
	第4試合	都城 A	(0 - 3)	○ 鹿児島 A
	第5試合	都城 B	(0 - 3)	○ 鹿児島 B
	第6試合	都城 C	(1 - 2)	○ 鹿児島 C
ソフトテニス(女子)	個人戦 1位 小村・井上(鹿児島) 2位 加治・津之地(鹿児島)			
剣道	第1試合	○ 都城	(7 - 1)	鹿児島
	第2試合	○ 都城	(3 - 0)	鹿児島
	第3試合	○ 都城	(3 - 0)	鹿児島
	第4試合	○ 都城	(3 - 1)	鹿児島
	第5試合	○ 都城	(3 - 0)	鹿児島
水泳	競泳の部	都城	(242 - 292)	○ 鹿児島
	水球の部	都城△	(55 - 55)	△ 鹿児島
	総合	都城	(297 - 347)	○ 鹿児島

第50回（平成25年度）九州沖繩地区国立高等専門学校体育大会等 結果一覧

H25

種目	成績			団体戦			個人戦		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位
陸上競技	佐世保高専	有明高専	鹿児島高専	男子100m: 中俣朋也 男子4×100mリレー: 馬場・中保・江口・大藪	男子走高跳: 大藪晃平 男子三段跳: 馬場裕史	男子200m: 中俣朋也 男子1500m: 重田達哉 男子5000m: 山崎翔平 男子走高跳: 谷口雅一 男子走幅跳: 竹之内愛斗 男子やり投: 前川 寛齊			
ソフトテニス	鹿児島高専	大分高専	佐世保高専	男子: 米徳・太田	男子: 小玉・今村	女子: 小村・井上			
バドミントン	北九州高専	熊本高専(熊本)	都城高専						
水泳	熊本高専(八代)	佐世保高専	鹿児島高専	男子100m背泳: 鶴田瑠威	男子200m背泳: 西川央哲 女子100m平泳ぎ: 黒田葵				
ハンドボール	有明高専	北九州高専	鹿児島高専						
硬式野球	熊本高専(八代)	大分高専	北九州高専						
バスケットボール(男子)	北九州高専	久留米高専	都城高専						
バスケットボール(女子)	沖繩高専	有明高専	沖繩高専						
卓球	北九州高専	有明高専	熊本高専(熊本)						
剣道	北九州高専	都城高専	有明高専						
サッカー	鹿児島高専	熊本高専(八代)	北九州高専						
柔道	有明高専	熊本高専(熊本)	久留米高専	男子90kg以下級: 市来彰悟 男子90kg超級: 松元明					
バレーボール(男子)	鹿児島高専	佐世保高専	都城高専						
バレーボール(女子)	都城高専	佐世保高専	北九州高専						
テニス(男子)	佐世保高専	鹿児島高専	都城高専						
弓道(男子)(西日本地区)	鹿児島高専	熊本高専(八代)	阿南高専			豊留龍也			
"(女子)(西日本地区)	阿南高専	宇部高専	松江高専			瀧脇貴子			
空手(西日本地区)	鹿児島高専	熊本高専(熊本)	大分高専	男子個人形: 宇崎 滉太	女子個人形: 帖佐 そよ香	男子個人組手: 今村 優希			

※網掛け表示は、全国大会出場者

(敬称略)

◎第48回全国高等専門学校体育大会

(1) サッカー

開催日：平成25年8月17日(土)～20日(火)

会場：宮城スタジアム他

結果：優勝

(2) 陸上

開催日：平成25年8月18日(日)～19日(月)

会場：いわき陸上競技場

結果：男子 100m 予選敗退

男子 200m 予選敗退

男子1500m 9位

男子5000m 7位

男子4*100 4位

走高跳 3位、18位

走幅跳 17位

やり投げ 10位

(3) ソフトテニス

開催日：平成25年8月21日(水)～22日(木)

会場：仙台市泉総合運動場泉庭球場他

結果：団体の部(男子)予選リーグ敗退

個人の部(男子)初戦敗退、2回戦敗退

(4) 男子バレーボール

開催日：平成25年8月24日(土)～25日(日)

会場：一関市総合体育館

結果：予選リーグ敗退

(5) 柔道

開催日：平成25年8月24日(土)

会場：宮城県立武道館

結果：個人戦90kg以下級：初戦敗退

個人戦90kg超級：初戦敗退

(6) テニス

開催日：平成25年8月28日(水)～30日(金)

会場：いわき市平テニスコート他

結果：団体戦男子：2回戦敗退

個人戦男子ダブルス：初戦敗退

(7) 水泳

開催日：平成25年9月1日(日)

会場：秋田県立総合プール

結果：男子背泳ぎ100m 予選敗退

男子背泳ぎ200m 7位

女子平泳ぎ100m 8位

◎第35回全国高等専門学校通信弓道大会

開催日：平成25年7月6日

会場：三股町菅弓道場

結果：男子団体 3位

女子団体 3位

男子個人 優勝 今村

◎第68回国民体育大会(スポーツ祭東京2013)

開催日：平成25年7月6日

会場：江東区若洲海浜公園

結果：少年男子シーホッパー級スモールリーグ4位

中島

◎第46回九州沖縄地区国立高等専門学校

英語弁論大会

開催日：平成25年8月23日

会場：北九州工業高等専門学校

結果：弁論の部 3位 前野

◎高専ロボコン2013九州沖縄地区大会

開催日：平成25年10月6日

会場：八代市総合体育館

結果：技術賞

鹿児島高専Bチーム(全国大会出場)

特別賞(田中貴金属グループ)

鹿児島高専Aチーム

◎高専プロコン2013

開催日：平成25年10月13日、14日

会場：旭川市民文化会館

結果：競技部門 3位

福永、前田、小永吉

(電子・情報・システム研究部)

◎高専デザコン2013・3次元デジタル設計造形コンテスト

開催日：平成25年11月9日、10日

会場：米子コンベンションセンター

結果：優秀賞

西迫、富山、東(機械工学科5年)

◎高専英語プレコン2013

開催日：平成26年1月25日、26日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

結果：プレゼンテーションの部 準優勝

室屋、川俣、高見(英語部)



学生表彰者リスト

◎文化賞

大会名	学年・氏名	成績
平成24年度土木学会西部支部研究発表会	土木工学専攻1年 草原 大貴	優秀講演者賞
日本機械学会九州学生会第44回学生員卒業研究発表講演会	機械・電子システム工学専攻1年 堤 亮太郎	優秀講演賞
第46回九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会	情報工学科4年 前野 結衣	弁論部門3位
平成25年度鹿児島県高等学校英語スキット・弁論大会	都市環境デザイン工学科2年 佐藤 さらい	準優勝
夢のマイルームコンテスト (主催：中央工学校)		奨励賞
木のあふれる街づくり事業 (鹿児島県公募事業)	都市環境デザイン工学科3年 村田 茉優	当選
隼人錦江スポーツクラブ自販機デザインコンテスト		入選
鹿児島工業高等専門学校創立50周年記念メモメントコンテスト	都市環境デザイン工学科4年 佐藤 結希	当選
3rd Asian Conference on Engineering Education	機械工学科 5年 葛岡 翔輝	ベストプレゼンテーション賞
第7回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト：プレゼンテーション部門	情報工学科5年 室屋 知佐	準優勝
	情報工学科4年 川俣 悠香	
	都市環境デザイン工学科4年 高見 誠也	
第16回校内英語暗唱大会	都市環境デザイン工学科1年 村田 誠也	優勝
	電子制御工学科1年 有川 竜馬	準優勝
	機械工学科1年 下和田 悠生	3位
	都市環境デザイン工学科1年 片平 耀款	3位
	電子制御工学科1年 田中 佑実	5位
第11回作文コンクール・読書感想文の部	都市環境デザイン工学科2年 上菌 亮達	特選
	機械工学科1年 田之上 怜央	入選
	都市環境デザイン工学科2年 中村 友哉	佳作
第11回作文コンクール・小論文の部	機械工学科2年 重久 直矢	特選
	電子制御工学科2年 岩崎 惇	入選
	情報工学科2年 内大久保 由季	佳作
	電子制御工学科2年 中野 一志	佳作
	情報工学科3年 車 張誠	佳作
	機械工学科1年 西 凌太郎	佳作

学生表彰者リスト

◎特別賞

※学生の模範として表彰に値する者を表彰

功 績	学年・氏名
第2種電機主任技術者国家試験合格 (2013年) 第3種電機主任技術者国家試験合格 (2012年)	電気電子工学科5年 脇 蕉太
第3種電機主任技術者国家試験合格 (2013年)	電気電子工学科3年 上村 泰広

◎平成25年度 学習到達度試験成績優秀者一覧

	学 科	氏 名		学 科	氏 名
1	機械工学科	桐木平 起大	8	電子制御工学科	下野 晃輝
2	機械工学科	國司 拓也	9	電子制御工学科	バリ ママドゥテリ
3	機械工学科	東 雅人	10	情報工学科	稲富 紘志郎
4	電気電子工学科	伊東 拓真	11	情報工学科	瀬戸口 寛明
5	電気電子工学科	内山 雅基	12	情報工学科	田代 光
6	電気電子工学科	上村 泰広	13	情報工学科	福永 彬
7	電気電子工学科	森 広大	14	情報工学科	前田 哲志



原点回帰

寮務主事 堤 隆

五年間の一貫教育を掲げて昭和37年に生まれた高専制度。しかしながら、日本の教育制度の大半は6・3・3年に分けられており、その前半は初等教育、後半は中等教育と呼ばれています。高専は大学と同じ高等教育に分類されていますが、後期中等教育と同じ学齢の学生を抱えていることから、学寮での指導の方針は自ずと大学とは異なるべきと考えています。

一年生を原則全寮制としている本校において、一年生に対する寮での教育の成果が学生個人の将来の可能性を、ひいては学校全体の質を左右することになることを肝に銘じ、今春寮務主事を拝命しました。さしあたって、「学習の習慣の確立」と「身だしなみ」を今年の活動方針としました。

まず、学習の習慣の確立を目指して、1年生に対し入学直後から前期中間試験前の学寮チュートリアルが始まるまでクラスごとに日替わりで多目的ホールでの集合学習を課しました。中学生の時は学習塾で学力をつけてきた人が多いと思います。しかし、高専のカリキュラムに合わせた学習塾などどこにもなく、授業を中心に自ら予習あるいは復習すること以外に学力を獲得する術はありません。その術を身に着けることを目的にした集合学習です。

次に、身だしなみについて述べることにします。昨年1月に寮生会役員2名とともに東海地区にある高専の寮を視察させていただきました。寮生会同志の意見交換などもあり、双方が抱える問題点なども出されました。「ひどい服装で登校する人はいるけど、さすがにスウェット姿はいないよね」という先方からの意見に対して、我々3名は愛想笑いで応えましたが…。それほどまでに身だしなみについては他校との意識の違いがあることを理解してください。このことがきっかけで寮生会役員から寮生へ語りかけてくれたお蔭で、少しずつ身だしなみに関する意識が改善されたように感じます。「他人に不快な思いをさせない気遣い」はやがて自分の身を助けます。洗練された振る舞いは社会への入り口や職場で諸君を引き立たせてくれることでしょう。

もちろん、寮のよい伝統は堅持されています。寮生マッチ、あいさつ運動、七夕パーティなど寮生諸君は寮ならではの青春を謳歌しています。9月より女子寮が改修工事に入り、工期の間の定員減のため約50名の寮生に自宅通学をお願いしました。多くの寮生になかなか応じてもらえなかったのは正直困りましたが、寮生活を肯定してもらっていることのあかしでもあり、嬉しく思いま

した。「学力の向上」と「しつけ」、これらは教育寮における指導の原点であり、これからもスタッフ一同全力で取り組みます。

寮生会より

電気電子工学科4年 東 晃司

年内余日なく、この一年はどんな年だったでしょうか。私は昨年度の2月に点呼の改善を目標に、寮長に就任しました。昨年度までの朝点呼は、7時10分にグラウンドに整列し点呼を取るというものでしたが、今年度の6月から朝礼があるとき以外の朝点呼は、班員が7時00分に自室の前に整列し、班長がそれを確認するという方法に変更しました。これにより、朝点呼の不在者の数を大幅に減らすことができました。また、朝点呼後の食堂の混雑も改善され、朝の時間をより有効に使えるようになったのではないかと思います。

昨年度問題になりました班長業務不履行についてですが、今年度は前期と後期の始めに班長を集め、点呼の取り方について研修を行いました。私は朝の点呼を担当していますが、昨年度に比べて班長業務不履行の数を減らすことができたので、研修の成果があったのではないかと思います。来年度の目標としては班長業務不履行をなくすことです。私たちは目標に向かって試行錯誤、策を練りながら改善に向かっていきたいと思いますのでご協力ください。

さて、6月にはリーダー研修会が行われました。今回は寮生会役員と班長を集めて、意見交換をするというものでした。今年度に第7志が設立されましたが、そのシャワー室にマットとラックを設置して欲しい、寮の浴場の椅子の数を増やして欲しい、洗濯機を消灯後にも使えるようにして欲しいなど、班長たちから意見が出てそれを寮生会がまとめて、寮務に提出しました。まだ不十分だった寮の設備を寮生の意見から充実させていくといったこの研修は、志学寮の目的である主体性、積極性といったものを大きく成長させたと思います。

今年度は、第7志の設立や女子寮の取り壊しなどで今までの寮の制度、設備では対応できないことが多くありましたが、臨機応変に対応することができたと思います。

最後に、寮生会役員ならびに班長、親身に相談に乗ってくださった寮務の方々、ありがとうございます。残り少ない任期ですが、お世話になった志学寮のため、1つでも多く貢献できるよう尽力させていただきます。

一年生集合自習

寮務主事補 嶋根 紀仁

平成25年度からの新しい試みとして、一年生が学科ごとに学生寮の多目的ホールに集まり、当直教員のチェックの下で、自習する機会を設けました。

義務教育機関で教わっている生徒と異なり、高等教育機関で学ぶ学生にとっては自ら学ぶ姿勢が必要であるにもかかわらず、学習習慣が十分に身につけていないのではないかとと思われる学生が年々増えているように感じられます。

堤寮務主事は、新入生について、学習塾などで学力を獲得し本校に入学しましたが、入学後は学習に関して放置されたような状態になり、自己の学習のスタイルが確立されないまま成績不振に陥る学生数が従前にも増しているように見受けられるとの感想を述べ、さらに、一年生が原則全寮生である本校の特徴を生かし、学生寮において何か対策を設けることができるのではないかと述べています。

従来は、毎日設けられている20時から23時までの自習時間のうち、翌日に学校のある日の20：00から21：20までの80分間と22：00から23：00までの60分間を完全自習時間と定め、当直教員が管理当直の一環として寮内を巡回する間に自習チェックを行ってきましたが、寮生1人あたりが当直教員の目に触れる時間が少なく、自己の学習のスタイルが確立されていない新入生が学習習慣を身につけるには十分ではなかったとも考えられます。

そこで、新入生に対して自習方法の案内を行い、学科ごとに多目的ホールに集めて自習チェックを行うことにより、管理当直とは言え教員の目が届く時間が多くなり、新入生が学習習慣を身につける支えになるのではと考え、一年生集合自習を実施しました。

新入生に対する自習方法の案内は、芝教務主事および塚崎教務主事補に相談の上、週時間数の多い英語と数学を例に行いました。英語については、従来から授業の初めに学習方法の案内を行っていたとのことから授業において、数学については、集合自習の案内もかねて多目的ホールにおいて行いました。

一年生集合自習は、前学期は新入生に対する自習チェックの強化として、4月15日（月）から中間試験の学寮チューター制度が始まる前の5月23日（木）まで、各学科4巡で行いました。始めの2巡は週時間数の多い英語と数学に科目を指定し、終わりの2巡は寮生各自が学校の座学から自習内容を選んで行いました。平日の完全自習時間の前半20:00から21:20までの80分間、機械工

学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科、都市環境デザイン工学科の順に一日1学科の一年寮生が多目的ホールに自習道具を持って集まり、当直教員2名が分担して自習チェックを行いました。また、当直教員が多目的ホールにおける自習チェックを行っている間の他の寮生の自習チェックは、寮の舎監2名が生活指導の一環として行っています。後学期は一年生に対する自習チェックの強化として、高専祭後の10月29日（火）から中間試験の学寮チューター制度が始まる前の11月14日（木）まで、各学科2巡、前学期と同様の方法で行いました。

前学期の一年生集合自習期間は寮務主事補が交代で待機していましたが、多目的ホールに集まった一年生もまじめに自習に取り組んでいるようであり、また、当直の負担が大きく増えることもなさそうであった。以降の一年生集合自習は当直と舎監の通常体制で問題なく実施できそうである。

また、当直教員が多目的ホールにおける自習チェックを行っている間の他の寮生の自習チェックについて、日頃から親身になって生活指導を行っている舎監が、意欲的に全寮室を回り、自習チェックだけでなく寮生に寄り添った指導も行い、寮生が落ち着いて学習できる環境ができて来ているようである。

一年生集合自習期間中の当直日誌を通じた意見によると、自習の集中力が80分は続かない一年生が少なくはないようである。完全自習時間を含めた寮の日課の見直しの必要性を示唆している。

さらに、一年生集合自習中は、管理当直による自習チェックだけでなく、当直教員や数名の担任や非常勤を含む当直教員以外の教員のボランティアにより学習指導や学習支援が行われることもあり、一年生が学習習慣を身につけるための有益な機会となっていました。これは寮における寮生に対する学習支援の可能性を感じさせる事例であり、一部教職員のボランティアに頼らない、学習支援体制の構築ができるか検討の必要性を示唆している。

最後に、一年生集合自習は、効果が数値として表れるものではないが、寮生が学習習慣を身につけるために効果があったとの印象が受けられます。また、始めたばかりで改善できる点も多々ありますが、来年度以降も継続可能な対策だと考えられます。

自己紹介

志学寮 舎監 山崎 逸郎

平成25年4月より志学寮の舎監として勤務させていただいております。

前職は鹿児島県警に42年間、イオンモール鹿児島に5年間勤務しておりました。

イオンは県警を平成20年3月に定年退職する際、再就職先として紹介をいただき5年間という期限つきで勤務しました。

イオン勤務最終年の秋「鹿児島高専で寮を新たに増築し、それに伴い舎監1名を増員する」という話を聞き、県警在職中に警察学校の教官として勤務したこともあり、全寮制の警察学校で寮生活の指導経験があったことから、応募し今回採用されることになりました。

長く勤務した県警での勤務歴は、警察学校を卒業すると警察署で勤務することなくすぐに「機動隊」に配属され、機動隊本来の勤務の傍ら県警の柔道特別訓練員として、国体や全国・九州警察官大会などに出場しました。この間の一番の思い出は昭和47年に本県で開催された太陽国体において成年男子で準優勝し、柔道競技総合でも優勝したことです。減量や休みのない苦しい練習の成果が実を結んだことが大変嬉しいでした。

選手を引退後は、「警察学校」で教官として3回通算11年間勤務しました。柔道・逮捕術・体育などの授業を担当し、警察官の体力・気力の養成と向上に努めました。また公務として寮生活を含めた生活指導を担当し躰教養も行いました。現在県警に勤務する30歳後半から40歳台の警察官のほとんどが教え子です。この警察官の中には鹿児島高専の卒業生も数人おり、特に私が新米教官1年目の昭和62年に拝命した2人の高専卒の警察官は、今では県警の中核として刑事・交通部門で活躍しています。この優秀な2人の警察官が青春を過ごした鹿児島高専志学寮とは、どんなところだろうかと興味があったのも今回舎監に応募した理由のひとつです。

長かった警察人生の中で警察署勤務は2回6年間しかなく、「鹿屋警察署」と奄美大島の「瀬戸内警察署」で勤務しました。

その他は、「警察本部教養課」で勤務しましたが、県警を退職する7年前に身分を警察官から技術吏員に切り替え「術科師範」として勤務し、警察官の術科技能の向上を図るため柔道・逮捕術・救急法などの指導を主に行いました。また、かつて自分が若い頃選手としてやってきた柔道特別訓練員の指導も併せて行いましたが、その間選手達がよく頑張り平成16年には第三部でしたが、全

国警察柔道大会で県警有史以来の優勝をなしとげ、翌平成17年には個人戦でも55年ぶりの警察日本一の選手が育つなど術科師範冥利に尽きる喜びを味わせてもらいました。

志学寮の舎監として勤務させていただきすでに半年以上が過ぎました。ベテランの川井田さんがテキパキと仕事をこなされるのに比べ、まだまだ右往左往しているような状況で、皆さんに色々とお迷惑をかけていることと思っています。川井田さんの域に早く近づけるよう頑張りたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

それでも汚い部屋が良いのか？ (整理整頓と人格形成)

志学寮舎監 川井田 一郎

寮生には、整頓の上手い人と、下手な人がいる。

上手い人の部屋には入ってみて気持ちがよい。

下手な人の部屋でも、整頓しようとする努力が見える部屋と、全く努力していない部屋があり、後者の部屋には入るのすら躊躇するほど不快である。

舎監に上番して、丸7年にならんとする昨今、延べ1700名以上の寮生の整頓状況を見てきた事になるが、結論から言うと、良きにつけ悪きにつけ、須く整理整頓は個人個人の身に付いた人格の一部であり、一旦付いてしまった悪い習癖は、“これを自発的に改めさせる”のはほぼ不可能に近いと言うことであろうか。

この現実的な結論に鑑み、今年是小生の寮生講話を1学年の入学後日の浅い、入寮一ヶ月半しか経っていない5月中旬に計画・設定していただいた。

声を大にして、起床時のベッドや布団の簡便な整頓の仕方・寮室内の物品の整理整頓の方法・机や本立ての利用の仕方を説明し、展示・実演入りで、やって見せる印象教育法を駆使し、“整理整頓の上手い寮生に成る”ことを切望した。

この結果は、寮生講話を12月に行っていた例年に比べ、講話直後の効果には格段の差異が現れた。というのは悪習慣の付く前の、殆ど白紙状態の1学年にとっては、“アッ、そーか！あのようにすれば良いのだ！”という印象が強かったであろうし、2年生以上の学生にとっても、やり方を再度思い出させる効果があったのであろう。

…がしかし、それから半年経った昨今、各部屋を廻ってみると、上級生の部屋はおろか、1学年の部屋すら

も、あの5月の講話直後が懐かしくさえ思われる様な、哀れな状況が現出している…という嘆かわしい現実なのだ。

高専入学は中学校卒業の15歳である。少子化の昨今、家庭で大切（過保護？）に育てられた子供達は、部屋の掃除・洗濯・洗濯物の整理整頓・ベッドの整理…等々とは全く無縁の世界で成長させてもらった者が大半であろう。

家庭における躰として、上記の行為を自分でこなしてきた経験が有れば問題は無い。要は、上記日常の躰行動を自分自身でやることなく、母親任せのままで甘えて育ち、且つそのまま、全くの準備無しで高専寮に入寮してきた学生達の、家庭での躰不在がこの問題の原点にあるわけだ。

さらに言えば、整理整頓の習慣を自分自身の人格の一部にするため、繰り返し繰り返し訓練して、条件反射的な行動になる域にまで達していないと、半年も経つとすぐに崩れてしまう事が分かる。

では、志学寮における整理整頓の習慣化の為の方策は？という、上級生の活模範による毎日の継続指導が一番なのだが、これがまた残念なことに、ごく少数の上級生を除いては、求められるべくもない夢のまた夢…というのが悲しい現実。

と言うことで、舎監の夜毎の巡回指導となるわけだが…。

高専卒業後、一流の技術者を目指す若者達よ！

整理整頓は技術者の世界においては必要最低限の素養である！

技術者として秩序立った、整然とした思考回路の醸成は、常日頃からの訓練の賜物であり、それは一朝一夕には身に付かない事は明らかである。

そのスタート台に立つ寮生は、まず第一歩として日頃の寮生活における身近な整理整頓という行動を通して、早くからその最低限の資質の習慣化をはかっておかねばならない。

逆に言えば、寮生活を利用して、その資質を早期に身に付けることが出来れば、それが必ず将来の技術者人生における、技術・精神の両面における宝に成ると言うことを自覚する事が最も大切なのである。

整理整頓が出来ないと言うことは、整理整頓“する気があるのか無いのか”というのが問題なのではない。整理整頓“しようと考えなくても体が動く”という習慣が身に付いていないという事が極めて重大な問題なのである。

つまり、言い換えれば、技術者としての基本的な素養を欠いた人間に育ちつつあると言うことであり、極言すれば、技術者として致命的な欠陥人間に成りつつあると言う事なのである。

従って、この素養を欠いたままの状態を将来技術者と

して大成するには、整理整頓が出来ないという基本素養の無さを凌駕して余りある別途の素養を身につける必要があることになり、その分だけ余分な、より大変な努力を要求されることになるのですよ。

以上、長々と述べた、このもっともらしい“屁理屈”が、寮生活に整理整頓を要求される理由なのだと、少しでも理解・納得できた人は、早速、今すぐに整理整頓を始めようではありませんか！

小生の話には毎回出てくる島津日新公の薩摩いろは歌のその第一

“古の道を聞いても唱えても我が行いにせざば甲斐無し”です。

今すぐ始めましょう。

そして毎日やりましょう。

3日間は苦痛の連続でしょう。

それでもじつところらえて、10日間やれば、整頓された環境が少し快適に感じられるようになり、3週間続ければ、整頓しないと気持ちが落ち着かなくなる。

更に、3ヶ月経つと、黙っていても気が付いたらいつの間にか整頓出来ている、と言うレベルに達すること請け合いです。

いわゆる条件反射の域に達した訳です。

こうして優秀な技術者としての第一歩が開けていくのです。

継続は力なのです。

さあ、時は今！

今すぐ第一歩を踏み出しましょう。

…と言うわけで、白髭のブースターが必要な寮生は、遠慮無く申し出られたし。

いつでも喜んでお手伝いしますよ！

以上

(平成25年11月27日 記す)



寮生の健康状態について

寮母 久木田和子 寮務係主任 田畑 優子
寮務主事 堤 隆

平成25年の新学期が始まってから12月12日までの休養室利用者(体調不良を訴えてくる寮生)は300名を数えます。月別の利用者数を図-1に示します。

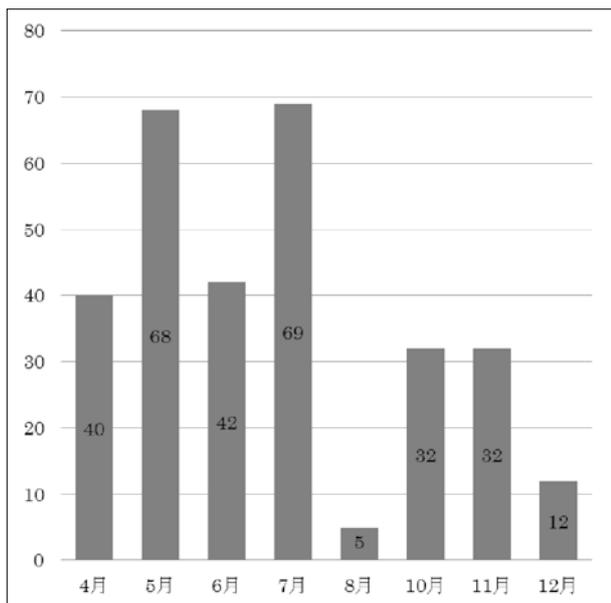


図-1 平成25年月別の休養室利用者

4月では利用者40名中12名、5月では68名中14名からインフルエンザの報告を受けました。インフルエンザの罹患を報告していない寮生の多くも発熱と頭痛を訴えています。6月に入りインフルエンザの報告はなくなり、発熱と頭痛を訴える寮生数も減ってきています。寒い時期に猛威を振るうと思われるインフルエンザ対策は暖かくなった時期でも必要のようです。7月に入り、再び発熱と頭痛を訴えてくる寮生が増加しました。学校全体の昼間の電力消費量の制限があるため午後6時まで居室のエアコンの使用が制限されていることと、その後のエアコンが作動する時間帯に部屋を冷やしすぎることによって体調を崩した寮生を多く見かけます。気温の高い日には午後6時まで多目的ホールのエアコンを入れて暑さをしのげるようしてもらっていますので、積極的に利用していただければと考えます。10月は体育祭に向けての練習で体調を崩す寮生を多く見ます。11月は前半に体育祭の疲れから風邪をひく学生が見られ、後半は感染性胃腸炎2名を含む腹部の不調を訴える寮生が見られました。後期中間試験の終わった12月は利用者数も減り、体調不良を訴える

寮生の症状も比較的軽いようです。

1月以降、ノロウイルスやインフルエンザが猛威を振るう季節に差し掛かります。同時に学年末試験や卒業研究発表会など人生を左右する大きな行事を迎えます。罹患してしまえば快復までに時間も必要です。各自の予防のための対策を願うばかりです。





専攻科の課題と展望

専攻科長 堂込 一秀

本科1年生の皆さんはまだ実感がないかもしれませんが、本科4年生から「環境創造工学」という本校独自の教育プログラムが始まります。この環境創造工学は、日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けており、本校の本科と専攻科が国際的に通用する技術者教育を実施していることを証明しています。有効期間は2008年4月1日から2014年3月31日までなので、今年の春には認定継続の審査書類を提出して、秋に実地審査を受ける予定です。

審査基準は数年ごとに改訂されますが、本校は2012年度に発表された新しい審査基準を選択します。2012年度版の審査基準では、アウトカムズ(修了生が確実に身につけておくべき知識・能力)を従来よりも重視する点と、チームで仕事をするための能力を求める点が重要な変更点です。

JABEEのアウトカムズ重視の視点は、高専機構本部が昨年度公表した「モデルコアカリキュラム」とも共通しています。アウトカムズの日本語訳が、学習・教育到達目標です。本校の学習・教育到達目標は、皆さんもよく知っている通り次の項目です。

- (1) 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者
- (2) グローバルに活躍する技術者
- (3) 創造力豊かな開発型技術者
- (4) 相手の立場に立ってものを考える技術者

これらの学習・教育到達目標は、シラバスに書かれている「授業項目に対する達成目標」に最終的に具体化されます。したがって、学生の皆さんは、授業項目の目標を一つ一つ達成して、四つの大きな学習・教育到達目標に結びつけることを期待されています。本校のシラバスは「授業項目に対する達成目標」も明示している点で優れたものですが、さらに改善するために次のような検討を進めています。

- ・シラバスの「授業項目に対する達成目標」には、「基礎・基本」に従った記述をしてきましたが、高専機構本部のモデルコアカリキュラムの導入に伴い、「基礎・基本」の位置づけを整理する必要が生じています。
- ・多くの科目は、主に試験の得点で評価していますが、試験の得点とシラバスの「授業項目に対する達成目標」との関係を示すことが困難な場合があります。具体的には、「授業項目に対する達成目標」と試験の設問との関係が総合的で示しにくい場合などです。
- ・高専機構本部は、モデルコアカリキュラムの達成目標

の評価基準として、ルーブリックという評価基準の導入を今年度8月の全国高専教育フォーラムで示唆しました。本校でも、ルーブリックの適用を検討する必要があります。

なお、2007年度のJABEE審査時に次のような指摘事項がありましたが、その後の取り組みで継続的に改善がなされてきました。

- ・「総合英語」の成績評価がTOEIC試験400点以上の取得者とされているが、外部の評価に依存しており、プログラムとして自己完結していない懸念がある。追加資料において、今後改善を行う事項としてTOEIC400点相当以上の英語力を測る基準の多様化が示されている。それに加えてプログラムが主体となった評価基準への改善が望まれる。
- ・FD活動の実施状況に関する引用・裏付資料から、教員相互による授業参観や授業改善計画書などの評価できるFDの仕組みがあり、それが教員に開示されていることを確認した。しかし、教員組織全体としてさらに質的向上を図るために、教員相互の討論などの自発的なFD活動への改善が望まれる。
- ・「環境創造工学プロジェクト(PBL)」については、20年度に新たに改善された科目であるので今後の継続的な実施が望まれる。

また、2012年度の、大学評価・学位授与機構による機関別認証評価時には、以下の指摘事項がありました。今後、改善に努めていかなければなりません。

- ・専攻科課程の教育目標を達成するための効果的な科目群の配置については、改善の余地がある。
- ・学生が行う学習達成度評価において、準学士課程、専攻科課程ともに、語学力を含むコミュニケーション能力に対して、低い評価が表れており、今後も継続的な改善に取り組む必要がある。

以上、学校の審査に関わることを中心に述べてきましたが、他にも、都市環境デザイン工学科の卒業生が専攻科に入学する2015年4月までに、土木工学専攻のカリキュラムを見直して専攻名を「建設工学専攻」に改称することや、昨年度から始まった九高専連携事業に関連して、単位互換の推進、長期インターンシップや海外交流事業を具体化することなどに取り組んでいます。

最後に、学生の皆さんに知っておいて頂きたいことは、鹿児島高専は皆さんが最良の状態で学問を修められるように、常に改善活動を続けていることです。低学年のうちからこのことを意識して、世界中に素晴らしいものをもたらす技術者を目指して欲しいと思います。

専攻科の特別研究について

機械・電子システム工学専攻 2年 下野 和輝

私の特別研究テーマは「インクジェット法を用いた有機透明導電膜に関する研究」です。透明導電膜とは「透明で電気を流す薄膜」のことで、太陽電池やディスプレイなどに使用されています。しかし、現在多用されている透明導電膜にはレアメタルが使用されており、価格の上昇や供給量の不足を招くと懸念されています。そこで私の研究では、代替材料として有機材料に注目しています。有機材料を用いることで低温でのデバイス作製が可能となり、印刷技術による製造が実現できます。これにより、製造コストを大幅に削減することができます。私の研究では、市販のインクジェットプリンタを使用して透明導電膜の作製に取り組んでいます。しかし、市販のインクジェットプリンタを用いるにあたり様々な苦労がありました。まず、材料のインク化が課題となりました。本科の卒業研究においては、3人で協力しながらプリンタの改造や実験を行いました。半年間はプリンタからインクが吐出されませんでした。アイデアを出し合い、試行錯誤を重ねた結果、何とかプリンタからの吐出に成功しました。この時の喜びや達成感はとても大きいものでした。しかし、得られた薄膜の特性は透明導電膜として要求される条件を満たしていませんでした。薄膜の特性改善がその後の課題となり、専攻科での特別研究へとつながっています。

専攻科での特別研究は、本科の卒業研究とは違い、1人で行います。そのため、苦勞することもあります。自分の研究に対しとことん取り組むことが出来ます。特別研究での成果は、学内の研究発表会だけでなく、学会でも発表します。私は、専攻科1年次に電子情報通信学会九州支部学生会講演会、2年次に電気関係学会九州支部連合大会で発表しました。学会発表はプレゼンテーション能力の向上だけでなく、他の研究から刺激を受けたり、自分の研究を見つめ直したりすることができ、とてもいい経験になりました。

私は専攻科終了後、大学院へ進学します。鹿児島高専で学んだ知識や技術を活かして、自らの興味のある専門分野に対してより深く勉強したいと思っています。

最後に、本科の卒業研究及び専攻科の特別研究にあたり、様々なご指導をいただきました新田敦司先生に深く感謝いたします。

学会発表を経験して

電気情報システム工学専攻 1年 森田 美海

本校の専攻科の修了要件には、「特別研究の成果を学会で発表する」というものがあります。私は今年度の9月25日に、平成25年度電気関係学会九州支部連合大会で研究の成果を発表させていただきました。

私は現在、「アドレス解決パケットの転送による通信相手の生存確認法の提案-転送器の実装-」というテーマで特別研究を行っています。この研究は、昨年度の卒業研究を基盤に先輩方の研究を引き継いだものです。昨年度からコツコツ進めていたこともあって、理論の実装から予稿作成、発表準備まで順調に進めることが出来ました。特に発表準備は、初めての校外での発表で、同じ情報通信分野の方々が聴講されるということもあり、質疑応答用のスライドや、考えられる限りの質問への回答を用意するなど、自分なりに準備万端の状態で学会発表に臨みました。

今回私が参加した学会は、分野ごとにグループ分けされた中で発表するもので、会場には20人前後の講演者がいました。自分の順番を待っている間は他の講演者の発表を聞き、質疑応答を行います。最初のうちは講演内容を興味深く聞くことが出来、「やっぱり大学院生は発表が上手だな」とか「今の研究は情報通信なのだろうか」などと考える余裕もありました。しかし、いよいよ自分が自分の発表となると一気に緊張してしまい、講演の内容が頭に入ってこなくなりました。

自分の番になり講演者席に立ってからも緊張は取れませんでした。発表原稿やスライドを準備していたおかげで冷静に発表することが出来ました。しかし、質疑応答に入るとあせってしまい、質問の意図が把握できていなかったり、答えをうまく言い表せられず、ぼんやりとした回答になってしまったりしてとても歯痒かったです。座長の先生のフォローもあって切り抜けることは出来ましたが、発表が終わって冷静に思い返すと答えられたはずの質問ばかりで大変悔しく思いました。それと同時に、大勢の前で発表し、意見交換することの難しさを改めて痛感しました。

専攻科に入ってから、授業時のプレゼンテーションやインターンシップ成果発表など、本科のとき以上に発表経験を積んでいたつもりでしたが、一步学校の外にでて他の大学生たちの発表を見てみると、自分の言葉で質問に答えられており、自分はまだまだ発表の経験も練習も足りていなかったなと思います。

来年度は鹿児島大学で学会が開かれるので、継続して研究を行っていき、今年のリベンジを果たせるようがんばりたいです。

専攻科の1年を過ごしてみて

土木工学専攻1年 有村 圭右

私が鹿児島高専に入学してからもう6年が経とうとしています。入学当初は専攻科にまで入学する気はなく、本科での5年間の学生生活をとても長いものだと感じていました。しかし、学生生活を通して色々な経験をしていくうちに、月日が経つのを早く感じるようになりました。そして、4年生のときに「本科で得た知識をさらに深めてから社会に出たい」と思い、進学することを決めました。

私が専攻科に進学するに至った動機は、上記の通り「本科で得た知識をさらに深めてから社会に出たい」と思うようになり、それをするには5年間過ごした鹿児島高専の慣れ親しんだ環境の方が良いだろうと考えたからです。専攻科での専門科目の講義は本科とは異なり少人数で行われます。このような講義の形式は質問がしやすく、より深い知識を得られる為、自分に適していました。

専攻科での生活は、本科でも仲良くしていた友人もおり、また他学科の人とも最初はあまり喋ることはできなかったのですが共通科目の講義を通して仲良くなり、楽しく学生生活を過ごせています。

また特別研究では、本科での卒業研究を継続して行っています。日々のメンテナンスや分析は大変だと感じるときもありますが、良い結果が出てきたときには喜びや達成感を味わえ、研究を続けてよかったと感じます。

私には、これから学会発表や就職活動が控えています。自分はちゃんとやれるのかと不安に感じることもありますが、この鹿児島高専の本科と専攻科で得た知識や経験があるので、これらを生かせば達成できると思っています。

この鹿児島高専での学生生活で得た友人たちとのつながりはおそらく一生続くものなのだろうと思っています。また、この学校で得た知識や経験は自分の人生の中で大きな糧になるものだと確信しています。来年は学生生活最後の一年です。なので、残された最後の1年を悔いのないように過ごしたいです。

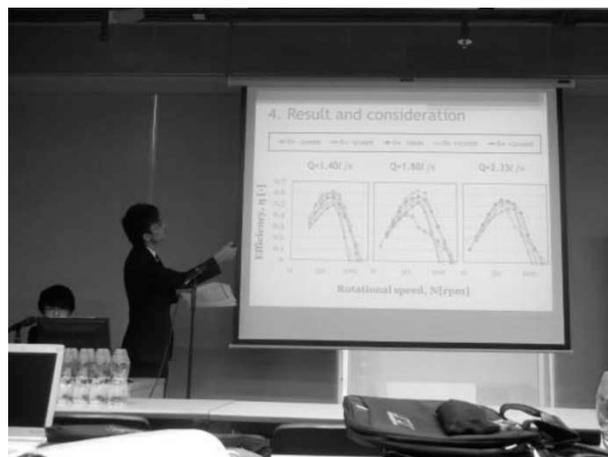
ISTS2013 in Hong Kong に参加して

機械・電子システム工学専攻2年 森園 湧太

2013年11月、日本の高専機構と長岡技術科学大学および豊橋技術科学大学に加え、香港のVTC(Vocational Training Council)の共催でISTS2013 (International Symposium on Technology for Sustainability)が開催されました。香港のIVE青衣(Tsing Yi)で開催され、私は鹿児島高専から参加させていただき、特別研究について英語での発表を行ってきました。

初めての海外は新鮮で、驚きにあふれていました。往路の飛行機から会話は英語で機内食も一苦労でした。移動は地下鉄とタクシーで行い、地下鉄は非常に多く東京のようにすぐ次の電車が来ます。食事は中華料理が主で、油を使う料理が多くありました。他にも建築物や服装の微妙な違い等様々な文化の違いを感じました。現地の方々は基本中国語で、通じなかったら英語というスタイルのようで、会場外ではまず中国語で話されました。何を言っているのか全くわからず、英語で聞き返すと英語で返され何とかなりました。現地の先生方や学生と話して、もっと英語の語彙量を増やしておけばよかったと思います。とりあえず、単語を言えばなんとなく伝わりました。また、英会話は話さないと身につかないと感じました。最初は何を言っているかわからなかったことも日本に帰るころには聞き取れ、リスニング力が上がっていたように感じました。復路の飛行機では機内食で困ることはありませんでした。

英語で発表することはもちろんですが、発表を聞くことはなかなか無く、貴重な体験になりました。発表後にはいくつかコメントもいただき、これからの研究に生かしていけたらと思います。国際シンポジウムを経験する



ことはなかなかなく、自己啓発にもつながり、非常に実りのあるものとなりました。ISTS2014は台湾で開催されるそうです。鹿児島からの直行便もあることですし、機会や興味があれば参加してみたいかでしょうか？

最後に、ISTS2013参加にあたり、数々のご指導をいただいた椎保幸准教授、旅費の面でご支援いただいた高専機構と後援会の方々、ならびに関係したすべての方々にこの紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



贈る言葉

機械・電子システム工学専攻長 鎌田 清孝

専攻科を修了する皆様、ご卒業おめでとうございませう。そして保護者の皆様、お子様のご卒業心よりお祝い申し上げます。

さて、高専便りの出筆している現在、年の瀬であるが、毎年この時期になると「1年って早いんですね。あつという間でしたね。」と挨拶がてら飛び交う言葉である。また、年配の方と話をしていると「20代なんてあつという間だぞ！30代なんて一瞬だぞ！頑張らないと」と助言を頂くこともある。そう、年をとるほど時間が早く経つように感じる。言われてみれば何となくそう感じるこの現象は19世紀のフランスの哲学者・ポール・ジャネが発案し、甥の心理学者・ピエール・ジャネが著作で紹介した「ジャネの法則」である。ジャネは、主観的に記憶される年月の長さは年少者にはより長く、年長者にはより短く評価されるという現象を心理学的に解明している。簡単に言えば生涯のある時期における時間の心理的長さは年齢に反比例する。例えば、60歳の人間にとって1年の長さは人生の60分の1ほどであるが、6歳の人間にとっては6分の1に相当する。よって、60歳の人間にとっての10年間は6歳の人間にとっての1年間に当たり、6歳の人間の1日が60歳の人間の10日に当たることになる。「今年1年」というのは、「自分の年齢分の1年」なので、年を取ればとるほど、1年の比重が段々と小さくなっていくわけである。しかし、もう1つ大きな要因があり、「日々の充実感や新鮮さ」である。幼い頃と例えば、単純に毎日が新鮮でやることなすこと初めての出来事が多いが、大人になるにつれて毎日が単調になりがちである。何もなかった平凡な1年で後から振り返ってみれば、何もなかった日々が多く、あれこれ思い出すわけであつという間に感じるわけである。

そこで、「あつという間の人生だった」とならないように「日々の充実感や新鮮さ」が多くなるように、日々努力してください。皆様の今後のご活躍を期待しております。とりとめのない話になりましたが、贈る言葉とさせて頂きます。



地域共同テクノセンター報告

地域共同テクノセンター長 宮田 千加良

鹿児島高専「地域共同テクノセンター」は、地域の企業や行政機関などと連携し、地域企業との共同研究や技術相談、地域企業の技術者の人材育成事業、本校学生に対するインターンシップなどによる地域企業との協同教育を行うための拠点施設です。本校がこれまでに蓄積した技術開発や研究成果を元に、共同研究、技術相談、技術者教育を集約的に行うことにより、地域の技術力を高め、地域産業の振興・活性化を助長し、地域の経済力の向上に貢献することを目的としています。

本センターには「地域交流部門」、「共同研究部門」、「創造工房部門」、「研究促進部門」の4部門を設け、地域の中小企業及び行政と連携して、共同研究や技術相談、技術者の再教育機能を強化し、産学官連携機能や地域の活性化を図っています。また、ものづくり基盤技術の教育研究機能を高め、より高度な専門性、創造性を持った実践技術者の養成も図っています。すなわち、本センターは研究機能と教育機能とを融合させて、その一元化を図っていることに特色があります。

平成25年度の地域共同テクノセンターは、センター長、副センター長、前述の4部門の部門長の教員5名（副センター長は創造工房部門長を兼務）、およびテクノセンターの各部門を支援する産学官連携コーディネーターを中心に運営しています。本年度は宮村コーディネーターに加え、遠矢コーディネーターを新しく迎え充実した陣容にすることができました。そして、地域企業と本校の連携を推進する試みとして、昨年度から始めたKTC会員企業の企業セミナーに加え、1年生の工場見学を1月に開催いたしました。今後とも「地域に技術で貢献」を合言葉に、テクノセンターの活動をより活発に行っていく所存ですので、よろしく願いいたします。



ソフトプラザかごしま 「鹿児島高専産学官連携推進室」

共同研究部門長 前園 正宜

本校は、鹿児島市の情報関連企業も入居しているソフトプラザかごしまに「鹿児島高専産学官連携推進室」として入居しており、技術相談、共同研究、産学官連携等の打ち合わせを行っております。

ソフトプラザかごしま「鹿児島高専産学官連携推進室」は、小中学生向けの公開講座や産学官共同セミナー「ロボットプログラミング教室」等の会場としても利用され、鹿児島市周辺を中心とした地域の小中学生へ向けた活動の場を提供しております。今年度も公開講座「女子中学生のための工作教室」が8月20日に実施され、鹿児島市や霧島市から参加した女子中学生がハンダゴテを手に電子工作の実習を行い、電子ピアノを作製しました。

また、ソフトプラザかごしまへ入居している1団体として、「かごしまITフェスタ」の企画・運営に携わっており、さらに、かごしまITフェスタ当日の展示ブースへの出展、高専工作教室も実施しています。今年度は平成25年11月29日(金)から12月1日(日)の3日間にわたり開催されました。高専工作教室では、電気電子工学科の中村先生、技術職員の永田先生、松尾先生のご指導、さらに電気電子工学科の5年生、電気情報システム工学専攻の1年生の補助により、親子での太陽電池を使ったロボットの作製を行い、参加者した方からは大変好評でした。鹿児島高専の展示ブースでは、気象ネットを展示、さらに電子制御工学科の宮田先生、電子制御工学科の5年生、機械・電子システム工学専攻の1年生による「UF0キャッチャー」の実演を行い、鹿児島高専をアピールしました。

このようにソフトプラザかごしま「鹿児島高専産学官連携推進室」は、IT関連の共同研究の推進や地域貢献のために鋭意努力していく所存ですので、ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

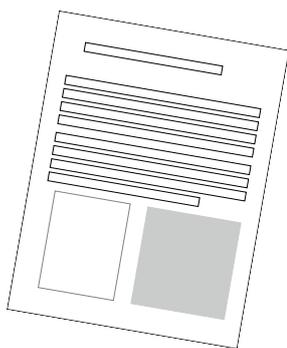
共同研究について

共同研究部門長 前園 正宜

本部門は共同研究の推進が主たる担当であります。本校の高等教育機関としての地域への貢献や産官学連携の重要性が高まっており、本年度も例年と同様に「地域に技術で貢献」を重点的に行っています。

地域における産学連携の推進を目的とした錦江湾テクノパーククラブ（KTC）例会の開催（年3回）、本校教職員の研究活動をベースに共同研究の「種」を紹介する研究シーズ集の発行、かごしまITフェスタの運営・参加等を例年と同様に行っています。また、鹿児島高専、都城高専、鹿児島大学、鹿屋体育大学、宮崎大学、各校の技術シーズを企業に向けて発表する南九州発新技術説明会を科学技術振興機構JST東京別館にて開催しています。このように県内に留まらず、高専機構や他大学・高専、県外の企業との連携を図るため、全国高専テクノフォーラム、九州・沖縄地区KOSEN新技術マッチングフェア等に参加し、本校の技術紹介と意見交換会を行い、本校教員と企業との連携研究を推進しています。

地域テクノセンターでは粒度分布測定装置をはじめとする工作機械、測定機器を設置しており、共同研究の設備として使用可能です。地域の中核施設としての充実を活動目標としています。今後ともご理解ご協力の程、宜しくお願いします。



地域交流について

地域交流部門長 野澤 宏大

地域交流部門は、高専の持つシーズと地域企業および行政機関の持つニーズのマッチングを図り、相互の交流を促進することを主な目的としています。

今年度、地域交流に関して行った取り組みとしては、まず文部科学省による「地（知）の拠点」整備事業への申請が挙げられます。霧島市と連携して、「住みたくなる街づくり」をテーマに臨みましたが、残念ながら採択されるには至りませんでした。現在は、来年度の申請を念頭に置き、霧島市との連携をより深めるとともに、必須事項であるカリキュラム・教育組織改善へ反映させる道を模索しております。

今年度、これから実施する事業としては、ペットボトルイルミネーション、1年生工場見学、企業セミナーが予定されています。以下はすべて執筆時（12月13日）時点で未来の話です。

ペットボトルイルミネーションは、霧島商工会議所の青年部との連携で、今年度で3回目の開催となります。都市環境デザイン工学科の岡松教授・毛利助教が中心となり、今年度は土木工学科の卒業研究の一環として作品を展示する予定です。イルミネーションの期間は平成25年12月20日から平成26年1月10日まで、場所は霧島市民会館前広場で開催されます。

1年生工場見学は、今年度から新たに実施する企画です。1月14日のキャリア教育の一環として、1年生が近隣企業（錦江湾テクノパーククラブ（KTC）加入企業）の工場見学を行います。本当は教職員向けの工場見学も実施するはずでしたが、今のところ実施計画は立てておりません。

また同じく1月14日の午後から、4年生・専攻科1年生を対象とした、KTC企業セミナーが開催されます。これは、昨年度（平成24年度）に開始された企画で、今年度で2回目となりますが、就職活動解禁日の変更に伴い、今年度は1月開催となりました。余談ですが、このセミナー実施を受けて、第一体育館の電源容量増強工事が行われる（はず）など、普段の高専生活にもプラス材料が生まれることとなります。

この1年生工場見学・企業セミナーは、ともにKTCからの「鹿児島高専生（および教職員）に地元企業を知ってほしい」との要望を取り入れて実現した企画です。これら企画が、鹿児島高専（の学生）とKTC加入企業の両者にとって、有益なものとなることを願いつつ、この記事を書かせていただきます。

平成25年度人材育成事業について

地域共同テクノセンター副センター長
兼創造工房部門長 島名 賢児

中小企業の多い鹿児島県では、中小企業の若手技術者の知識や技術の底上げが鹿児島県の発展につながると考えており、本校では平成18年度から継続して中小企業技術者を対象とした人材育成事業を実施してきて、これまでに受講生として250名以上が受講しています。その成果が評価され、日本工学教育協会から平成24年度日本工学教育協会賞の業績賞を授与されました。

7年目となる平成24年度については、鹿児島県内に在住のスキルアップを目指している社会人の方を対象に鹿児島高専の持つ先端的、先導的な研究・開発技術をベースに、受講生の技術力向上を目的として、高専教員の専門性を活かした講演とデモにより、新技術をスポット的に公開し、技術のスキルアップを目指していただくため、平成24年9月8日（土）に鹿児島市のかごしま県民交流センターで「鹿児島高専発 県民のための新技術セミナー」を実施しましたが、平成25年度についても引き続き平成25年9月14日（土）に鹿児島市のかごしま県民交流センターで開催しました。実施方法は、午前の講演と午後からの実験デモもしくはポスターセッションを行いました。この取り組みは、本校の電気電子工学科の楠原教授を発起人として一昨年度から開催しており、今回は幅広い分野の内容の講演やデモを行うため、本校からは電気電子工学科の楠原先生、中村先生、瀬濤先生、前菌先生、電子制御工学科の宮田先生、島名先生、技術室の永田氏、清水氏が当日は講師として参加し、本科学生、専攻科生にも手伝ってもらいました。また、電気電子工学科の今村先生、永井先生の実験デモも行いました。



講演の様子

当日は鹿児島県内の13の企業から19名の参加がありました。来年度以降も今回のアンケートの結果を踏まえ、本セミナーをより充実した内容にして継続していきたいと考えておりますので、ご理解とご協力の程よろしくお願い致します。



デモの様子



科研費錬成塾

研究促進部門長 豊平 隆之

科学研究費助成事業（科研費）の申請率を60%以上という中期目標があげられています。地域共同テクノセンターでは、科研費申請の手助けとなる「科研費錬成塾」を9月3日に開催しました。講師として、長岡技術科学大学の姫野修司先生をお迎えしました。姫野先生は、長岡技科大のVOS塾（外部資金獲得のための塾）のメンバーで科研費申請書の完成の仕方を研究開発しており、実践されています。昨年に引き続き、今年も科研費錬成塾の出前を行っていただきました。

今回の科研費錬成塾では、外部資金を獲りに行く際のノウハウを解説していただきました。これは申請書の書き方というのではなく、申請者の頭の中の申請に関する研究内容の整理をどのように行うかについて、事例を交えて解説していただきました。事例として本校の東（機械工学科）、栢（電気電子工学科）、原（情報工学科）、福永（技術室）、井手（電気電子工学科）、福添（電子制御工学科）の各先生方にA4一枚の研究内容の説明資料（背景、目的、解決方法、予想される結果）を事前に作成していただきました。当日、各先生方が説明を行い、疑問点について姫野先生を中心として参加者全員で議論することで、問題点を洗い出し、門外漢にとっても「この研究は実施する価値があるのだ」と思わせる内容にブラッシュアップすることができました。また、本年の科研費申請書の形式に基づいて申請書の完成の仕方などの獲得術を解説していただきました。

今回の科研費錬成塾で、申請予定者の頭の中の研究内容が整理され、科研費を獲得しやすい申請書が作成できるためのノウハウを得ることができました。お忙しい中、来鹿された長岡技科大の姫野先生に感謝申し上げます。



新技術説明会

地域共同テクノセンター長 宮田 千加良

新技術説明会は、高専での研究成果である新技術、すなわち未公開特許を、企業を中心として説明を行い、マッチングを図るための説明会であり、鹿児島高専他が主催している①南九州発新技術説明会（6/18、JST 東京本部別館ホール・東京）、高専機構他が主催している②九州沖縄地区国立高専新技術マッチングフェア（11/13、マリンメッセ福岡）、③新技術説明会（7/9、JST 東京本部別館ホール）、④高専-技科大新技術説明会（2/4、JST 東京本部別館ホール）、⑤分野別新技術説明会（1～2月）など、非常に多くの説明会が開催されています。

①では、都市環境デザイン工学科の山内教授が「焼酎粕乾燥物で栽培した食用きのこの高機能性について」という題目で、②では「麦焼酎粕を担子菌培養に用いるオルニチン含有食品素材」という題目で発表しています。聴講者も多く企業の関心の高さがうかがえます。また講演者も多く、新技術を情熱をもってPRしていました。新技術説明会の開催が多いことや、JST（科学技術振興機構）の旅費補助（年1回ある場合あり）など、企業へのマッチングに力を注いでいることがうかがえます。

企業への連携推進という面では、第11回全国高専テクノフォーラム（8/20、愛知県産業労働センター（ウインクあいち））などが開催されています。楠原教授と共同研究を行っている「飯田機械株式会社」が企業パネル展示を、概要集の「高専と産学官等との連携事例」では、大竹教授他による「鹿児島市立科学館との”小中学生のためのものづくり・科学教室『鹿児島高専の日』”による地域連携活動」、楠原教授他による「農業用水を活用したバケット連結新型水車による小水力発電装置の開発」が掲載されています。

本校でも、更に多くの先生方が企業との連携を推進したり、特許等を考案・申請し、いろいろな新技術説明会等へ参加するとともに権利化などを、行って欲しいと思います。

平成25年度の今後の取り組みについて

地域共同テクノセンター副センター長
兼創造工房部門長 島名 賢児

(1) KTC会員企業合同説明会

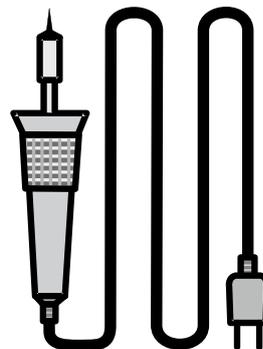
地域共同テクノセンターが鹿児島県内の企業を対象に実施したアンケート調査によると、Uターンして地元の企業に再就職している本校の卒業生も多く見られます。また、地元企業側からも本校の卒業生の自社への就職を期待されています。そこで、本校学生にも在学中にもっと地元企業のことを知ってもらう機会として、平成24年度から錦江湾テクノパーククラブ（KTC）会員企業向けの企業合同説明会を実施しています。

平成24年度は、平成24年6月7日（木）に本校の本科生および専攻科生を対象に実施しましたが、平成25年度についても引き続き平成26年1月14日（火）に本校の第一体育館で開催予定です。実施方法については、昨年度は全体プレゼンテーションを行った後、各企業のブースで詳しい説明を聞く形で実施しましたが、今年度はブース形式のみで行う予定です。

(2) 1年生向け工場見学

本校では全学科4年生で工場見学旅行を実施していますが、その他の学年では企業見学を実施しているケースは少ない状況です。実際の企業の開発や製造の現場を見学することは将来技術者となる意識を強く持つことや本校での学習意欲にもつながると考え、早い段階で企業見学の機会を作ることが必要であると考えています。また、4年生で実施している工場見学旅行での見学先は県外の大企業がほとんどであり、地元の中小企業を知る機会も本校学生にとっては必要ではないかと考えています。鹿児島にはある業界で世界シェアナンバー1の企業もありますが、あまり知られていないのが現状です。また、実際に県外からUターンして県内の中小企業に再就職している卒業生も多く見られるため、もっと地元の中小企業のことを知って欲しいと考え、今年度は試行的に1年生を対象に地元中小企業の見学を平成26年1月14日（火）に実施する予定です。

来年度以降も上記2つの事業をより充実した内容にして継続していきたいと考えておりますので、ご理解とご協力の程よろしくお願い致します。



この5年間で振り返って

学生何でも相談室長 松田 信彦

こんにちは。相談室長の松田です。実は私ごとですが、この春で5年間務めた相談室長を退任することになりました。これまでは、メンタルヘルスに関わるいろいろな話題を、このコーナーに書いてきましたが、今回はこれまでの5年間で振り返ってみようと思います。

まず、5年前に相談室長の任に着いた頃は、実は今と比べると、それほど相談件数も多くなく、また相談室で対応・支援しなければならない学生の数も少なかったのです。これは、統計的にも他の高専に比べて、本校のカウンセリングの件数がかかなり低いというデータもありますが、本質的に鹿児島高専の学生は、あまり相談するというのをしない傾向にあったのだらうと思います。

これには、いろいろな要因があると思います。まず、鹿児島という風土的な要素があるかもしれませんが、やはり人に相談する、人を頼るということを潔しとしない気質が感じ取れました。皆さんはそれが普通だと思っているのかもしれませんが、特に私のような、もともと鹿児島出身でない人間から見れば、その辺の気質の違いはなんとなく感じ取れます。

本校は当時、カウンセラー2名が、隔週で1回1時間半という、全国的に見てもカウンセリングの時間が非常に少ない学校でした。それでも閑古鳥が鳴くような日もありました。一方で、話を聞く限りですが、よその高専、特に都会の学校では、週に何日もカウンセラーが来校し、丸1日対応してくれる学校もあります。そして、そういうところは、行列のできる…ではないですが、順番待ちで、夜遅くまで面談をする日もあると聞いたときに、鹿児島はやはり面談については消極的だなあ…と感じたものです。

私の最初の仕事は、まずは相談室のPRで、とにかくそういう部署が学内にあることを知ってもらおうと考えました。もともと、学生に対し気軽に何でも相談してもらいたいという意味を込めて、本校の「何でも相談室」が設立されているのです。よその学校で、「何でも」が付く学校はほとんどありません。この「何でも」は鹿児島の特徴なのです。

そこで、まず1年生の集団研修で、一緒に「大隅くんち」に行き、そこで20分程度の時間をもらって、新生入生にガイダンスを行うことにしました。効果があったかどうかはわかりませんが、それに合わせて簡単なチラシも配布しました。また、ほぼ同様のチラシを保護者向けに作り直し、入学式、保護者懇談会など、保護者が来校され

際には配布し、またその日は2時間程度相談室に待機し、保護者からの相談に備えました。

他にも、さまざまな性格検査・心理検査を導入（拡大）し、相談室が積極的に、いわば学生へのサービスを拡充しつつ、相談室をPRしていきました。

その甲斐あってか、5年前よりは多少は相談室の認知度も上がり、相談件数も少しは増えてきているようです。これは非常にいい傾向だと思います。以前の高専だよりも書いたことがあります、「誰かに相談できる能力」というのが、実は社会に出てから非常に大事になっていきます。そういう能力を身につけて卒業していく学生が少しでも増えていくことが相談室の願いでもあります。

ところで、最初に本校の相談件数が、他校と比較しても少ないこと、そしてその要因に鹿児島ならではの気質を挙げましたが、実はそれとはまったく違う要因もあるように思います。それは、先日の高専機構の幹事監査でも触れておりましたが、鹿児島高専は、そもそも相談室以前に、多くの教職員が学生のそばにいて、学生は悩みや困ったことがあった場合、相談室に来るような深刻な状況に陥る前に、周囲の気心の知れた教職員に相談しているという指摘があります。確かに担任の先生にしても、部活の顧問にしても、本校の教員は学生に近いところで、いつも親身になって支援しているように見えます。

鹿児島高専の学生は、他の学校と比べても、部活に入っている率が高いと聞きますが、何かちょっとした悩みなどは、部活の顧問に相談している様子もうかがえます。

また寮生においては、寮務主事・主事補をはじめ、寮務系の職員、舎監さん、寮母さんが、いつも学生の話聞き、面倒を見てくれます。全校で半数以上の学生が寮生活を行っている本校には、この機能が実は非常に大きな役割を担っていたのです。

このように、本校は相談室以外でのメンタルヘルスが実は非常に充実していて、結果、相談室にはあまり学生が来ないという側面もあるのです。いわば、学校全体がひとつの大きな相談室になっていたのです。



Peer Effects of Swimmers

一般教育科(文系) 林 良平

私は行動経済学を専門に研究しています。行動経済学は、伝統的な経済学が前提にする経済人モデル(強靱な意志をもち、合理的で、利己的で、全知全能の人)を疑い、本当の人間は意志薄弱であり、非合理的であり、思いやりはあるが、できないこともたくさんあるという事実を受け入れています。その上で、経済実験やアンケート調査などのデータを根拠にして人間の非合理的な行動の理由や典型を明らかにし、それをもとに伝統的な経済学に理論の修正を迫っています。その中でも特に私は、職場で働く同僚の行動が自分の行動に与える影響である Peer Effects(共働者の効果)を実証する研究を行っています。

Peer Effect の実証研究はこれまで、自転車競技やゴルフ、職場、スーパーのレジ、大学寮生の成績などさまざまなデータを用いて世界中で行われてきました。共働者がいる場合といない場合で成果に違いは出るかどうか、その成果はよくなるのか悪くなるのか、そしてその Peer Effects が生じる理由は何か、などが主な論点です。しかしその研究成果は、雨や風などの外生的ショックの影響を統計的にコントロールすることが難しかったり、標本に偏りがあったりして、結論が一通りではありませんでした。

そこで私たちの研究グループは、競泳のデータを用いて大規模で頑健な統計分析を行うことで、Peer Effects の実証に成功しました。

競泳の記録会に出場した 11,486 名の選手の競技結果を用いて、隣のコースに誰もいない状態で泳いだ場合と、片方のコースだけに選手がいる場合、両方のコースに選手がいる場合のタイムを比較しました。記録会は、自己記録を更新することが目的ですから、順位を競っているわけではありません。泳ぐときに隣に選手がいてもいなくても自分のタイムには関係ないはずですが、しかし、男子 100m 自由形の結果を分析した結果は、隣に選手がいると速くなる、というものでした。しかも、その選手が自分より遅い選手で、自分より少し前を泳いでいるときに最もよいタイムが出せるということが分かりました。

ところで、Peer Effects が生じる理由には 3 つの仮説があります。1 つ目は学習効果で、人の泳ぎを見て真似をすることで速くなるとする仮説です。2 つ目は動機づけ効果で、目の前にライバルがいてモチベーションが高まり結果を出せるという仮説です。3 つ目は物理効果で、共働者の波や抵抗によってタイムが上がるという仮説です。

この 3 つの仮説のどれがもっともらしいかを調べてみました。まず、学習効果はわずか 50 秒から 1 分 30 秒程度では生じないために除外します。次に動機づけ効果については、背泳ぎのデータを使って分析をしてみました。背泳ぎは上を向いて泳ぐため、隣の選手の正確な位置が見えません。ですから、背泳ぎで同じ分析結果が得られれば物理効果、背泳ぎで Peer Effects なしとなれば動機づけ効果だといえます。分析結果は、背泳ぎでは Peer Effects なしとなり、動機づけ効果が働いた結果 Peer Effects が生じたと結論づけられました。さらに、2 つ隣のコース(見えないが、波の影響は受ける)の影響も調べましたが、こちらも Peer Effects はありませんでした。

この結果を職場に置き換えると、できる後輩が入ってきたときに、人は最もやる気をだして成果が上がるということになります。優秀な先輩の後について訓練されることも無駄ではありませんが、自分の先輩がどれだけ成果をあげても、それほどやる気は上がりません。そして最悪な状況は、同僚がおらずに一人で黙々と仕事をする場面です。

自分のためだけにすればよい仕事でも、つい周りの人の動きが気になってしまう。いかにも人間らしい行動ではないでしょうか。



地球磁気圏の研究

一般教育科 理系 池田 昭大

1957年に人類初の人工衛星スプートニク1号が発射されてから50年以上が経ちます。現在では国際宇宙ステーションに宇宙飛行士が長期間滞在するようになり、人類の宇宙への進出はますます盛んになっています。まだまだ宇宙を身近に感じる事は難しいかもしれませんが、GPS衛星はカーナビや携帯端末に利用され、BS衛星はテレビの衛星放送に利用されています。考えてみると、私たちの生活は宇宙と関係があると言えます。さらに気象衛星の捉えた雲の様子は、毎日のように目にしている人も多いのではないのでしょうか。このように私たちの生活の一部を支えているのが人工衛星であり、現在は約700機もの人工衛星が宇宙空間を飛翔しています。

有名なアメリカ航空宇宙局（NASA）のボイジャー等は地球から遠く離れた宇宙へ向かって飛翔している人工衛星ですが、私たちの普段の生活を支えてくれている人工衛星の多くは、地球周辺の宇宙空間である磁気圏（及び電離圏）という領域を飛翔しています。

方位磁針の針が方角を教えてくれる事からもわかるように、地球は一つの大きな磁石です。この地球の磁石の力（磁場）は地球から地球の半径（約6,400km）の10倍以上にまで広がり、地球の磁場の勢力範囲である地球磁気圏を形成します。磁気圏の下限は地球の大気がほとんどなくなる地上数百km程度の宇宙の始まりとも言える高度です（このような高度は正確には電離圏と呼ばれ、区別されます）。

磁気圏の環境は、太陽の活動によって大きく左右されています。常に光や熱を届けてくれる太陽ですが、それとは別に太陽風と呼ばれるプラズマの風を定常的に吹き出し、地球の磁気圏はその太陽風にさらされています。プラズマは正の電荷を持つ陽子（や分子）と負の電荷を持つ電子が混在した状態であり、電気的な性質を持ちやすく、地球の磁場から成る磁気圏と相互作用を起こします。このため、磁気圏内には磁場や電場の変化が起こります。太陽風と磁気圏の相互作用によって発生する最も一般的な磁気圏現象がオーロラです。

さらに太陽は、フレアと呼ばれる爆発を起こしたり、太陽のプラズマの大気（コロナ）を地球に向けて一気に噴き出したり（コロナ質量放出と呼ばれる現象）、激しい変化を見せることもあります。このような太陽の突発的な現象も、私たちは気付くこと無く、生活には何の影響も無いように感じられますが、磁気圏の環境は激変し、生活を支える人工衛星に甚大な障害を及ぼすことが

あります。実際に太陽の突発的な現象から、磁気圏を飛翔する人工衛星に想定外のトラブルが起きた例は報告されています。例えば、2003年には米国気象衛星が磁気圏の急激な環境変化により、姿勢制御に障害が起きました。人類の宇宙利用がさらに進めば、そういった影響はますます無視できないものとなるでしょう。その対策である磁気圏の環境の変動を理解する事は重要な課題となっています。

磁気圏を理解するには、その領域の磁場、電場等を観測する必要があります。そのためには、観測機器を搭載した人工衛星を打ち上げればよいのですが、莫大な費用がかかり、計画から打ち上げまでの時間は何年もかかります。これに対し、地上からの磁気圏観測はより安価であり、比較的容易であるため、古くから地上での磁場観測（地上磁場観測）が行われてきました。もちろん、直接観測ではない為、地上磁場データには対象とする磁気圏以外の変動も含まれ、人工衛星による観測より不利な点もあります。

このような問題に対して、私の研究では地上から磁場以外の物理量の観測を進めてきました。具体的には地上に設置したレーダーを用いた磁気圏の下部領域（電離圏）の電場測定です。電場測定データと地上磁場データとの比較からは、オーロラに伴う磁気圏現象の特性が明らかになりました。さらに、地上磁場の多点観測の実施から、磁気圏現象の空間的な構造を研究しています。

さらに磁気圏の理解を深められるよう研究を進めると共に、鹿児島での磁気圏観測実施に向けた計画も進めていきたいと考えています。



これからの地域スポーツ

一般教育科 理系 堂園 一

私の専門は「スポーツマネジメント」です。具体的には、スポーツに関わる団体や企業の経営や、スポーツイベントの効率的な運営について研究しています。現在は、「総合型地域スポーツクラブ（以下：総合型クラブ）」というこれからの地域スポーツには欠かせないスポーツ組織の研究を行っています。

総合型クラブとは1995年より文部科学省が実施しているスポーツ施策の一つであり、幅広い人々が、各自の興味・関心、競技レベルに応じて、さまざまなスポーツに触れる機会を提供するためのクラブです。2000年のスポーツ振興基本計画では、「全国各市町村に少なくとも1つの総合型地域スポーツクラブをおく」と明記され、2010年8月に発表された、「スポーツ立国戦略」においても、総合型クラブは地域スポーツの重要な拠点と明言されています。

2013年の調査では、全国に3,237クラブが設立され、クラブ設立数も毎年増えています。しかし、クラブの経営は順風満帆とはいえません。指導者不足・会員確保・資金難などが課題として挙げられています。一番の問題は、クラブの経営者にマネジメントの概念が不足している事が大きな原因の一つです。実際に総合型クラブにおいては、支える人材の多くはボランティアであり、目標、目的を達成するために必要な要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）を分析し組織を動かしていくというマネジメントの視点が欠けている事が様々な研究で報告されています（ボランティアを否定している訳ではありません）。国の施策であり、公益性の高い組織でマネジメントの視点が必要なのかという疑問を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、公益性の高い組織ほど、理念（ビジョン）を明確にし、戦略（ミッション）を立て、経営者は組織を経営（マネジメント）していく必要があります。

これらを解決するために、様々な団体・組織によって経営に関する講習会などが開催されていますが、経営を立て直すまでの根本的な解決にはいたっていません。ついては、各クラブに経営の専門家を派遣し、ヒト・モノ・カネなどの経営に関する情報を調査し、具体的なアドバイスを行う仕組みが必要かと思います。私は現在日本トップリーグ連携機構のトップレベルスポーツクラブマネジメント強化プロジェクトにおいてプロジェクトメンバーとして活動しており、全国のトップレベルスポーツクラブ（Vリーグ、なでしこリーグなど）を周りなが

ら、経営アドバイスをさせて頂いております。その中で経営に関するヒアリングから具体的なアドバイスを行うことによって経営者がマネジメントの知識を身につけ、実践され、良い方向へ向かっているクラブの事例が存在しています。これらのことから総合型クラブにも、講習会だけではなく、具体的に経営に寄り添ってくれる専門家の派遣などがクラブ経営者のマネジメント能力の向上につながると実感しております。

また、今後の戦略についてですが、総合型クラブは会員制ビジネスであり、会員の確保が経営安定化の最重要課題であります。ついては、より多くの人が参加する魅力的なプログラムの構築・提供について努力を行う必要があります。その点、「スポーツ立国戦略」で掲げられたように、引退したトップ選手が指導者として拠点クラブに配置されれば、元トップ選手の指導で子供の力が伸び、会員増加が見込まれます。また選手は会費で生活できる可能性も増えます。さらに、収益を考えると、地域の大人、高齢者むけのサービスに力を入れるべきです。全国各地の「健康教室」は活況です。理念を明確にしてマーケティングを行い、クラブ経営者が多様な競技種目のほか、季節・地域に応じた選択肢を用意することが必要です。

先程述べたように、総合型クラブの数は増え続けています。それにより競争が始まり、魅力のあるクラブが生き残る時代が迫っています。地域の老若男女一人一人に合う、多くの「生きる道」を提示できるか否かが、生き残っていくカギになると考えられます。それにより生き残った総合型クラブが地域の拠点になり、地域スポーツを引っ張る存在になるでしょう。





「ありがとう」の素直な気持ちを いつまでも

電子制御工学科5年 担任 吉満 真一

平成24年4月に皆さんの4年生担任となつてから早いもので2年が経とうとしています。インターンシップや高専祭、工場見学など多くのイベントがある4年生、就職、進学活動を支えなければならない5年生の2年間を受け持つにあたり、緊張感を持って始業式に臨んだことを思い出します。これから就職する人は学校という限られたフィールドから飛び出して、社会という限りなく広がった世界へ活躍の場を広げることになります。また、進学を志した人は自身の知の欲求を満たすべく、新たな学び舎でより一層勉学に励むことと思います。それぞれに描いた夢に向かって、決して焦ることなく、一步一步踏みしめていってください。

それぞれのフィールドで年齢と経験を重ねるとともに責任ある立場を持つこととなりますが、皆さんにはいつまでも素直な心で「ありがとう」の言える大人でいて欲しいと思っています。

私たちは、これまで多くの人の支えがあって生きてきました。保護者の方はもちろんのこと、幼稚園や保育園、小学校、中学校、高専の先生方そして、その時々クラスメイトや友人。これまでの20数年で出会った人たちの顔を思い出してみてください。困っているときに優しく手を差し伸べてくれた人、誤った行動をした際に厳しく叱ってくれた人、共に一つの目標に向かって汗を流した人…など多くの出会いがあったことと思います。今日の自分があるのは、これまでに出会った人たちがどこかで支えてくれたからです。これからも家族や仲間を支えられ、そして自身も周りを支える力となりながら、直面する様々な出来事を乗り越えていくのだろうと思います。そしてそこには多くの「ありがとう」の言葉が交わされることでしょう。年齢を重ね、どのような立場になっても感謝の気持ちを忘れずに、素直に「ありがとう」と言える素敵な大人であってください。そして皆さんが今後の出会いの中で、良い仲間を得、心から語り合える友を持ち、人生がより充実したものとなることを祈っています。

青春時代真っ只中の皆さんと共に過ごせたこの2年間は、私にとって大切な宝物です。10年後、20年後、そして30年後に同窓会の席で楽しく語り合えることを楽しみにしています。卒業おめでとう！そして君たちとの出会いにありがとう！

卒業を迎えて

機械工学科5年 富山 直人

高専に入学してから、もう5年の月日が経とうとしています。この5年間、私はとても充実した日々を過ごすことができました。今振り返ってみると「5年もある」と思っていた入学当初は、いきなり新しい環境に入つて5年間頑張れるかなと不安でいっぱいでしたが、案外あっという間でした。徐々に高専色に染まり始めた1年次、部活に励んだ2年次、専門科目に苦しみ始めた3年次、主役としての高専祭や工場見学旅行など楽しいイベントいっぱいの4年次、進路決定や卒研で苦しんだ5年次、と思えば本当に色々なことがありました。特に、私の心に残っていることは4年次の高専祭（応援団）のことです。これから先、あのように皆で一丸となつて一つの物事に熱中することは無いだろうと思うくらい一生懸命取り組んだ気がします。結果は3位でしたが、大事なのは結果じゃなくて、精一杯やり抜くことなどと改めて実感しました。本当に良い思い出でした。

話は変わって、高専に入学して良かったと思うことは、他の学校に比べて国際交流のチャンスがとても多いということです。私も、4、5年次に香港への海外研修に参加しました。この研修では、現地の企業を見学したり、物作りをしたり、現地の学生と観光をしたりと貴重な経験をすることが出来ました。そして、自分の英語力がどれだけ足りないのかを痛感させられました。この研修を境に英語に対する意識が大きく変わったと思います。また物事に対する考え方にも変化があったと思います。是非、後輩たちにも、このような海外研修に積極的に参加して、新しい自分をみつけて欲しいと思います。

このように、高専で毎日楽しく過ごせたのは、5年間学舎を共にしたクラスメイトを始めとする良き友人たちに恵まれたからだだと思います。5年間共に過ごしてきた、時には言い争って喧嘩になることもありましたが、今ではその全てが笑い話にできる良い思い出です。面と向かってクラスメイトに言ったことはないけど、優しく面白い5Mのみんなが大好きです。

最後になりましたが、ご指導していただきました先生方、支えてくれた両親、友人、部活動の先輩や後輩達など多くの方々、とても感謝しています。この場をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。鹿児島高専に入学して本当に良かったです。

専門教科を学ぶことの楽しさ

電気電子工学科 5年 種田 和晃

高専の教育課程は、一般の高校、大学と違い5年である。この5年間で私達高専生は「職業に就く上で必要な専門知識」を習得する。

私は電気・電子系の学科に在学しているが、どの学科とも高専という学校で学ぶ専門分野は広く、多岐に渡る。電気・電子系で例を挙げるならば、電気回路・電磁気・電気数学など、電気・電子系の学問の根幹である基礎分野から、情報処理・制御工学・半導体工学・高電圧工学・電気通信...といった応用分野が数多くある。勿論、学年が上がるにつれ、応用分野を学ぶ機会は多くなる。

これらの応用分野は、別々の独立した一つの学問体系であるが、そのどれもが基礎分野の上で成り立っている。これはつまり、前提である基礎知識がなければ理解することができないという事であるが、見方を変えれば、基礎分野の学問を習得する事で、バリエーションに富んだ様々な応用分野に道を進む事ができる。

電気・電子系の学問は、数学のように昔から研究されて成就されたものなどではなく、人類の歴史上では比較的最近生まれてきた分野であり、近年の研究の発達によって未知なる分野が開拓されたり、研究結果が既存の分野に革命を起こすこともある。

これは即ち、応用分野を学ぶという事は、日進月歩する最先端の知識を手に入れるという事であり、専門教科を学ぶ上での楽しさを提供してくれる一つの要素である。その点で高専生は恵まれている。なぜなら、どの人よりもいち早く専門教科を学べるからである。

基礎知識とは言え専門用語を理解するというのは、一般教養で教わる知識とは全く難易度が高い。だからこそ、低学年の内にはしっかり基礎分野を学べる事は、工科系大学に対してアドバンテージを持つ。だから、応用分野を広く理解する思考が付き、多くの専門知識を得ることができるのである。

好きな学問で多くの知識を得る事ができるのは、学ぶ人にとって、向上心、いや知的好奇心を掻き立てる事だろう。

卒業を迎えるにあたって

電子制御工学科 5年 津曲 佳祐

この平成25年度、鹿児島高専の創設50周年の記念式典が行われました。設立から50年の間には学校をとりまく環境も様々な変化があったことと思います。この記念すべき年に卒業できることをとても誇らしく思います。鹿児島高専における、私の5年間は本当にあっという間でした。まさに「光陰、矢の如し」です。

卒業を迎えるにあたって、私自身の5年間で簡単に振り返らせていただきます。

自分の兄が入学していたという安易な理由で私は市成中からこの鹿児島高専に入学しました。入学時は自分が過ごしていた地元とのギャップについていけず、流されるままに毎日を送っていました。入学後2週間が過ぎようとしていたある日、中学で活動していた野球部に入部し、活動を始めました。入部当初は、勉強の気分転換の感覚で始めた野球でしたが、持ち前の負けず嫌いな性格から、毎日の練習にのめりこんでいきました。勉強と部活を両立する日々を過ごし、夏休み等の長期休暇はほとんど休むことなく部活動に取り組みながら、3年生の県予選大会までの野球部活動を行うことができました。選手としては公式戦では一度も試合に出ることができませんでしたが、練習で苦しんだ日々や、たまの休日に野球仲間と羽を伸ばして遊んだことは、私にとってかけがえない思い出になると思います。

そのような部活漬けの日々を終えた3年生の秋は、高専祭において体育祭での応援団活動への参加や、文化祭ではクラスで露店を出店するなど、入学して初めて高専祭を満喫することができました。翌年の4年生での出来事はここには書ききれないほどありますが、特に高専祭、工場見学旅行の二大イベントは最高の思い出です。これを読んでいる後輩のみなさんは自分達が4年生になるのを楽しみにしていて下さい。多くの経験、良き思い出ができることと思います。5年生では、就職活動に卒業研究と大変忙しい毎日を過ごしました。この原稿を書いている現在は卒業論文に取り組んでいるところです。思い返してみると、鹿児島高専での学生生活では様々なことを学び、経験することのできた大変内容の濃い5年間でした。

私も来年から社会人の一員となります。厳しい社会で苦しいこともあると思いますが、この鹿児島高専で学んだことを生かし、今まで以上に人生を楽しみつつ多くのことに挑戦していきたいと思っています。

最後になりましたが、両親を始め、先生方、友人の皆様、先輩、後輩、自分に関わってくださった全ての

方々、皆様のおかげでとても有意義な学生生活を送ることができました。言葉足りませんがこの場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。そして今後ともよろしくお願いします。

高専と5年間

情報工学科5年 永倉 志帆

高専と共に過ごしてもう5年になります。一日一日では分からなかった変化も、5年たつと実感できます。思い出すと頭を抱えたくないような失態や出来事も沢山ありましたが、これからの人生で後悔しないための良い勉強になった気がします。

入学したての頃は休み時間の教室はとても静かで、息苦しさを感じました。本当にこれから高専でやっていけるかととても不安でした。そんなとき、応援団の先輩たちが勧誘のため教室に入って来た時はとてもビックリしました。さらに驚きだったのは、その年から毎年応援団をしたことでした。日頃運動をしない私には、応援団に入ることは筋肉痛との戦いでもありましたが、得られるものも沢山ありました。一人では知ることができなかった、感動を教えてくれた方々に本当に感謝しています。

工学実験では、切に追われる苦しい状況の中いかに正確に、そして簡潔にレポートを作成するかを鍛えられました。また、苦労を共にしたことで、友人との絆を深めることができたのかもしれない。

5年生では就職活動に悩まされ、周囲からのアドバイスや激励にとっても助けられました。また、卒業研究は専ら暗中模索でしたが、後期に入ってやっと見通しがたちました。卒業論文もですが高専で過ごす学生生活の追い込みも悔いが残らないように頑張りたいです。

5年間の高専生活を振り返り、一番に思ったのは「一人じゃなくて良かった」ということです。周りからのサポートがなければ5年生まで上がれなかったです。そして今こうして、文章が書けていることに幸せを感じています。周りのおかげで今の自分があるのだと、高専に入学しなければ知らずに過ごしていたかもしれません。まだまだ未熟なので、今も知らないうちに迷惑を掛けています。不完全ゆえに忘れ物もしてしましますが、この5年間でお世話になった友人や先生、家族など沢山の方々への感謝の心は絶対に忘れません。

最後になりますが、高専に入学して良かったです。これからは高専で学んだことを活かし、さらなるスキルアップに努めたいです。

5年間本当にお世話になりました、そしてありがとうございました。

卒業を迎えて

土木工学科5年 前原 翔太

月日が流れるのは早いもので、私が鹿児島高専の土木工学科に入学してから5年が経とうとしています。そして最後の土木工学科として卒業を迎えます。私に執筆を任された時は正直不安でした。私はクラスの総務をしていましたが、総務らしいことは大して何もできなかったもので、ここは気合を入れて鹿児島高専で、土木工学科で学んできたことを伝えていきたいと思います。

高専の特徴はやはり「自由な校風」、「就職率の高さ」です。私もそこに魅力を感じ受験を希望しました。制服がなければ休みも多いなど、他にもまだまだありますが、これ以上書くと規制がかかりそうなので伏せておきます。

しかし、当時の私の考えは甘く、現実には厳しいものでした。難しい専門科目、厳しい成績評価、いかつい先輩たち、実験レポート、寮のあいさつ運動等、思い出だけで今でも身震いします。私は何度も延長戦にもつれ込み、なんとか判定勝ちで単位を獲得しどうにか進級してきました。

そんな高専生活でしたが、みんなで成し遂げた応援団や工場見学、極真空手部で共に汗を流したことなど楽しい思い出もたくさんあります。そして、年を重ねていく度にいろいろなことが見えてきました。その中でも私は人との関わりや勉学の大切さを学ぶことが出来ました。私が今まで心折れることなく過ごしてこられたのは先生や先輩後輩、友人、家族のおかげです。辛い時も皆がいたから乗り越えられました。人は一人では生きていけません。何かしらどこかで、他人に力を借りなければならぬ場面もあると思います。そういう時のために自分の周りの人たちとの関係は大切だと思います。

そして、この5年間で改めて勉学の大切さを実感しました。これから私たちが社会で生きていくためには学ぶだけではなく、学んだことを活かしていかなければなりません。学問とは飯の種です。知識の広さと自分の進む道の広さは比例していると私は考えます。私たちは生きるために努力し、本当の意味で学んでいかなければならぬと強く感じました。しかし世の中厳しいもので、努力した分だけ見返りが返ってくるとは限りません。ですが成功している人達は必ず努力しています。私もまだまだあまちゃんですが、日々慢心することなく精進していきたいと思います。他にもお話したいことはたくさんありますが、これ以上は他の学科のページがなくなりますので、このくらいにしておきたいと思います。

私たちの次の代からは土木工学科から都市環境デザイ

ン工学科へ変わります。鹿児島高専に新たな風が吹き込みます。どのようになっていくか楽しみです。私たちは土木工学科から都市環境デザイン工学科へバトンをつなぎ、後輩たちはこれから入学してくる学生たちへ、最高の「お・も・て・な・し」が出来ることを期待します。また都市環境デザイン工学科が土木工学科以上に発展していくことをお祈りいたします。

最後にこの場をお借りし、今までお世話になった先生、先輩後輩、友人、そしてこれまでの土木工学科を築いてきた方々に深く感謝いたします。

5年間本当にありがとうございました。

専攻科に入学してからも、同じクラスだった4人の親しい友達とは頻りに遊びを共にしています。正直、入学した時にはここまでクラスに一体感が生まれるとは思っていませんでした。これは5年間(または7年間)同じ教室で学び、たくさんの時間を共有し、育まれたものだと思います。

このように鹿児島高専ではレポートや授業などを通して得られた専門知識はもちろん多くの時間を共有した友達など多くのものを得ることが出来ました。この学校で過ごした日々を忘れず、一人の大人として高専生活に勝るとも劣らない充実した人生を歩んでいきたいものです。

専攻科修了にあたって

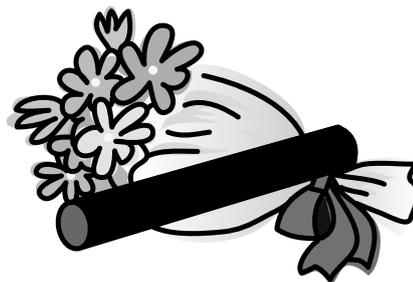
機械・電子システム工学専攻2年 大坪 純也

もうすぐ私の7年間に及ぶ高専生活が終わろうとしています。この学校に入学した時には、まさかこの歳まで高専にいるとは思っていませんでした。7年間という小学校よりも長くいるわけですから、鹿児島高専でみられる風景もあとわずかと思うと感慨もひとしおです。来年度からは社会人として、また技術者としてこの学校で学んだことを活かして社会に貢献できる人間を目指したいと思います。

中学卒業後、この学校に入学し、初めての寮生活を体験しました。一度、親元を離れて生活することは普段の生活を一人でこなしていく経験をするという意味ですごく重要だったと今は思います。しかし1年生のときには困難なこともありました。それは夏の暑さです。当時の部屋には鹿児島の夏には必須であるエアコンがありませんでした。その年の夏はいつにも増し暑かったと記憶しています。そして2年生になるとエアコンが取り付けられると聞いた当時の私は寮で快適な夏の生活を営むために2年生も寮に残りました。

また学業の方では、高専生活において何人も避けては通れぬレポートの作成が印象的です。何度も再提出を要求され、行き詰った時に助けてくれたのが友達でした。レポート作成は苦難の連続でしたが、友達の助けもあり何とか乗り越えることが出来ました。

また、そのような苦難や学校行事を通してクラス全体の一体感が生まれました。5年生の時にはクラス全体で夏にキャンプ、卒業直前に旅行にいきました。そして鹿児島高専を卒業した今でも、就職や他の大学に進学した人達とお盆や年末年始に定期的に集まっています。また



専攻科をふりかえって

電気情報システム工学専攻2年 小山下 朋宏

高専には、ただ応援団がしたいということと就職率が良いという理由で入学した自分がまさか専攻科まで進み勉強・研究をするとは全く思っていませんでした。だが、実際に専攻科での生活を通して得られた経験や知識は、本当に自分のためになったと思っております。

専攻科では、勉強の面以外でも本科の時にすることができなかつた経験をする事ができた。それはインターンシップや研究発表を本校以外ですることである。

専攻科生にはなかば必修となっているインターンシップでは、企業の工場に行った。そこでは、どのようにすれば生産性を現在より安全かつ確実に上昇させることができるだろうか、といったことを社員の方と一緒に考えさせてもらった。その場では、ただの思いつきで発言するのではなく、どのような考えをもって発言したかの考察を何度もすることの重要性を学ばせてもらった。なぜそのようなになったかを何度も繰り返し考え、自分の思い込みで判断せず、きちんとした理由に基づき原因がこのようであるからそうなのではないのかの判断することが重要だと実感させられたインターンシップであった。

研究発表では、他学校の教員や学生の前で発表を行った。本校での研究発表は何度か行ったが、本校以外で行う発表はいつも以上に緊張した。普段とは違う雰囲気の中で発表を行うこと、他学校の方の発表を聞くことで新たな刺激を受け、より研究への熱意がかきたてられた。

これらの経験は本科の時では全くすることがなかった。むしろ自分はこのような面倒なことからは逃げていた。だが、専攻科ではこれらの活動を行うことがほぼ必修であるため、やらざるをえなかった。その当時は嫌に思えたが、これらの経験を何かしら自分の今後に生かしていけるだろう。

就職活動では、高専の授業以外で得られたこれらの経験、プラス応援団での経験を活かし乗り切れたと思っている。高専では勉強を頑張るのはもちろんだが、それ以外の部分での頑張りによって得られたことの方が多かった。高専への入学時ではまさか専攻科までいくとは思っていなかったが、実際に専攻科で学び専攻科で得られた経験をいかして社会にでていきたい。

専攻科修了にあたり

土木工学専攻2年 杉元 良成

私の出席番号は1番です。そして、前には勿論ですが、後ろに番号を連ねる者はいません。私のクラスは1人でした。本科5年時に、元々専攻科に進学を選択した者は少なく、唯一共に進学した者も、昨年晴れて公務員試験に合格し、今年度はそういう環境で生活することになりました。本科5年までと同じ敷地で学校生活を送っているのに、この2年間は全く異なる環境で時を過ごしたように感じました。辛いことも多く、専攻科進学は正しかったのかと何度も考えさせられました。そんな自分が頑張れたのは、クラスは1人でも周りの人がいてくれたからだと思います。本科での5年間バスケットボール部に所属していましたが、引退後はアシスタントコーチとしてバスケット部に関わりました。部活動は学校生活の延長でしかないかもしれませんが、頑張れる環境があったことで、学校の勉強や研究が辛い日でも、その存在が支えとなり、やっていけたことは少なからずあったと思います。指導をしていた側ではありますが、指導させてくれてありがとうと心から伝えたいと思います。都市環境デザイン工学科の先生方、1人のための授業開講はめんどくさいと感じることもあったかもしれませんが、手を抜くこともなく丁寧に指導して下さい、有難うございました。特に前野先生については、ご自身の体調が好ましくない中でも研究指導に尽力して下さい感謝に堪えません。また、専攻科では他学科とのグループ学習もあり、本科5年間ではあまり交友がなかった同学年の友達もできました。クラスは1人でしたが、自分の周りには挙げきれない程のたくさんの人がいて、1人1人の存在がいつも支えでした。人との繋がりほどの環境でも存在します。来年の4月からは鹿児島大学の大学院に進学します。人との繋がりを大切に、鹿児島高専での経験を活かして頑張りたいと思います。

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

《機械工学科》

サントリープロダクツ株式会社（2名）
雪印メグミルク株式会社
新日鉄住金株式会社
矢崎総業株式会社
IHIプラント建設株式会社
日本オーチス・エレベータ株式会社
東京ガス株式会社
DMG森精機株式会社
株式会社三井ハイテック
大阪ガス株式会社
多摩川エアロシステムズ株式会社
シチズン時計鹿児島株式会社
京セラ株式会社鹿児島国分工場
グローブライド株式会社
株式会社東京アールアンドデー
株式会社前川製作所
テルモ株式会社
関西電力株式会社
三浦工業株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社トヨタ車体研究所
旭化成株式会社
安川エンジニアリング株式会社
東洋インキSCホールディングス株式会社
（進学）鹿児島高専専攻科（5名）
（進学）九州工業大学（3名）
（進学）九州大学

《電気電子工学科》

大阪ガス株式会社（2名）
関西電力株式会社（2名）
志布志石油備蓄株式会社
三菱電機特機システム株式会社
東芝プラントシステム株式会社
株式会社東芝
メタウォーター株式会社
丸善石油化学株式会社
東邦ガス株式会社
九州電力株式会社
IHI運搬機械株式会社
独立行政法人国立印刷局
富士通株式会社
中国電力株式会社
ダイキン工業株式会社
花王株式会社
三菱電機株式会社神戸製作所
東海旅客鉄道株式会社
中部電力株式会社
株式会社日立ビルシステム
大阪シーリング印刷株式会社
西日本プラント工業株式会社
JFEスチール株式会社西日本製鉄所
古野電気株式会社
九州電気システム株式会社
カルビー株式会社
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
（進学）鹿児島高専専攻科（5名）
（進学）名古屋大学
（進学）豊橋技術科学大学
（進学）熊本大学
（進学）電気通信大学

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

《電子制御工学科》

ミヤマ精工株式会社
住友化学株式会社
株式会社メディポリスエナジー
飛鳥電気株式会社
メタウォーター株式会社
大岡技研株式会社
株式会社マキノフライス製作所
東京電力株式会社
株式会社テクノ21グループ
株式会社M i s u m i (2名)
ダイキン工業株式会社(2名)
ダイハツ工業株式会社
日新電機株式会社
T A N A K Aホールディングス株式会社
日本放送協会
富士ゼロックス福岡株式会社(2名)
ダイダン株式会社
キャノン株式会社
キャノンファインテック株式会社
雪印メグミルク株式会社
ノダック株式会社
三菱自動車エンジニアリング株式会社
株式会社ダッド
富士電機株式会社
株式会社J A Lエンジニアリング
東京ガス株式会社
大阪ガス株式会社
(進学) 鹿児島高専専攻科(6名)
(進学) 九州工業大学(2名)
(進学) 豊橋技術科学大学(3名)
(進学) 熊本大学(1名)
(進学) 宮崎大学(1名)

《情報工学科》

富士通株式会社
ムラテック販売株式会社
株式会社NTTフィールドテクノ(株式会社NTTホームテクノ)(2名)
関西電力株式会社
アイフォーコム九州株式会社
KDDIエンジニアリング株式会社
株式会社あきんどスシロー
セイコーエプソン株式会社
富士電機株式会社(2名)
株式会社久永コンサルタント
富士ゼロックス株式会社
株式会社ARS
株式会社新日本科学
株式会社千代田ビデオ
国際通信企画株式会社
株式会社ダイセル
株式会社NTTネオメイト
アイシーコム株式会社
株式会社富士通ゼネラル
トヨタテクニカルディベロップメント株式会社
飛鳥電気株式会社
三菱ビルテクノサービス株式会社
株式会社ソフト流通センター
京セラコミュニケーションシステム株式会社
(進学) 鹿児島高専専攻科(8名)
(進学) 仙台高専専攻科
(進学) 九州工業大学(1名)
(進学) 豊橋技術科学大学(1名)
(進学) 千葉大学(1名)
(進学) 広島大学(1名)

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

《土木工学科》

西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
出光興産株式会社（2名）
電源開発株式会社
鹿児島県庁（2名）
日鉄住金パイプライン&エンジニアリング株式会社
株式会社サタコンサルタンツ
サンコーコンサルタント株式会社
鹿児島市役所（2名）
五洋建設株式会社
日本ガス株式会社
九鉄工業株式会社
株式会社大進
株式会社横河ブリッジホールディングス
関西電力株式会社
パソコン技術管理株式会社
三軌建設株式会社
株式会社JPハイテック
東京水道サービス株式会社（2名）
東京ガス株式会社
株式会社不動テトラ
西日本旅客鉄道株式会社
東京ファブリック工業株式会社
（進学）鹿児島高専専攻科（6名）
（進学）長岡技術科学大学（2名）
（進学）佐賀大学（1名）

《機械・電子システム工学専攻》

東燃ゼネラル石油株式会社
旭化成せんい株式会社
東レエンジニアリング株式会社
セイコーエプソン株式会社
株式会社ファーストラインスタジオ
北陸先端科学技術大学院大学
奈良先端科学技術大学院大学
九州大学大学院
豊橋技術科学大学大学院
（進学）九州工業大学大学院（2名）
東京大学大学院

《電気情報システム工学専攻》

株式会社コアガス日本
株式会社トヨタ車体研究所
株式会社安川電機
ネクストキャディックス株式会社
富士通株式会社
（進学）大阪大学大学院
（進学）横浜国立大学大学院

《土木工学専攻》

（進学）鹿児島大学大学院



新任挨拶

機械工学科 東 雄一

平成25年4月1日より機械工学科の助教として着任しました東雄一（ひがしゆういち）です。私は、本校の近隣校であり、親善試合等で交流の深い都城高専の出身です。高専の学生時代には親善試合で本校を訪れることもありましたし、この国分・隼人の地に遊びに来ることもよくありました。この度は縁あって本校の教育に携われることを大変嬉しく思っております。

都城高専を卒業後は九州工業大学に編入学し、同大学院を修了後、いすゞ自動車株式会社において4年間勤務しておりました。いすゞ自動車ではエンジニアとして商用車（トラック）の研究開発に従事し、主にCAE（Computer Aided Engineering）を活用したキャブ（トラックの一番前にある運転手や同乗者が乗る箱の部分）の設計業務に携わっておりました。何年後かに市場に投入される予定となっている私が携わっていた新型車を目にする時が来ることを楽しみにしている次第であります。CAEとは、設計した部品を試作する前にコンピューターを用いて強度や耐久性等の性能を計算する解析システムのことであり、試作を作る費用や開発期間の短縮等のコスト削減の一躍を担っている優れたものです。現代のものづくりは、コンピューターの発達に伴いこのようにコンピューターを駆使して開発を進めていく開発プロセスが定着してきておりますので、これから第一線で日本の製造業を支えていく本校の学生の皆さんに現代のものづくりのあり方や私自身のエンジニアとしての経験等をしっかりと伝えていきたいと思っております。

今年度は本校の創立50周年記念という節目を迎えたこともあり、本校のこれまでの歴史に触れる機会が多く、三菱航空機のMRJに関する記念講演や記念式典等のイベントに立ち会えたことを大変光栄に思っております。また、本校に着任してから楽しみにしていたイベントの一つに体育祭があります。私が高専の学生時代の頃から、「鹿児島高専の応援団はすごい！」という噂があり、実際にやぐら絵と演舞の迫力には圧倒されました。本番に向けてひたむきに準備する姿、高学年生が低学年生に一生懸命指導する姿等良き伝統がしっかりと受け継がれているなど感心しました。

早いもので着任して半年が経ちます。何分初めてのことばかりで戸惑う事が多く、まだまだ経験に乏しい若輩者ですので、いろいろご指導頂くことが多々あるかと存じます。本校の学生が立派なエンジニアとして羽ばたいていけるよう精一杯尽力していきたいと考えておりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

ご挨拶

～採用から半年を振り返って～

電気電子工学科 栢 健一

平成24年4月から鹿児島工業高等専門学校 電気電子工学科 助教として採用されました栢 健一（ハジケンイチ）と申します。

以前は東京都立産業技術研究センターの研究者として3年程勤めていましたが、研究に加えて学生への教育にも興味があり転職しました。

鹿児島での生活で一番の衝撃は、やはり火山灰との格闘です。洗濯物は安易に外へ干すことができませんし、洗車した車がすぐに灰まみれになっていたり、家のドアや窓を開けておくと家の中や家電製品が灰をかぶったりします。夜中の桜島の噴火等は自然に対する脅威を感じています。

鹿児島高専での私の研究は、LED照明器具の電気特性や電磁波問題に取り組んでいます。昨今のCO2削減や電力不足への対策方法として、一般照明器具を省電力のLED照明器具に交換することが注目されています。しかし、一部のLED照明器具の「ちらつき」やラジオ等の放送波に対する「妨害波」等が問題として取り上げられました。そこで、市販のLED照明器具の「ちらつき」や「妨害波」の評価について検討しています。

学生の教育では、製図やパソコンの扱い方、電気の測り方、電気回路等の授業や電気実験を担当しています。初めてですので、学生に興味を持ってもらう授業の仕方、テスト問題の作成に四苦八苦しています。

現在、部活動は軽音楽部の顧問とフットサルの副顧問を担当しています。軽音楽部は多数のバンドが在籍しており、一人の学生がいくつかのバンドを掛け持ちしている者もいます。高専祭などのイベントで舞台上に立って、各バンド思い思いの楽曲を披露してくれています。フットサルは週2回学生が集まり活動しています。フットサルをしている学生の中には個人的にチームを組んで外部主催のフットサルの大会に申し込んでいたりするようです。学校での通常の活動は試合形式で、お互いの技術を磨き合っています。

以前の職場では中小企業のお客様の対応に追われていましたが、今回は社会人になる前の高専生を教育・指導することに追われています。以前と今の職場での対応の仕方のギャップ、教育・指導することの難しさ、私と学生の（約半分の歳）世代のギャップに戸惑いと不安を感じながらも、先輩である同僚の先生方のアドバイスをいただきながら努力しています。

まだまだ未熟ですが、私も教師として高専生と共に成長していきたいと思っております。これからもご理解ご協力の程、よろしくお願い致します。

新任のご挨拶

情報工学科 林 香予子

本年度の4月から情報工学科に採用されました林香予子と申します。宜しくお願ひ致します。

私は山口県にある宇部高専に通っていた元高専生で、経営情報学科という、全国の高専でも数えるほどしかない文系の学科出身です。そこでは、商業高校のように簿記を習ったり大学のように経済・経営学を学んだり、世間が高専に抱くイメージとは異なる内容を学習してきた一方で、高専生らしく情報工学やプログラミングなども学んできました。本科卒業後は、広島大学の教育学部へ編入学し、中学校技術や高校情報の教員になるための勉強をしました。高専生として少々異色の経歴をたどっているのは、高専在籍中に高専教員になりたいと考えようになったからです。私が情報工学へ抱いた興味や楽しさを学生に伝えることができればと思い、また、高等教育機関でありながら高校のように学生と密接に関わることができる高専教育に魅力を感じ、高専教員になる道を選択しました。そのため、学部を卒業した後は、大学院へと進学し、この度、ご縁があって鹿児島高専へ着任することができました。そして、早1年が経とうとしています。

一口に同じ高専といえども違いは多々あって、また、今度は教員という違う立場で関わることに、不安を抱えながらの日々を過ごしています。授業も、想定通りにいかないことが多く、学生の反応を見ては「もっとこうすればよかった」と反省ばかりを繰り返しています。それでも、親切な周囲の先生方や、笑顔で接してくれる学生たちのおかげで、楽しいと感じる毎日を送ることができています。

学生にとっては、比較的年齢も近いこともあって、私を頼りなく思うかもしれませんし、そもそも私が教員であるという感覚は薄いかもしれません。しかし、それを強みに変えて、彼らが充実した学生生活を過ごせるよう親身になって支援できる、そんな教員になりたいと思っています。私が高専時代に抱いた「高専に来てよかった」という思いを、これから接していく学生に感じてもらえたらと思います。また、高専を卒業した先輩として、彼らのロールモデルのひとつになれば良いとも思っています。

未熟なところばかりでご迷惑をおかけすることも多いかとは思いますが、一生懸命学生と向き合う中で、一緒に成長していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願ひ致します。

新任挨拶

情報工学科 原 崇

4月から情報工学科に採用されました原崇です。よろしくお願ひ致します。

種子島で生まれ、鹿児島大学を卒業するまでの間、ずっと鹿児島県（奄美大島含む）で暮らしてきましたが、就職をきっかけに神奈川県に移りました。勤めたのはNECモバイルという会社で、NEC製の携帯電話のデバイスドライバ開発やスマートフォン開発のプロジェクト管理などに携わっておりました。そこで9年間勤めて、この度、鹿児島高専に採用頂き9年ぶりに鹿児島に戻ってきました。

学生時代の専門は分散並列処理や構文解析というソフトウェア分野でしたが、会社に入ってから組み込み機器のデバイスドライバ開発というハードウェア分野（正確にはハードウェアを制御するソフトウェア）の仕事を行ってきました。そのため、プログラミングだけでなく、ハードウェアについてもいろいろな経験をしました。

最も多く手掛けたのは、携帯電話の液晶画面（LCD）のデバイスドライバ開発でした。開発を始めたばかりの携帯電話は、初めは画面に何も映らない状態ですが、自分が開発したデバイスドライバを動かすことで待ち受け画面が表示されたときは、いつも感動しました。「ものづくりは楽しい」と思える瞬間でした。

また、少し変わった経験としては、新人研修の一環でドコモショップの店員として街頭でディッシュ配りをしたり、実際の店頭で立ってお客様の対応を行ったりしたこともありました。

そういった企業で経験した仕事、ものづくりの楽しさや関東での生活について、これから進学や就職を考えていく学生たちに伝えていき、少しでも学生たちが将来を決める参考になればと思っております。

本校に赴任して、学生委員会としての仕事やいろいろな行事に参加させて頂きました。特に本年は、鹿児島高専創立50周年という節目の年であり、多くの記念行事にも参加させて頂きました。その中で学生に触れる機会も多く、教育現場の楽しさを感じましたが、同時に難しさも感じました。

高専という教育の場で働くのは初めてなので、高専の教育方法や運営についてはまだ分からないことが多くあります。これからはいろいろとご迷惑をおかけすることがあると思いますが、宜しくお願ひ致します。

新任のご挨拶

都市環境デザイン工学科 川添 敦也

平成25年4月から新規採用になりました、川添です。よろしくお願いいたします。夏休みに始まった校舎改修の為、厚生会館の3人部屋の一角でこの原稿を書いています。年度当初は、一人部屋だったので右も左も分からない状況でしたが、今は同部屋の先生方に何かと相談できるので、大変助かっています。

昨年度までは宮崎市内に住んでいました。マンション11階のベランダからは、東には日向灘、西にははるか遠くに霧島連山を望むことができました。霧島連山を宮崎市側から眺めると、左端に高千穂の峰、右端に韓国岳が見えます。一方、隼人からは北に高千穂の峰、その左側に霧島連山が望めます。山の好きな私にとっては「隼人に来たのだ。」と実感する景色です。

鹿児島高専に赴任して9か月足らずですが、様々な経験ができました。野球部の顧問という立場で5月にNHK杯を、7月には地区予選をベンチから観戦しました。プロ野球は良く観ますが、高校野球についてはあまり詳しくありません。ベンチにいても何の役にも立てませんでしたが、強豪校や進学校などとの対戦を選手と同じ目線で観ることができ、高校野球の何とも言えない独特の雰囲気味わうことができました。

11月にはデザコン構造部門への参加の為、米子市に行ってきました。今年度の課題はヒノキを使った4点支持・2点載荷の構造物でした。私自身、初めての参加ということに加え、昨年度参加した学生も1名のみということで、ほとんどゼロからのスタートでした。実験の状況では十分に上位を狙えたのですが、残念ながら中くらの順位に終わってしまい、本当に悔しい思いをしました。来年度こそはと、密かにリベンジを誓っています。

高専では勉強だけではなく部活動や技術競技など、学生が様々な分野に挑戦でき、その点では高校や大学に比べて恵まれているように感じます。高専での経験はその後の人生を大きく左右します。少しでも多くの良い経験ができるように、自ら挑戦する気持ちを忘れないでほしいと思います。私も微力ながら応援していきたいと思っておりますし、新たな経験ができることを楽しみにしています。

新任挨拶

総務課施設係長 西元 悦洋

平成25年7月1日付けで、鹿児島大学医学部・歯学部附属病院管理課電気設備係から赴任して参りました西元悦洋（にしもと よしひろ）と申します。

着任直後からイベントが目白押しで創立50周年という節目の年に鹿児島高専にお呼びいただいたことに非常に感謝しながら毎日通勤しています。

赴任して6ヶ月、ようやく通勤にも職場の雰囲気にも慣れてきました。5時半には起床し1時間半かけて通勤するという今までに無いライフスタイルになりましたが、車大好きオヤジの私にとって通勤自体はあまり苦ではなく、かえって嬉しくもありますが、やはり早起きは苦手です。

前職では主に通信設備の設備構成の企画、設計、メンテナンスを行っていましたが、こちらに来て仕事内容は一変し、全ての事を手探り、あたふたしながら何とかこなしています。

本職では施設に関するあらゆる事に対応出来なくては話しになりません。水漏れ排水詰まりはクラシアンとはいかないのが現状で毎日の些細なことが勉強になります。

もっともっと構内の施設に関する情報、知識を吸収し、今後はよりよい高専のクラシアンではなく便利屋さんになれるよう精進いたしますので皆様方どうかお見知り置きください。

新任のご挨拶

学生課教務係主任 大山 祐紀子

平成25年7月1日付で、鹿児島大学より参りました、大山祐紀子と申します。

新任のご挨拶と申しましても、以前平成17年4月より3年間、現在の総務課財務係に在籍していたこともありまので、まったくの新任ではございません。

しかし、学生課の仕事は大学でも高専でも自分の担当の仕事として取り組んだことが無く、あたふたしている毎日です。噴水をはさんだ管理棟で、連日会計書類を作成していた時と違い、学生共通棟にいと毎日色々なあと思うのが正直な感想ですが、昔々、学校事務の仕事に就きたいと思った初心を取り戻せます。

また、出身が旧「始良郡隼人町」、出身中学が隣の「隼人中学校」という地元民でございます。

ちょっと離れてみたからわかる霧島市隼人町のここが良いところ、と思うことをあげてみますと、桜島の火山灰があまり降らない、出かける際も空港や高速道路が使いやすい、良い温泉が多い（特に妙見温泉）、泳げる砂浜も手ごろに登れる山も近くにある、参拝するにも立派な神宮が近くにある、という点でしょうか。昔はあまりお店などもなく、田舎だなあと感じていましたが、今だからわかる良さがあります。

最後になりましたが不慣れな故、様々ご迷惑をおかけすることもあるとおもいます。ご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

新任挨拶

総務課用度係員 橋之口 美希

平成25年7月1日付けで鹿児島大学から赴任して参りました橋之口美希と申します。

赴任してから半年が経ち、通勤にも慣れ徐々に教職員の方々の顔と名前が一致してきたところです。また、用度係の仕事も周りの方々に助けていただき、少しずつ慣れてきました。

高専に赴任する前は、桜ヶ丘にあります鹿児島大学病院で4年間、用度係と同じような契約の仕事をしていました。ただ、同じようなとはいいまでも、病院と学校の違い、またこちらに来て初めて耳にするような名前の部品や備品調達に苦労しているところです。これまでも先生方にはご迷惑をおかけしているかと思いますが、慣れていきますのでよろしく願いいたします。

これまで大学病院ではほとんど学生さんを見ることはなく、すれちがうのは患者さんばかりでしたが、ここでは学生さんと挨拶をしたり、部活の様子を見ることができたり、学校行事がたくさんあったりと、今までとは違う新鮮な気持ちで毎日過ごしています。

ところで、高専への赴任が決まってから、今年は創立50周年を迎える節目の年であることを知りました。赴任してまもない私も11月に行われた記念式典に参加させていただき、とても貴重な経験をさせていただきました。

すばらしい歴史のある鹿児島高専で、私も教職員の方々のお役に立てるよう一生懸命頑張りますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

新任挨拶

学生課学生係員 竹下 淳哉

平成25年7月1日に鹿児島大学大学院理工学研究科から学生課学生係に赴任しました竹下淳哉と申します。

鹿児島大学では、理工学研究科内の科学研究費等の競争的資金の事務手続き、放射線、遺伝子組み換え実験の手続き等の研究支援業務を主として担当しておりました。

この度配属されました学生係では主に奨学金関係業務を担当しております。

赴任してすぐに九州・沖縄地区高専体育大会、体育祭、文化祭等の大会、行事があり、振り返ればあっという間の半年間でした。特に、体育祭では、夜遅くまで演舞の練習をする応援団、櫓絵の作成に励む学生だけでなく、実行委員としていろいろと調整を行う学生等の多くの力によって無事終了し、感動を味わうことができました。

鹿児島高専とはこれまで全く縁が無かったわけではなく、出身が隣町だったこともあり、何度かクラブ活動で来たことがあったのですが、当時と比べるとグラウンドに芝生がきれいに整備されていることにとっても驚きました。また、朝のグラウンドゴルフ、昼間もゴルフの練習をする一般の方もいたりと大学とは違った雰囲気があり、錦江スポーツクラブの活動も含め、地域に根付いた開放的な学校だと感じました。

今までとは全く異なる業務内容ということもあり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、学生とのコミュニケーションを図りつつ、少しでも鹿児島高専の力になるよう努力していきたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻くださいますようお願いいたします。

新任挨拶

学生課学生係員 塩盛 秀彰

平成25年4月1日付けで採用されまして、学生課学生係で勤務しております塩盛秀彰（しおもりひであき）と申します。

私の出身はここ霧島市です。地元の高校から鹿児島市内の大学へ進学したため一度も霧島市から出たことがございません。霧島市は食べ物が美味しく、温泉がたくさんあり、長年住んでいても霧島市はとても良い所だと思います。また、ずっとこの霧島市で育ったので、鹿児島高専のことはとても存じ上げております。高専祭や就職率のことなど、鹿児島高専は何においても素晴らしい学校です。

私は、中学の頃、鹿児島高専を志願しておりました。ですが、頭が悪かったため鹿児島高専に入ることができませんでした。高校時代、何度鹿児島高専に入ることができたならと思ったこともあります。ですが今、学生時代に憧れた鹿児島高専に職員として採用され、学生のために働くことができ、大変嬉しく思っております。就いた当初は業務が務まるのか大変心配でした。ですが、鹿児島高専の教職員の方々はとても優しく親切で熱心な方ばかりでしたので、すぐに良い緊張感に変わり、充実した環境で業務を行うことができています。今思い返してみても鹿児島高専の職員となれたことを大変嬉しく思っております。

配属されました学生係は、高専祭や高専大会の運営、学生の就職活動のサポートなど学生の行事・生活に携わる業務が多いため、事務職という立場では学生と一番近くで接することができます。また、鹿児島高専に来た当初はすれ違う学生が皆元気良く挨拶をしてくれることに大変驚きました。今では日々、学生からエネルギーをもらって勤務していると言っても過言ではない気がします。学生からもらったエネルギーを少しでも多く学生へ還元していきたいと思っております。

これから先鹿児島高専には大変お世話になります。H25年3月に大学を卒業して、まだ学生気分の抜けていない未熟者の私ですが、鹿児島高専で様々なことを学び、少しでも鹿児島高専の発展の役に立てるよう精進して参ります。教職員の方々には大変ご迷惑をお掛けしておりますが、引き続きご指導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新任挨拶

技術室技術職員 福永 隆之

平成25年4月1日付けで採用され、技術室で勤務しております、福永と申します。平成20年3月に鹿児島高専土木学科を卒業した後、熊本大学へ編入し卒業後、東京工業大学大学院へ進学しました。大学院修了後は、化学製品関係の研究所で1年間勤務し、今に至ります。縁あって母校で勤務することを大変うれしく思っています。

大学院では国際開発工学を専攻していました。国際開発工学は発展途上国の発展に必要な工業の分野（機械、電気、情報、土木、化学等）が集まった学科で、ほとんどの学生は留学生でした。国籍を超えて様々な分野の学生と議論することを通して、自分の専門では解決することができない問題も他分野の専門の手を借りれば容易に解決することが出来るということ学びました。現在の職場である技術室では、様々な分野を専門としている方ばかりなので、とても楽しく日々を過ごしています。

私の業務は、主に都市環境デザイン工学科の実験・実習の補助を行っています。採用されてからあつという間に八か月が過ぎました。これまでの実験、実習を通して思ったことは、私が学んだ内容から改善され、充実し、より興味を引くような内容になっているということです。また、実験の際、学生が私の気付かなかった点や分からない点をよく質問してくれます。そのため、毎日、発見だらけでとても勉強になります。

これから長い間鹿児島高専にお世話になることになりました。この学校の発展に少しでもお役にたてるように精進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

退職にあたって

一般教科文系 あべ松 伸二

大学を卒業して3年間高校教師として勤めた後、昭和51年(1976年)4月に本校に着任しました。それから38年の歳月が流れ、この3月31日に定年を迎えることになりました。

この間、国内外において多くの方々との出会いがあり、様々な貴重な経験をさせて頂きました。授業や課外活動等では、学生諸君から自分自身の長・短を指摘してもらったり、また彼らから学んだものも少なくありません。英語表現を引用すれば正にTeaching is learning.を実感した次第です。学校業務では、多くの教職員の方々からご教示・ご協力を頂き、自分なりに仕事をこなすことができ、更に仕事を通じて色々なことを学ぶこともできました。自己流に喩えますとWorking is learning.ということになるかもしれません。本校で培った多くのことを礎にして、これからの人生を歩んでいきたいと思っています。

今回、無事に定年退職を迎えることができましたことに対しまして、教職員の方々、保護者の皆様、卒業生そして在校生諸君に心より感謝申し上げます。最後に、皆様方のご清栄と鹿児島高専の更なる発展を祈念申し上げます。退職の挨拶と致します。

退職の御挨拶

機械工学科 岩本 才次

平成21年4月に鹿児島高専機械工学科に赴任してから、瞬く間に5年の歳月が過ぎてしまい、いよいよ平成26年3月末日をもって定年退職となります。

九州大学に34年間、鹿児島高専に5年間、合わせて39年間の教員生活でした。教員生活の最後を教育に傾注しようと鹿児島高専にやって来たわけですが、今考えると教育が一番難しいと実感しています。

鹿児島高専で最もお世話になったのは、何といても機械工学科の先生方です。この紙面では語り尽せませんが、改めて深く深く御礼申し上げます。また、事務の方々にも大変お世話になりました。御礼申し上げます。



鹿児島高専を去るに当たり一番気にかかるのは、一部の学生の中に、部活さえしていれば就職も卒業もさせてもらえるという雰囲気がある事です。この原因は多分、成績劣等な学生も対外試合となれば「公欠」という授業免除の免罪符が与えられるからだと思います。ましてや土日とはいえ試験期間中に対外試合が許可されるなど信じられないことです。定期試験と中間試験は高専にとっても学生にとっても最優先行事のはずです。部活生の試験勉強の機会を奪っています。

また、卒業までの5年間、事実上座学必修科目がないことも問題であると考えています。専門教育に必要な数学基礎科目を修得しないまま進級することが可能です。苦手なものは避けて受講する、中間・期末試験で単位を落としても再評価試験や再試験で何とかかなる、単位が足りなければ、容易な学外の履修単位を取れば簡単に読み替えてもらえる、といった甘えの空気は低学年全体にも伝染しています。それは未履修者が最近多い事、補習授業の受講者が極端に少ない事にも表れています。私が赴任した5年前の5年生と現在の5年生を比較すると、短期間に相当学力が低下しています。

学生の本分は勉学です。勉学あつての部活です。成績不振者には部活はさせない、就職が内定していても、卒業するに足る学力を有しない者は卒業させない、という本校の強い教務方針の表明と、それを実行する教員に対する十分な配慮と援護が必要だと思います。

「退職の御挨拶」にはふさわしくなかったかもしれませんが、そういうことを懸念しつつも、単身赴任生活を満喫した5年間でした。何よりも温泉三昧の生活は、捨てがたい魅力でした。鹿児島に永住して朝寝・朝酒・朝湯で潰す身上(しんしょう)のないことがとても残念です。

退職後は、久留米高専に再雇用していただくことが決まっていますので、更に数年間を微力ながら高専生の教育に尽力したいと思っています。担当する予定の「制御工学」と「応用数学」は全て必修科目です。今から緊張しています。

皆様のご健勝と鹿児島高専の発展を祈念しつつ、両腕に抱えきれないくらいの楽しい思い出と共に、静かに鹿児島を去りたいと思います。

5年間大変お世話になり有難うございました。

鹿児島高専での1年間

機械工学科 山中 昇

平成25年度1年間の高専間教員交流制度にて都城高専から機械工学科に勤務しています。今回の目的は塚本教授と共に我々が担当している科目の教科書を執筆することです。進み具合は中々ですが、来年度には完成させるべく鋭意進めています。該稿執筆時はあと数ヶ月ありますが、先ずは、お世話になっています教職員・学生の皆様にお礼申し上げます。

さて、旅行と住むのでは違ふとよく言われます。これまで本校には親善試合などで何度か来ていますが、今回勤務していろいろなことを気づきました。私の趣味は体を動かすことで、年数回ジョギングや自転車、それらを組み合わせた大会に出ています。それで都城高専でも昼休みの時間を利用して筋トレやジョギングをしていました。本校でも夏場は同じようにトレーニング室を利用させてもらいました。昼休みのトレーニングで学生さんと一緒になるのは都城高専では年数回でしたが、本校では毎回のよう回数人と一緒になりました。こんなところにも本校の運動部の強さがあるのだと思います。ところで、筋トレでサッカー部の2年生とはよく会いました。始めはその2年生は3、4年生かと思っていましたが、私服であり2年生と聞いた時はビックリでした。都城高専では3年生までは学生服ですから。

スケールの大きさに感動したのが体育祭の櫓絵です。都城高専では体育競技会として実施していますが、本校と同じように櫓絵を展示しますが、本校程の大きさはありません。小職と同時に赴任した東雄一先生は、都城高専出身です。あるとき体育祭の話題で東先生が学生の頃は応援合戦や櫓絵をやっていたかという話になりました。東先生によると都城高専の応援合戦は鹿児島高専でやっていることを参考にして卒業した頃に始まり、櫓絵もその後と聞きました。鹿児島高専の櫓絵はより洗練されていて素晴らしい見事な物でした。

寮の宿直が何回かありました。12月の宿直でクリスマス前と言うこともあり食後のデザートが出ました。美味しそうなケーキだなと何気なく思っていると、その横にはちっちゃなサンタさんがいて楽しくなりました。宿直でこんな楽しいことはなかったので写真を撮りました。可愛いでしょ。勿論撮った後は美味しく頂きました。ごちそうさま。



最後に、本年が丁度本校創立50周年の目出度い年に当たり様々な記念行事に参加させて頂き楽しい思い出になりました。今後の50年に向けて鹿児島高専のさらなる発展を祈念いたします。

鹿児島高専での2年間

電気電子工学科 瀬濤 喜信

長いようで短かった鹿児島での2年間が終わりを迎えるようにしています。毎日のように見ている桜島とお別れすると思うと寂しい気持ちでいっぱいです。

「高専・両技科大間教員交流制度」によって、弓削商船高専から2年間、鹿児島高専電気電子工学科にお世話になりました。楠原先生をはじめ電気電子工学科の諸先生方、技術室の皆様のご支援とご協力のおかげで、なんとか業務をこなすことができました。また、この1年間学生主事補としてやってこられたのは、学生課の皆様のサポートのおかげです。紙面をお借りして心より御礼申し上げます。

鹿児島高専は、体育系クラブの全国レベルの活躍のみならず、ロボコンは6年連続全国大会出場（現在も継続中）など文化系クラブも素晴らしい成果を上げています。こちらに来るにあたって、無理をお願いしてテニス部とメカトロニクス研究部の顧問をさせていただきました。

ロボコンでは鹿児島高専の学生達が一生懸命ロボットを製作する姿や、指導されている顧問の先生と技術室の方々の献身的なサポートを見ることができ、とても勉強になりました。また、両国国技館で行われるロボコンの全国大会に連れて行っていただき、初めて全国大会を見ることができてすごく嬉しかったです。顧問としては何もできなくてご迷惑ばかりおかけしたと思いますが、本当に感謝しています。

テニス部では、4月に初めてラケットを持った学生達が毎日休むことなく練習し、どんどん上達していくのを見て、顧問の先生の指導力、技術力、熱意に感動しました。また、九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会の男子団体決勝戦では、張り詰めた空気のなか、しっかりとプレーをしている鹿児島高専の学生達をみて、緊張感を持って行っている厳しい練習の成果だと感じました。

授業では電気電子工学科の3、4年生を対象に主に電気回路の科目を担当しました。初年度はお互い緊張もありましたが、2年目は和やかな雰囲気授業できたと感じています。また、専攻科の環境創造工学プロジェクトという科目では、他学科の先生と一緒に授業をすることができて、とても勉強になりました。

最後になりますが、鹿児島高専に来て、多くのことを経験できたことをとても嬉しく思っています。本当に楽しく充実した2年間でした。またいつか、みなさんにお会いできる日を楽しみにしています。

平成25年度教育功労者表彰について

この教育功労者は、本校の教育、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた方を表彰するものです。

教育功労者選考委員会委員及び各学科等の長から推薦のあった方について、平成25年7月5日（金）に教育功労者選考委員会を開催し、選考の結果、一般教育科文系保坂 直之教授及び一般教育科文系松田 信彦 教授が平成25年度教育功労者に決定しました。この表彰式が、平成25年8月2日（金）に校長室で行われ、表彰状及び記念品が授与されました。

所 属	氏 名
一般教育科文系	保 坂 直 之 教 授
一般教育科文系	松 田 信 彦 教 授



平成25年度国際交流事業

校長特別補佐（国際交流・留学生担当） 椎 保幸

現在、本校が主体的に行っている国際的な活動としては、海外語学研修、国際学生交流、留学生支援活動等が挙げられます。そこで、これらの活動に関して平成25年度に実施された事業および実施予定のものについて報告いたします。

[1]海外語学研修

①平成25年度アメリカ語学研修

日 時：平成25年9月11日から9月20日

研修先：カリフォルニア州ロサンゼルス

対 象：本科1～3年生

参加者：1年生6名、2年生14名、3年生12名
計32名（うち女子学生4名）

引率者：林国際交流委員、新田国際交流委員、中村一般科目文系准教授

[2]国際学生交流

①第6回テマセクポリテクニクとの学生交流

日 時：平成25年9月11日から9月18日

場 所：テマセクポリテクニク（シンガポール）

対 象：本科3、4年生

参加者：3年生17名（うち女子学生5名）

引率者：野澤国際交流委員、小田原国際交流委員、椎

[3]留学生支援活動

①留学生パーティ

日 時：平成25年10月4日（金）

場 所：本校志学寮食堂

参加者：留学生、寮生会、関係教職員

②平成25年度九州沖縄地区留学生交流研修会

日 時：平成25年10月19日（土）、20日（日）

場 所：宮崎県内（担当校：都城高専）

参加者：全体53名（本校留学生4名）

引率者：前薮電気電子工学科講師（4E担任）

③霧島ふるさと祭2013

日 時：11月2日（土）、3日（日）

場 所：国分シビックセンター お祭り広場

内 容：パネル作成および展示

④平成25年度留学生意見交換会および送別会

日 時：平成26年2月末（予定）

場 所：本校

内 容：留学生の近況報告および卒業生送別会



写真1 アメリカ語学研修の様子



写真2 テマセクポリテクニク学生交流の様子



写真3 留学生パーティの様子



平成25年度の広報委員会の活動 について

広報委員会委員長 大竹 孝明

広報委員会委員長を担当して6年目となりましたが、委員会の担当事項も広報誌、ホームページ、「鹿児島高専の日」、「九州沖縄地区高専フォーラム」や全国高専教育フォーラム等での事例発表等、非常に幅広くなってきております。各科及び技術室の広報委員会委員並びに企画係の皆様には、ご協力を頂き感謝申し上げます。

広報 (PR) につきましても、学内の全ての部門に関係し、皆様方のご協力が不可欠ですので、本校及び地域の活性化のため今後ともよろしくお願い致します。

今年度の主な活動内容と、代表例として第5回目の“小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2013」”及び「第23回九州沖縄地区高専フォーラム」についてご報告致します。

1. 平成25年度の主な活動内容

- ①「平成25年度 学校要覧」の発行
- ②「かごしま県民交流センター（鹿児島市）2階展示コーナー」での本校PR、6月7日より6月26日まで
- ③“小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2013」”:独立行政法人科学技術振興機構 (JST) 「平成25年度科学技術コミュニケーション推進事業 機関活動支援」事業
 - ・8月11日、鹿児島市立科学館との共催
 - ・12月15日、かごしま県民交流センター、かごしま県民大学連携講座、かごしま県民大学中央センターとの共催
- ④九州沖縄地区高専「科学技術教育支援WG」による「高専サイエンス支援ネット in 九州沖縄」の連携校
- ⑤鹿児島高専だより第68号の発行
- ⑥かごしま県民大学連携講座による公開講座等の実施
- ⑦「本校紹介用のプロモーションビデオ (DVD)」の配布
- ⑧「第23回九州沖縄地区高専フォーラム」の開催及び事例発表：12月15日、かごしま県民交流センター
- ⑨「第18回高専シンポジウム in 久留米」への出席及び事例発表：1月25日、久留米高専 (久留米市)
- ⑩「第11回全国高専テクノフォーラム」及び「平成25年度全国高専教育フォーラム」への出席及び事例発表：8月20日～23日、愛知県産業労働センター (名古屋市)、豊橋技術科学大学 (豊橋市)

2. “小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2013」”について

鹿児島高専では、鹿児島市立科学館との連携により、これまでに科学実験工作教室やロボットの動作説明等の各種イベントを通じて科学に対する興味や関心を高め、夢や創造性を育む機会を設ける事業を実施してきました。本事業は、独立行政法人科学技術振興機構 (JST) の「平成25年度科学技術コミュニケーション推進事業 機関活動支援」に“小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2013」”のテーマで申請し、5年連続で採択されました。本企画を、鹿児島高専を地域へ広くPRし、科学技術者育成を行う本校への志願者増に向けた広報活動の一環とも位置づけ、科学実験工作教室や展示等を企画し、第一回目を平成25年8月11日 (日) に鹿児島市立科学館にて実施しました。

今年度の第一回目の活動内容については、表1に示す通りですが、学内の6学科の他、鹿児島市立科学館による小中学生向けの科学実験工作教室を行いました。

また、音楽と科学の融合ショー、高専ロボコン全国大会出場のロボットの紹介や各科の展示及び科学実験、学校説明会や進学相談等の企画も実施しました。

表1 “小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2013」 in鹿児島市立科学館”における活動内容 (平成25年8月11日(日))

I 科学実験工作教室 小学生及び中学生(事前応募)	
①パスタで橋を作ろう	②紙トンボを作ろう
③～嗚呼！簡単、電子回路工作～ 電気で音と光を操って、電子楽器を作ろう	
④4足歩行ロボットを作ろう	⑤ライトレーサロボットを作ろう
⑥彫金で銅板表札を作ろう	
II 音楽と科学の融合ショーや各科の科学実験、学校紹介等 (鹿児島市立科学館の一般来館者)	
1. 楽器の音をオシロスコープで見る	2. 学生が製作した高専ロボコン全国大会出場のロボットの紹介
3. 鹿児島高専学校紹介 (学校説明会、進学相談)	
4. 機械、電気電子、都市環境デザイン工学科及び一般教育科理系による実験工作教室	
①ポンポン船を作って走らせよう！	
②体験！超簡単エレクトロニクス工作	
③安心・安全・美味しい水	④シュワシュワあわロケットで宇宙へ！
⑤サッカーボールを作ろう！	
5. 機械、電気電子、電子制御、情報及び都市環境デザイン工学科による展示及び科学実験	
①ロボット車で遊ぼう！、スターリングエンジンの世界！	
②クリーンエネルギーとエレクトロニクスショー	
③体験しよう！電子制御の世界	
④体験、情報工学	
⑤人の眼はなぜ二つあるの？～3Dの基本～	

今年度の「鹿児島高専の日2013」については、年2回のイベントを開催することとし、第2回目を12月15日(日)にかごしま県民大学中央センターとの共催で、かごしま県民大学連携講座として、かごしま県民交流センター(大ホール)にて開催しました。本イベントでの科学実験工作教室は、学内からの7件に加え、九州沖縄地区の高専で協力しながら地域の理科教育支援に取り組んできた、「九州沖縄地区高専科学技術教育支援WG」のメンバーである各高専の担当者による9件の科学実験工作教室及び、鹿児島市立科学館からの1件の合計17件の実験テーマにより行いました。また、ロビーでは「エコラン出場マシンの展示」、「高専ロボコンロボットの展示」及び「進学相談コーナー」での面談等を行っています。

今回、かごしま県民交流センターでの初めての開催にもかかわらず、400名近くの参加者があり、鹿児島高専を地域へ広くPRし、科学技術者育成を行う本校への志願者増に向けた広報活動の一環となりました。

表2 「小中学生のためのものづくり・科学教室
「鹿児島高専の日2013」 inかごしま県民交流センター
における活動内容 (平成25年12月15日(日))

I 科学実験工作教室	一般来場者の小学生及び中学生向け 大ホールA、展示ロビー(2階)及び県政記念公園(屋外)
1. 鹿児島高専	①機械工学科(ビー玉や空き缶でエンジンを作ろう！) ②電気電子工学科(風力で発電してみよう) ③電子制御工学科(4つの足で動物のように歩くロボット) ④情報工学科(あなたが楽器) ⑤都市環境デザイン工学科(折り紙建築でつくる世界遺産) ⑥一般教育科理系物理 (シュワシュワあわロケットで宇宙へ！) ⑦一般教育科理系数学(サッカーボールを作ろう！)
2. 久留米高専	(リサージュ図形 -ふりこで描く不思議の図形-)
3. 有明高専	(作って動かそう、おもしろメカニズム)
4. 北九州高専	(謎の飛行物体・空中コマ)
5. 佐世保高専	(イライラ棒で遊ぼう！)
6. 熊本高専八代キャンパス	(ミニミニ科学館)
7. 熊本高専熊本キャンパス	(ホッチキスで電子オルゴールづくり)
8. 大分高専	(「たつまき」をつかもう)
9. 都城高専	(ゲルをつかかって「芳香剤」をつくらう！)
10. 沖縄高専	(風船ホバーを作って遊ぼう！)
11. 鹿児島市立科学館	(ガリコプターを作ろう)
II 九州沖縄地区高専の紹介・展示	一般来場者向け 展示ロビー(2階)
1. 九州沖縄地区各高専の学校紹介及び展示	
2. 鹿児島高専の全国高専ロボコン大会出場ロボットの展示	
3. 鹿児島高専のエコラン出場マシンの展示・ビデオ紹介	

3. 「第23回九州沖縄地区高専フォーラム」の開催

12月15日(日)に、第23回九州沖縄地区高専フォーラムを「高専設立50周年-高専のグローバルな取り組み-」のテーマで、かごしま県民交流センター(中ホール)にて“小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2013」 inかごしま県民交流センター”と同時に開催しました。今回は、本校教員による2件を含め4件の一般講演及び1件の特別講演と、九州沖縄地区高専の学生及び教職員等によるポスターセッションを、下記の要領ならびに表3の内容で行いました。

ポスターセッションでは、学内からの15件を含め36件の研究発表が行われました。フォーラムには、研究発表も含め100名近くが参加し盛会でした。

第23回九州沖縄地区高専フォーラム実施要領

テーマ：高専設立50周年-高専のグローバルな取り組み-
日 時：平成25年12月15日(日) 10時～17時
会 場：かごしま県民交流センター2階 中ホール他
主 催：鹿児島工業高等専門学校、九州沖縄地区高専フォーラム協議会
共 催：日本化学会九州支部、錦江湾テクノパーククラブ(KTC)、九州・沖縄地区科学技術教育支援WG、南九州化学工学懇話会

表3 「第23回九州沖縄地区高専フォーラム」における
内容 (平成25年12月15日(日))

I 講演第一部 高専の地域(ローカル)との連携の取り組み	中ホール(2階)
①鹿児島高専の地域連携(人材育成事業、KTC等の取り組み) 鹿児島高専地域共同テクノセンター長 宮田千加良 氏 ②九州沖縄地区高専「科学技術教育支援WG」の活動 熊本高専八代キャンパス建築社会デザイン工学科 特任教授 大河内康正 氏	
II 講演第二部 高専の国際交流(グローバル)の取り組み	中ホール(2階)
①九州沖縄地区高専の国際交流事業について 鹿児島高専前教務主事(前副校長) 植村眞一郎 氏 ②タイとの国際交流事業等について 久留米高専制御情報工学科准教授 黒木祥光 氏	
IIIポスターセッション(研究発表)	大ホールB(2階)
1. 九州沖縄地区各高専の学生及び教職員他	
IV特別講演	中ホール(2階)
鹿児島の地域連携及び国際交流の歴史 志学館大学教授(鹿児島県立図書館館長) 原口 泉 氏	



高専って本当にすごい！

平成23年度機械工学科卒
熊本大学工学部 マテリアル工学科4年 鮫島 佳

在学生のみなさん、こんにちは。熊本大学に編入して2年が経ち現在学部4年生です。大学生活にも慣れ、現在は研究に明け暮れる日々をおくっています。高専の機械工学科を卒業し、熊本大学工学部マテリアル工学科に編入しました。熊本大学のマテリアル工学科へは僕が鹿児島高専からの初めての編入生になります。熊大にも機械工学科はあり、鹿児島高専の機械科から多くの方が熊大の機械工学科に編入しています。現時点で学部と大学院を合わせて7名の鹿児島高専機械科出身が在籍しており、OB会と称して塚本先生をお招きして交歓会を開いております。

きっとみなさんは「この人は機械工学科ではなく、聞きなれない学科に入ったんだなあ」と思ったでしょう。では、僕がなぜマテリアル工学科に編入したのか。その理由は、高専のころから材料学に興味があり、材料学をさらに専門的に学びたいと思ったからです。高専で基本的な材料学の知識は身につけているつもりでした。しかし、実際に材料学を学んでいくと、奥が深く、自分の知らないこともたくさんあり、初めての編入生と言うことで先輩の情報もなく、苦勞することもありました。それでも、僕には材料学を学びたいという強い思いがあったので、学科を変えてでも編入して良かったと思っています。僕のように学科を変えて編入するというケースは稀ですが、このような道もあるんだと知っていただけたら幸せです。僕は来年度からは自然科学研究科のマテリアル専攻で、更に材料の研究をしようと思っています。

話は変わりますが、高専って本当にすごいんですよ。大学生よりも2年早く卒業し、誰もが知る大企業に就職でき、さらに学びたいと思ったら大学の3年生に編入できる。大学に編入して実感しましたが、高専生が就職するような大企業には学部卒業時には就職できず、求人数は高専の半分もありません。本当に高専生は幸せ者です。

最後に、在学生のみなさん。日々どのような高専生活をおくっていますか。高専を卒業した先輩である僕からみなさんに言いたいことがあります。高専で学んだことは何一つ無駄にはなりません。勉強だけでなく、部活動に応援団、高専生だからこそ味わえる青春があると思います。それらの経験は、将来必ず役に立ちます。高専生としての誇りを持って日々楽しく充実した高専生活をおくってください。

学生の時に見つけるべきもの

電気電子工学科41期生 村山 大樹

私は平成20年に本科の電気電子工学科を卒業後、専攻科、大学院を経て、現在は、本田技術研究所2輪R&Dセンターで二輪の設計・開発業務に携わっています。開発なんて偉そうなこと言っても、まだ就職して2年目の下っ端で、こなすどころか仕事に追いかけてまわされる毎日なので、学生のころ思っていたことと、今とこれらについて学生のころの経験がどのように影響しているかを1/1の体験をもとに、「学生の時に見つけておくもの」を文章にしてみようと思います。

思い返してみれば、高専に入学する時に考えてたとは、「5年間適当に勉強して、大企業行くんだ！」なんて、今どき誰でも考えていそうな軽い気持ちを持ってました。成績は万年中の中。5年間馬鹿ばかりやりました。しかし、就職活動は突然やってくるのです。4年になると、これまで養われる側だったのが全く逆の立場になるための第一歩を踏み出すために、自分の仕事・食いぶちを探すんだ！！と一斉に号令がかかります。そんなこと言われたってやったこともないのに分かんないよ！攻めの進学だ！（就職から逃げた感も否めませんが）と専攻科で、好きでもない勉強を続けることを決めました。専攻科ではバイクに乗り始めて、学校かバイトかバイクのヘビーローテーションでした。とにかく、やることやっとならば自由時間が多くて最高でした。

専攻科に入ってもあつという間にまた就職活動の号令が、かかるかと思いきや、なんだか自分次第で、どこを受けるにも自分で動いてバンバン進めないとな企業は待ってはくれませんでした。（この時、高専の学生は世間の就職活動には盲目すぎることを実感しました。）攻めの進学だ！（二度目）。研究を真面目？実直？にやっていたこともあり、九工大の研究室に拾って頂くことができました。そこでも、バイクか研究のどちらかを常にまわしていました。大学院もたった2年しかありません。またまた就職活動です。三度目はもうありません。大学院に入った1年目からインターンシップ・企業研究とあの手この手で就活にいそしみ、見事内定を得ることができました。この経験を振り返ってみると、いろいろなことが見えてきます。一つ目は5年間が全てではない、チャンスは多く眠っている。ということです。もう一つ、就活中にも入社後も盛んに耳にする「高専卒は良く動く」という言葉です。5年間の教育の中には、ただ、しかれたルールを、いい意味で“適当”に走るだけで、大卒レベルの「基礎知識」と「行動力」が自動で身に付いていることの裏付けだと思っています。知識がないと動けないし、頭でっか

ちでも動き出すことはありません。実験・専門科目・校風、いろいろと学生のころは気づけない良いところが高専にはたくさんあります。逆にそういうことを自分から身に付けようと頭を使わなくてもいいかもしれません。

じゃあ、高専生活で他に何を見つけるのか。友達です！他の学校にはない時間的長さの中で、同じ教育を受ける仲間ほど心強いものはありません。レポートとかレポートとか。これは冗談として、高専時代も専攻科時代も大学院時代も、頼れて、一緒に馬鹿をできるいいやつがたくさんいました。何かと助け合っていました。今でも交友は深いです。みんな地元は鹿児島なので、結婚式の度に毎回帰ってくるのはお財布が辛いですが（笑）。学生のみなさんも一緒に夢を追えるような素晴らしい仲間を作ってください。そう、あともう一つ付け加えるとすれば「夢」です。前に進む強い原動力になってくれます。私の夢は世界グランプリを走る二輪に技術者として携わることです。世界一速いバイクを手掛ける。気合いと根性で絶対に成し遂げます。そうなったらまたこんなところ行って、こんなこと学んだ、とかこの場で書かせてもらえたら幸いです。学生のみなさん、これからも楽しく学生生活を謳歌してください！！

在校生の皆さんへ

電子制御工学科10期生（2005年卒） 上野 大輔

私が本校を卒業から約10年が経ちました。卒業の時に想像した時ときとは違いますが楽しく過ごしています。いま私は営業として、太陽光パネルの販売や施工をしています。主な仕事内容は、契約から施工の日程までの管理を行っていますが、実際に屋根の上に登り太陽光パネルの取り付けも行なっています。今まで私が学習してきたこととは違う分野で、大変なことが多いのですが、それでもやり抜くことができているのは高専時代の経験が大きいと思います。約5年間いた寮生活で色んな人と生活を共にしたことで、いい人間関係を築くことへの自信に繋がっています。なにより、工学の知識がなく入学したのに、卒業までできたことが未知の分野に挑戦するときの自分の背中を押してくれていると思います。

私は昨年の4月に転職しました。前会社の事情もありましたが、何も当てもなく仕事を探していたとき、今の会社に採用されるきっかけとなったのが高専卒ということでした。先輩方の功績により、会社内で高専生を積極的に採用しようということでした。この話を戴いたときほど高専生の凄さと入学してよかったなど実感したことはありませんでした。通常であれば、前の開発という職種から、まったく分野も違う業種の営業に採用してもらうことは非常に難しいと思います。しかし、高専卒というだけで自分の能力以上の評価を戴けたのも今までの高専の歴史があってこそなんだと思います。

思い返せば、在学中は将来の自分の姿が見えず悩んだ時期がありました。そんな過去の自分と同じ悩みのある在学生在がいたら言いたいのは、

「その道を進むことに自信をもて」

ということです。正しいか間違いかということ判断するのは非常に難しいですが、その道を進んできたことを悩む時間はもったいないと思います。高専生活のなかで得たことが直結して答えは出ないかもしれませんが、何か他の形で必ず芽がでます。大事なことはそのことに気づき育てることではないでしょうか。なので、今の高専生活を大いに楽しみ、色々な経験をたくさん増やしてみてください。



在校生の皆さんへ

情報工学科23期生 横山 拓真

在校生、及び保護者の皆様、こんにちは。平成24年度に情報工学科を卒業し、現在はメタウォーター株式会社に勤務しております、横山拓真と申します。この度は、4・5年生時に担任としてお世話になった玉利先生より、お話を頂き、高専だよりに寄稿する運びとなりました。今回は皆さんに卒業生として何かアドバイスできたらと思い、少しでも私の話を含めながらお話させていただきます。

私はまだ社会人になってから、10ヶ月程しか経っていないペーパーの新米社員で、「社会人とは…」と語るにはまだまだなので、学生から新社会人になって変化した気持ちや考え方について率直にお話しようと思います。

まず社会人になってまず1番に思ったことは、時間管理の大切さです。社会人になって学生の頃と比べると自分のために使える時間というものが減ったと感じます。資格の勉強をする時間も同期と遊ぶ時間も自分の趣味の時間もある程度限られてきます。私が高専生だった頃は、時間がある時にやればいいやあという考えでしたが、社会人になって、しっかり計画を立て、それを実行していくことが大事だなと感じました。なので、高専にいる内から、いろんなことを計画的に行っていく癖をつけておけば、社会人になってから時間管理で困る事はないと思います。

次に、社会人になって思ったことは、まったく年齢の違う人のコミュニケーションを取ることの大切さです。会社に入って仕事をしてみると、一緒に働いている人の年齢は同じ年から自分の親と同じくらいの年の人まで様々です。その中で仕事を円滑に進めるにはコミュニケーションは欠かせず、年齢のまったく違う人とも上手く話せないといけません。なので今のうちから年の離れた人、(例えば高専の先生や、バイト先の人など)と話をしておいておくことをおすすめします。

最後に高専でできた友人は一生の友です。卒業し、就職・進学でバラバラになっても、GWやお盆休みやお正月休みなどの長期休暇で鹿児島に帰ったらみんなで集まって、遊んだり、お酒を呑んだりできる友人です。普段でもたまに近くに就職した人を集めて呑んで、仕事の事だったり、プライベートの事だったり、高専時代の思い出など語り合ったりしてます。なので、高専でできた友人の輪は大切にしましょう!!

以上大したことはいってありませんが、何事にも「食欲」に、遊びも勉強も全力で、卒業してから悔いが残らないような充実した学生生活を送ってください。応援しています。

在校生の皆さんへ

土木工学科 第41期生 大原 涼平

「¡Hola! ¿Qué tal?」
と、拙いスペイン語を使う私は、平成24年3月に土木工学科(現：都市環境デザイン工学科)を卒業



後、長岡技術科学大学建設工学課程に編入学しました。そして、平成26年4月から同大学大学院建設工学専攻に進学する予定です。

なぜ、冒頭にスペイン語の挨拶が出てきたのかといいますと、平成25年9月から平成26年2月までスペインのカタルニア工科大学(UPC)の建設材料研究室に研究室の一員として短期留学しているからです。

この留学は、同大学の特徴の1つである長期実務訓練の一環で、学部4年次の9・10月～2月を国内もしくは海外の企業や大学で学ぶという制度を利用したものです。

UPCの研究室では、うろ覚えの中学英語を駆使した簡単な英会話で楽しく意思疎通を図り、博士課程の研究の補助を行いつつ、英論を読む日々を送っています。

スペインに留学して、①世界共通の言語としての英語の重要性、②より広い視野で将来の目標と計画を持つこと、の2つを実感しました。

①に関して、日常会話は中学英語でなんとかなるので安心してください。しかし、英論や公式な場では専門用語と文法について勉強する必要があるので気をつけてください。「英語ができない高専生」として、5年間悠々自適に過ごしたことを少し後悔しています。「できない」というよりは「やらない」方でしたが…

②に関して、高専生の時から大まかな将来の目標と計画を持って行動していたつもりでした。しかし、海外のことなど全く考えていませんでした。思えば、海外へ行くことは十分考えられることだったのに…

このように実感したのですが、どれも高専在学中に少し考えればわかることだったと思います。ただ、そのような後悔よりも高専5年間で、授業・レポート・卒研で結果を出す過程を知り、部活動・寮生活・試験期間で頼りなバイタリティーを身につけ、級友・先輩・後輩とともに遊ぶことの大切さを学べたことが、これからの進学・就職の大きな糧となっています。

在校生の皆さん、高専5年間はあっという間に過ぎてしまいます。進学や就職などの目標を持ち、自己責任の名のもとによく遊び、よく学んでください!「¡Adiós!»

高専生活でしょ!!!

機械・電子システム工学専攻 平成24年3月修了
中島 佑太郎

鹿児島工業高等専門学校の皆様、ご無沙汰しております。初めましての方もいらっしゃるかもしれませんね。私の学生時代の中核を占めているといっても過言ではない鹿児島高専を修了してから今年で2年、現在は大学院にて研究に励んでおり、春からは新社会人として医療機器メーカーにて開発・設計を行います。初めに高専便り執筆の機会をいただいたことに感謝申し上げます。堅苦しい文章はここまでにして、以下、今後私と同じような道を歩もうと考えている方、もしくはまだ道が決まっていな方向けに私の経験をもとに語らせていただきます。

スキルを磨く!!!私が言いたいことはこの一言に限る。大学院での研究生活および就職活動を通して、私はスキルの大切さをあらためて感じた。物事を成すとき自分一人でやりきることは多くない。それが重要な事項となればなおさらだ。チームを組み、物事に取り組む。このときチームの構成員はそれぞれ役割を持っているはずである。構成員は自分のスキルをもってこの役割を全うする。私が所属している研究室は多くの分野の方がいらっしゃるの、多様なスキルを保有している。研究に関して、困難な壁に直面しても他人の持つスキルにて、解決を図ることができる。私は現在、脳の機能について研究を行っているが、脳細胞は異なる細胞間で相互的に作用し、その機能を維持している。私達人間も同じで、相互作用することによって本当の力を発揮するものだと思う。そのためにも自分の特徴となるスキルを磨くことは最重要である。ただスキルといっても、必ずしも技能(プログラミング等)である必要はないと思う。実際に私は技能的なスキルを持っているとは思っていない。

スキルを磨くことにおいて、高専は非常に有効な場所だと思う。なぜなら自由な時間が多く、環境も整っているからだ。皆さんはこの自由な時間を有意義に利用できているだろうか?資格取得のために勉強、熱気あふれる部活動へ励む等他にもあると思う。もちろん遊ぶことだって重要だ。私は勉強・部活動とバランスをとって注力してきたつもりだったが、今考えると部活動へ大幅に傾いていたと思う。楽しかったから仕方ない。もちろん練習はきついが、レースに勝利したときの喜びを知ってしまったら、どんなきつさも乗り越えられた。私は陸上部にて周りの方と相談しながら自分の練習メニューを作成していた。未来の自分を予想し、大きな目標、小さな目標を計画していく。この計画性が私の持つスキルの1つだと思う。もう1つ、私は陸上部にて主将を務めるこ

とにより、チームをまとめる力を磨いてきた。字数の関係で部活のことしか書けなかったが今の自分があるのは高専時代の多くの経験が活かした結果だと思う。

「自分は何もしてない…」と感じる方は楽しみを探す、もしくは楽しみ方を変えるのはいかがだろうか。学生生活、楽しまなきゃ損。いつ楽しむの?…

「聴く」ことの大切さ

第12回電気情報システム工学専攻修了 西園 健吾

在校生、並びに保護者の皆様、こんにちは。昨年度、本校電気情報システム工学専攻を修了致しました西園健吾と申します。現在、私は、旭化成ケミカルズ株式会社に勤務しており、火力発電所の計器類の保全業務を担当しております。今回高専だよりに寄稿するというこで、高専在学時に変えるべきだったことについて述べたいと思います。

突然ですが、在校生の皆様は授業の際、先生の話をしっかり「聴いて」おりますか。私が在学していた時は、頬杖を立てる者、机に突っ伏す者、寝ている者が多かった気がします。また、わずかですが、隠れて携帯電話を操作する者、ゲームをする者もいました。このような者の大半は、授業を「聞く」、意識して「聴く」のではなく、なんとなく聞いていたのではないかと思います。姿勢を正して、先生の目を見て、話を「聴く」者は極僅かでした。実際、私も在学中は真面目に授業を「聴く」のではなく、「聞く」ことが多かったです。これは、高学年になるにつれて顕著になっていくかと思います。

そして、いざ入社して9カ月。勤務では、先輩、上司の指示、説明を「聴く」ことが多く、「聞く」ということは滅多にありません。意識して聴かなければ、思わぬミスや事故につながります。実際、私も聞き違いでミスを犯すことが多く、設備停止につながるミスを犯したこともありました。これは、高専に計7年在学し、「聞く」ことが癖になってしまったため、ミスにつながったと思います。入社後、「聞く」から「聴く」に意識改革を行うことは、大変苦勞致しました。在学中に授業を意識して、「聴く」ことができなかったことを、とても後悔している今日この頃です。

このようにならないためにも、在校生の皆様には、是非とも在学中、授業を「聴く」ことを意識してください。これにより、「聞く」ということが癖になることを、未然に防げると思います。「聴く」ことを意識すれ

ば、就職、進学してから大いに役立ちます。また、高専は勉強を教えてもらいに行くところではなく、自ら進んで学びに行くところです。これを根底に意識すれば、自ずと聴かなければならないという意識が芽生えるのではないのでしょうか。

以上が、私にとっての高専在学時に変えるべきだったことです。ほかに挙げるとキリがないのですが、特に、就職してからこのことを痛感致しました。

最後になりますが、学生時代は人生のごくわずかです。悔いの残らないよう、たくさんの方に挑戦し、充実した高専生活を在校生の皆様が過ごされることを祈っております。

在校生の皆様へ

土木工学専攻修了生 梶原 誠

皆様、はじめまして。平成22年度土木工学専攻修了生の梶原 誠と申します。今回恩師より寄稿のお話を頂きましたので、皆様に少しでも有意義な話題をこの誌面をお借りして提供させて頂きたいと思っております。

現在、私は首都圏の某電力会社に勤務しており、『地中送電設備』の新設工事を主に担当しています。例えると水道工事に似ています。

私の業務は調査・設計・積算・発注・工事監理を始め、お客様、他企業そして道路管理者等、社外との調整があります。土木の知識はもちろん、所謂『コミュニケーション能力』も必要になります。私も社会人になってから自身の『コミュニケーション能力』の低さに気づきました。相手に分かりやすく説明することは非常に難しいものですが、経験を積むしかないと思います。学生時代にそのような場면을幾つか経験しておくといいと思います。

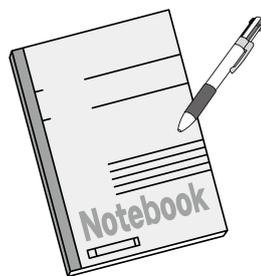
さて話は変わりますが、2013年はアベノミクスに始まり、2020年東京オリンピック開催決定、大島優子のAKB卒業(笑)と色々な話題が盛りだくさんの一年でした。首都圏ではオリンピックに向け、これからもさらに開発が進むため、土木・建築を筆頭に仕事が盛りだくさんです。在校生の皆様も是非関東への進出を考えてみてはいかがでしょうか？私の同級生をみても関東地方に就職している人は意外と少ないように思いますが、通勤地獄は若いうちに体験した方がいいかと思っております。

人生、何が起こるかわかりません。私も就職先がこんな状況になるとは思ってもいませんでした。東日本大震

災直後の就職でしたので、どん底の状態からスタートした社会人生活でしたが、何とか続いています。

学生時代は自由な時間がいっぱいあります。将来を見据えつつ、今出来ることをコツコツと積み上げることが重要だと思います。悔いの無いよう色々な事に挑戦してみてください。

最後に、今回寄稿のお話を頂きました内田先生にこの場をお借りしてお礼を申し上げるとともに、鹿児島高専の益々の発展を祈念致しまして終わりとさせていただきます。





5年間を振り返って

後援会会長 菊谷 祐次

春3月に卒業されます、学生の皆さんご卒業おめでとうございます。早いもので、息子の入学と共にクラス理事になり当時担任でした山崎先生から、菊谷さん！後援会長をやって卒業をして下さいと、笑って言われましたが、そのお言葉通りに後援会長という大役を仰せつかり、常務理事さんを始めとし大勢の皆様のご協力のもとに無事5年の期間を終えようとしております。息子を通じ、大勢の学生さん達と語り合う機会も多く、本当にたくさんの楽しい思い出や、心配事なども今振り返れば懐かしく5年間の終わりを前に、寂しさも感じています。高専での学生生活で、かけがいのない人生での友人を得て存分に学べた事は、ここまで育ててくれたご家族はもとより、クラスの仲間や諸先生方のご支援・ご指導があつての事です。この事を忘れずに社会人として活躍していただきたいと願っています。

後援会は、平成12年度の発足に伴い常任理事が任用されました。平成15年からはTOEICの支援を開始し、平成16年より各地での支部会を開催し、授業参観ツアーが開始されており、毎年各地区で行われます支部会には、多数の方においでいただいております。その中でも卒業生を招いて、社会人として歩み出されてからの苦労話を直接耳にする中で、改めて高専の卒業生が社会から認められ、期待を寄せられているということを実感しています。今後もぜひ支部会へ参加され、交流の場として活用して頂きたいと思っています。

また後援会の大きな役割として、ロボコンを始めとし各部活動への支援活動は大きな役目で、学生の皆さんの輝かし成績は、喜ばしい限りです。今後も鹿児島高専生が色々な場で、活躍してくれることを期待しています。卒業を前にしまして創立50周年の記念式典が平成24年11月1日に学校主催のもとに盛大に行われ、半世紀の歩みを振り返り、今後も新たな時代へ向けて飛躍し続け社会より高く評価される鹿児島高専であってほしいと願っております。

最後に鹿児島高専の益々のご発展と、学生の皆さんの輝かしい未来を祈念し、後援会の皆様のご理解とご協力を、どうぞ宜しくお願い致します。5年間大変お世話になりました事に、深く感謝致します。

高専に出会えて良かった

後援会副会長 岩崎 聡子

高専との出会いは9年前。初めて総会に出席した時、保護者の方々の活発な意見と理事の方々の自信に満ちた堂々たる態度に圧倒されスゴイ。と強烈なインパクトを受けました。そんな私とその4年後理事に、そして副会長を2年務める事になるとは夢にも思っていませんでした。始めのうちは途方に暮れ後ろ向きな日々でしたが、自信を持った発言の裏には後援会の仕組みなど、色々な事を理解しようとする努力や様々な経験があつたからこそ、と悟りました。そして、回りの方々の協力や励ましもあり、事ある事に役が私を成長させてくれたと思います。まだまだ中身は成長過程ですが、貴重な体験をさせていただきました。

さて、もう一つ高専と言って忘れてならないのが、高専大会です。息子はサッカー部、娘はテニス部に所属していましたので、顧問の先生方や保護者もとても熱く全国いろんな所へ応援に行きました。それまで全国大会は当たり前のように行けるものだと思っていました。しかし、九州大会では背中が凍りつく程苦戦し、やっと全国への切符を手にするのです。学生の皆さんは日々並々ならぬ練習を重ね、負けたら人目はばからず悔し泣きをし、その姿に若き日インターハイに出場し同じような経験をした自分を重ね、二度目の青春を味わう事が出来ました。

また、11月には、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」が行われました。全国各キャンパス124チームから選抜された25チームが競技課題に対し発想力と独創力でロボットを製作します。学生の皆さんは寝る間を削ってアイデアを練りその成果を競います。私は大会で必死にロボットに向き合っている姿に感動し、涙したと同時に、今後の鹿児島高専ロボットの遊び心の部分や更なる進化を見たいと思いました。そしてこの子達が日本の技術を引っ張って行くんだなと思いました。今後も後援会としてのサポートの必要性も感じました。

様々な分野で活躍し、感動を与えてくれる鹿児島高専の皆さん。社会に出てもグローバルに活躍出来ると心から思います。

高専に出会えて良かった。高専との出会いに感謝です。

応援団が繋ぐもの

後援会副会長 宮崎 喜保子

応援団をしている息子が4年生になり今年は思い出深い体育祭になりました。当日の演舞も感動的でしたが、それまでの練習、準備、そして先輩方、保護者の方々、先生方の縁の下の力、様々な力が集結してこそこの応援団の圧巻の演舞と実感しました。

支部会で1年生の保護者に向けて先生が「今1年生は応援団の練習が大変だと思いますが、濃厚な異年齢の交流をしています、成長していますので心配しないでください。」と話されました。家に帰るとまさにその話でした。息子が「自分の列にあまり上手くない1年生がいるんだ、でも一緒にやるしかないんだよ。」と言いました。しかし、しばらくすると「あいつ頑張っているよ、上手くなってきた。」に変わりました。偶然その学生さんのお母さんと話す機会があり、「子どもは演舞の練習が夜遅くまで大変なんです。でも最近先輩に認めてもらえてとても喜んでます。楽しいそうです。」と嬉しそうでした。その気持ちよくわかりました。教える4年生も教わる1年生もその成長する姿は頼もしく嬉しく思いました。

もちろん4年生は力が入っていました。前年の体育祭の日から準備が始まり、演舞の型を何度も何度も作り直しながら仕上げていきました。各学科には先輩から受け継がれた演舞の型や口上やいろいろな慣習があるようで驚きました。にわかヤンキーの衣装や髪もそうらしく、その準備も怠らなく進めていました。それを引き継ぐ姿はとても誇らしく見えました。

記念祝賀会で12期生の卒業生にお会いし応援団の映像を見ていただきました。「ああ、僕たちの時と同じだ、こんな感じでしたよ、懐かしい。でも今の方がカッコいいですね。」と目を細めていらっしゃいました。

夏にはクラス親睦会で普段は話す機会がないお母さん方と息子たちの話で盛り上がりました。応援団の練習では問題や小さないざこざもあり苦勞も多かったことなど知り、感心したり笑い話にしながら楽しい時間を過ごしました。そして当日は一番前の席に5年生が並び大きな声を出して応援（プレッシャー？）してくれました。

応援団は多くの方々の力と、いろいろなものを繋ぎながら、名前も知らない先輩が作ってきたものを受け継ぎ、自分たちも工夫し作り上げ、それを後輩にしっかりと伝える。これが学生たちだけで脈々と続けられています。そこに感動がありました、この一年様々なものを見聞きでき本当に面白かったです。学生さんとお力添えくださった皆様に感謝します。ありがとうございました。

社会に飛び立つエンジニアの皆さんへ

後援会副会長 湯浅 慎太郎

高専だよりには2回目の執筆のチャンスを与えていただき感謝いたします。前回は鹿児島高専OBの立場から学生時代の思い出を中心に述べさせていただきました。今回は私の社会人としての立場から、学生の皆さんに労働者として必要な心得のようなものをお伝えします。

まず就職のこと。鹿児島高専で学生生活を過ごし就職する学生、専攻科に進む学生、大学に編入学する学生、いろんな進路があります。ここで皆さんにお伝えしたいことは、どの最終学歴においても新卒が正規労働者として就職する最良のチャンスであることです。せっかく就職したにもかかわらず退職してしまうと、一社会人が再び正規労働者として働き出すことが困難です。やむを得ない理由により退職し、派遣労働者やパート労働者などの非正規労働者として再就職すると賃金は下がります。それは会社の経営者は定期昇給やベースアップのある正規労働者と比べ、安い賃金で雇用し会社の利益を上げようとするからです。当然に一生で稼ぐ生涯賃金にも影響を及ぼします。

次に賃金とは何か。それはあなたの労働力の値段です。労働者は会社で働き労働力を売る。経営者はそれを商品として買い、あなたに対して代金＝賃金を支払います。

ではなぜ働いて賃金を得る必要があるのか。それは家に帰り、ご飯を食べて、ぐっすり眠り、余暇を楽しみ、欲しいものを買って、明日も一生懸命働くためです。また結婚すれば自分自身を支える配偶者が同様に生活をし、我が子を育てることも理由に加わります。

おわりに、就職後の数年は仕事をする上で苦勞するかもしれませんが、くじけそうになってもできるだけ退職せずに働き続けましょう。打たれ強いところが高専出身者の魅力でもあることも知っておいてください。そして一定期間を労働者として働いた後、会社の経営者側に身分が移ることがあるでしょう。そのときは労働者としてたいへんな思いをした自分自身を思い出し、経営者と会社を支えているのは労働者の労働のおかげであることを忘れずに労働者を大事にしてください。

それでは皆さん、労働者が汗を流して働くことが、住んでいる地域、年齢や貧富の差に関わらずすべての人間が安全で便利な生活を送ることに必要であることを記憶にとどめて社会に飛び立つことを強く望みます。

親も子も楽しく有意義に

情報工学科1年 理事 西 直美

4月に入学してから早くも1年が経とうとしております。3人目の末っ子ですが、高専は初めての事で何も分からずとても緊張していたのを覚えています。

入学してみると県立高校では体験できないようなスケールの違うことばかりで驚きの連続でした。

授業参観で授業を拝見した時に驚いたのは先生方の教え方の違いでした。表現力、伝え方の凄さに驚き、私も一緒に楽しく授業を受けてしまいました。また、英語教育の充実。徹底した発音教育に、TOEICやbridgeの受験費用の免除など、恵まれた教育環境に感謝致します。

社会に出てからグローバルな活躍が出来る様にとの方針を軸に、知識を詰め込むのではなく、体験と自主性を優先しての教育内容。(自由と言いつつ本当は待っている怖い落とし穴)子供達が本質を見失わず、しっかり前進してくれることを祈るばかりです。

この子供が生まれた1997年はソニーがメモリースティック発表。マイクロソフト社がアップルコンピューター株を買い、両社が業務提携及びライセンス交換に合意。トヨタがプリウス発表。と、技術革新が一気に進んだ年です。この子供が卒業し、社会に出て行った時には、さらにグローバルに、自然や平和に繋がる物を開発し、ますます便利で、暮らし易いけど地球にやさしい社会にして行ってくれる事を期待しています。

この1年間の私達親子の感想は「楽しくて仕方ない」この一言に尽きると思います。

私は何もわからないまま呑気に引き受けたクラス理事でしたが、優しく楽しい他の理事さん達に囲まれ、学校でのわからない事も、注意する事も教えていただいたりと、笑いの絶えない理事会や驚きの連続の学校行事が楽しみで仕方ない日々です。

娘も毎日の学校生活はもとより、高専祭へ向けての応援団の練習や寮での生活など今までと違う生活を思い切り楽しんでいるようです。

詰め込み教育では身に付けられない発想力と実現力。それを自由に楽しく学ぶ中で培ってください。

二人の高専生

都市環境デザイン工学科1年 理事 片平 勇人

「やったー、合格したよ」玄関を開けるなり、大きな声が家中にこだました。それは我が家に二人目の高専生が内定した瞬間でした。そして今年4月に入学して晴れて次男は高専生となりました。

次男は中学2年生から高専の体験入学に参加し、理数系が得意な事も有り、実験の楽しさに興味を持ち、また、兄が高専生だったので、その校風の自由さも影響され、高専へ進学を早い段階から決めていました。

次男は最初の頃、洗濯の仕方などで連絡がありました。が、持ち前の社交的な性格で、沢山友人が出来たのか連絡はすぐ途絶え、帰宅も3ヶ月に1回、高専生活・寮生活が余程楽しいようです。親としても連絡がない事は元氣な証拠だと思って諦めています。

もう一人の高専生の長男は、人付き合いが少し苦手、好きな事には熱中して黙々と一人でするタイプです。

月日は経つのが早いものです、現在、都市環4年生にまでなんとか進級しています。体育祭では応援団を4年間頑張りと、インターンシップも無事こなし、そして楽しみにしていた研修旅行も終わりました。一つ一つ行事が思い出に成りつつあります。親としては燃え尽き症候群だけにはならないようにと、祈るしかありません。

長男は、以前は自分のことしか考えないところもありましたが、次男が受験勉強で悩んでいる時に、的確なアドバイスをしてくれたことがありました。この時、長男が高専で着実に人間的に成長していることを実感させられました。

対照的な二人の息子ですが、この二人に共通していることがあります。それは、これまでの学校生活で理解していただける先生方と友人に恵まれていることです。本当に感謝しています。これからもお互い助け合い、切磋琢磨し、自分たちが高専を目指した目標「モノ作りが好き」「道を極めたい」に向け、自分自身で入学を決意したのだから、高専での生活を楽しみながら無事に卒業して欲しいと思います。

最後になりますが、先生方や職員の皆様、そして後援会の皆様、これからもどうぞよろしく願いいたします。

平成26年度 行事予定表

(4月～7月)
No.1

平成26(2014)年4月			平成26(2014)年5月			平成26(2014)年6月			平成26(2014)年7月			
曜日	回数	本 科	本 科	専攻科	曜日	回数	本 科	専攻科	曜日	回数	本 科	専攻科
1 火	1	1	1	1	1 日	4	4	4	1 日	23	23	23
2 水	2	2	2	2	2 日	4	4	4	2 日	7	7	7
3 木	3	3	3	3	3 日	12	13	3	3 日	7	7	7
4 金	4	4	4	4	4 日	13	14	4	4 日	1	8	41
5 土	5	5	5	5	5 日	14	15	5	5 日	2	9	42
6 日	1	1	1	1	6 日	15	16	6	6 日	3	9	43
7 月	2	2	2	2	7 日	4	4	21	7 日	4	25	44
8 火	3	3	3	3	8 日	5	5	22	8 日	24	26	26
9 水	4	4	4	4	9 日	5	5	23	9 日	8	8	45
10 木	1	1	1	1	10 日	16	17	10	10 日	8	8	46
11 金	1	1	1	1	11 日	17	18	11	11 日	8	9	47
12 土	6	6	6	6	12 日	4	4	24	12 日	9	10	48
13 日	7	7	7	7	13 日	4	4	25	13 日	9	10	49
14 月	1	1	1	1	14 日	5	5	26	14 日	25	27	27
15 火	1	1	1	1	15 日	6	6	27	15 日	26	28	28
16 水	2	2	2	2	16 日	6	6	28	16 日	9	9	50
17 木	2	2	2	2	17 日	18	19	17	17 日	9	9	51
18 金	2	2	2	2	18 日	19	20	18	18 日	9	10	52
19 土	8	8	8	8	19 日	5	5	29	19 日	10	11	53
20 日	9	9	9	9	20 日	5	5	30	20 日	10	11	54
21 月	2	2	2	2	21 日	6	6	31	21 日	27	29	29
22 火	3	3	3	3	22 日	7	7	32	22 日	28	30	30
23 水	3	3	3	3	23 日	7	7	33	23 日	10	10	55
24 木	3	3	3	3	24 日	20	21	24	24 日	10	10	56
25 金	3	3	3	3	25 日	21	22	25	25 日	10	11	57
26 土	10	10	10	10	26 日	6	6	34	26 日	11	12	58
27 日	11	11	11	11	27 日	6	6	35	27 日	11	12	59
28 月	3	3	3	3	28 日	7	7	36	28 日	20	31	31
29 火	4	4	4	4	29 日	8	8	37	29 日	30	32	32
30 水	3	3	3	3	30 日	8	8	38	30 日	11	11	60
31 土					31 日	22	23		31 日			

曜日	回数	本 科	本 科	専攻科	曜日	回数	本 科	専攻科	曜日	回数	本 科	専攻科
1 火	1	1	1	1	1 日	4	4	4	1 日	23	23	23
2 水	2	2	2	2	2 日	4	4	4	2 日	7	7	7
3 木	3	3	3	3	3 日	12	13	3	3 日	7	7	7
4 金	4	4	4	4	4 日	13	14	4	4 日	1	8	41
5 土	5	5	5	5	5 日	14	15	5	5 日	2	9	42
6 日	1	1	1	1	6 日	15	16	6	6 日	3	9	43
7 月	2	2	2	2	7 日	4	4	21	7 日	4	25	44
8 火	3	3	3	3	8 日	5	5	22	8 日	24	26	26
9 水	4	4	4	4	9 日	5	5	23	9 日	8	8	45
10 木	1	1	1	1	10 日	16	17	10	10 日	8	8	46
11 金	1	1	1	1	11 日	17	18	11	11 日	8	9	47
12 土	6	6	6	6	12 日	4	4	24	12 日	9	10	48
13 日	7	7	7	7	13 日	4	4	25	13 日	9	10	49
14 月	1	1	1	1	14 日	5	5	26	14 日	25	27	27
15 火	1	1	1	1	15 日	6	6	27	15 日	26	28	28
16 水	2	2	2	2	16 日	6	6	28	16 日	9	9	50
17 木	2	2	2	2	17 日	18	19	17	17 日	9	9	51
18 金	2	2	2	2	18 日	19	20	18	18 日	9	10	52
19 土	8	8	8	8	19 日	5	5	29	19 日	10	11	53
20 日	9	9	9	9	20 日	5	5	30	20 日	10	11	54
21 月	2	2	2	2	21 日	6	6	31	21 日	27	29	29
22 火	3	3	3	3	22 日	7	7	32	22 日	28	30	30
23 水	3	3	3	3	23 日	7	7	33	23 日	10	10	55
24 木	3	3	3	3	24 日	20	21	24	24 日	10	10	56
25 金	3	3	3	3	25 日	21	22	25	25 日	10	11	57
26 土	10	10	10	10	26 日	6	6	34	26 日	11	12	58
27 日	11	11	11	11	27 日	6	6	35	27 日	11	12	59
28 月	3	3	3	3	28 日	7	7	36	28 日	20	31	31
29 火	4	4	4	4	29 日	8	8	37	29 日	30	32	32
30 水	3	3	3	3	30 日	8	8	38	30 日	11	11	60
31 土					31 日	22	23		31 日			

曜日	回数	本 科	本 科	専攻科	曜日	回数	本 科	専攻科	曜日	回数	本 科	専攻科
1 火	1	1	1	1	1 日	4	4	4	1 日	23	23	23
2 水	2	2	2	2	2 日	4	4	4	2 日	7	7	7
3 木	3	3	3	3	3 日	12	13	3	3 日	7	7	7
4 金	4	4	4	4	4 日	13	14	4	4 日	1	8	41
5 土	5	5	5	5	5 日	14	15	5	5 日	2	9	42
6 日	1	1	1	1	6 日	15	16	6	6 日	3	9	43
7 月	2	2	2	2	7 日	4	4	21	7 日	4	25	44
8 火	3	3	3	3	8 日	5	5	22	8 日	24	26	26
9 水	4	4	4	4	9 日	5	5	23	9 日	8	8	45
10 木	1	1	1	1	10 日	16	17	10	10 日	8	8	46
11 金	1	1	1	1	11 日	17	18	11	11 日	8	9	47
12 土	6	6	6	6	12 日	4	4	24	12 日	9	10	48
13 日	7	7	7	7	13 日	4	4	25	13 日	9	10	49
14 月	1	1	1	1	14 日	5	5	26	14 日	25	27	27
15 火	1	1	1	1	15 日	6	6	27	15 日	26	28	28
16 水	2	2	2	2	16 日	6	6	28	16 日	9	9	50
17 木	2	2	2	2	17 日	18	19	17	17 日	9	9	51
18 金	2	2	2	2	18 日	19	20	18	18 日	9	10	52
19 土	8	8	8	8	19 日	5	5	29	19 日	10	11	53
20 日	9	9	9	9	20 日	5	5	30	20 日	10	11	54
21 月	2	2	2	2	21 日	6	6	31	21 日	27	29	29
22 火	3	3	3	3	22 日	7	7	32	22 日	28	30	30
23 水	3	3	3	3	23 日	7	7	33	23 日	10	10	55
24 木	3	3	3	3	24 日	20	21	24	24 日	10	10	56
25 金	3	3	3	3	25 日	21	22	25	25 日	10	11	57
26 土	10	10	10	10	26 日	6	6	34	26 日	11	12	58
27 日	11	11	11	11	27 日	6	6	35	27 日	11	12	59
28 月	3	3	3	3	28 日	7	7	36	28 日	20	31	31
29 火	4	4	4	4	29 日	8	8	37	29 日	30	32	32
30 水	3	3	3	3	30 日	8	8	38	30 日	11	11	60
31 土					31 日	22	23		31 日			

教員集会(/ :午後) 後援委員会(5/24)
 授業調整・相互参観
 交通安全講習会・自衛隊避難防止講習会(4.5年,専攻科)
 交通安全講習会・自衛隊避難防止講習会(1,2,3年)
 高校総体
 学業自転車登録
 九州神農地区講習会(大分)
 西日本地区高専空手道大会(高知)
 第七分館ホームページ
 公開講座

平成26年度 行事予定表

(8月～11月)
No.2

平成26(2014)年8月				平成26(2014)年9月				平成26(2014)年10月				平成26(2014)年11月					
日	曜日	回数	本学	本学	本学	本学	本学	本学	本学	本学	本学	本学	本学	本学	本学	本学	本学
1	金	10	4	83	1	月	補講/答案返却・解説										
2	土	40	42	2	火		一日休学										
3	日	41	43	3	水		補講/答案返却・解説										
4	月	15	5	84	4	木											
5	火	15	6	85	5	金											
6	水	15	7	86	6	土											
7	木	15	8	87	7	日											
8	金	15	9	88	8	月											
9	土	42	44	9	火		閉校(11時)										
10	日	43	45	10	水		鹿児島県高専の日2014(鹿児島市立科学館)										
11	月	44	46	11	木		昭和の日(アズマナツの学生代休)										
12	火	45	47	12	金		夏の休業開始										
13	水	46	48	13	土		海の日(自曜日の授業)の学生代休										
14	木	47	49	14	日		海の日(自曜日の授業)の振替休日										
15	金	48	50	15	月		夏手一斉休業日										
16	土	49	51	16	火												
17	日	50	52	17	水												
18	月	51	53	18	木												
19	火	52	54	19	金												
20	水	53	55	20	土												
21	木	54	56	21	日												
22	金	55	57	22	月												
23	土	56	58	23	火												
24	日	57	59	24	水												
25	月	58	60	25	木												
26	火	59	61	26	金												
27	水	60	62	27	土												
28	木	61	63	28	日												
29	金	62	64	29	月												
30	土	63	65	30	火												
31	日	64	66	31	水												

平成26年度 行事予定表

(12月～3月)
No.3

平成26(2014)年12月			平成27(2015)年1月			平成27(2015)年2月			平成27(2015)年3月		
曜日	行事	回数	曜日	行事	回数	曜日	行事	回数	曜日	行事	回数
1月	本学	131	1月	本学	130	1月	本学	142	1月	本学	153
2月	専攻科	132	2月	専攻科	131	2月	専攻科	143	2月	専攻科	154
3月	本学	133	3月	本学	132	3月	本学	144	3月	本学	155
4月	本学	134	4月	本学	133	4月	本学	145	4月	本学	156
5月	本学	135	5月	本学	134	5月	本学	146	5月	本学	157
6月	本学	136	6月	本学	135	6月	本学	147	6月	本学	158
7月	本学	137	7月	本学	136	7月	本学	148	7月	本学	159
8月	本学	138	8月	本学	137	8月	本学	149	8月	本学	160
9月	本学	139	9月	本学	138	9月	本学	150	9月	本学	161
10月	本学	140	10月	本学	139	10月	本学	151	10月	本学	162
11月	本学	141	11月	本学	140	11月	本学	152	11月	本学	163
12月	本学	142	12月	本学	141	12月	本学	153	12月	本学	164
13日	本学	143	13日	本学	142	13日	本学	154	13日	本学	165
14日	本学	144	14日	本学	143	14日	本学	155	14日	本学	166
15日	本学	145	15日	本学	144	15日	本学	156	15日	本学	167
16日	本学	146	16日	本学	145	16日	本学	157	16日	本学	168
17日	本学	147	17日	本学	146	17日	本学	158	17日	本学	169
18日	本学	148	18日	本学	147	18日	本学	159	18日	本学	170
19日	本学	149	19日	本学	148	19日	本学	160	19日	本学	171
20日	本学	150	20日	本学	149	20日	本学	161	20日	本学	172
21日	本学	151	21日	本学	150	21日	本学	162	21日	本学	173
22日	本学	152	22日	本学	151	22日	本学	163	22日	本学	174
23日	本学	153	23日	本学	152	23日	本学	164	23日	本学	175
24日	本学	154	24日	本学	153	24日	本学	165	24日	本学	176
25日	本学	155	25日	本学	154	25日	本学	166	25日	本学	177
26日	本学	156	26日	本学	155	26日	本学	167	26日	本学	178
27日	本学	157	27日	本学	156	27日	本学	168	27日	本学	179
28日	本学	158	28日	本学	157	28日	本学	169	28日	本学	180
29日	本学	159	29日	本学	158	29日	本学	170	29日	本学	181
30日	本学	160	30日	本学	159	30日	本学	171	30日	本学	182
31日	本学	161	31日	本学	160	31日	本学	172	31日	本学	183
学生会長立会演説会・遊華		162	TOEIC Bridge (1～3年生)		163	授業評価アンケート		164	合格発表日(合格発表)		165
		163			164			165			166
		164			165			166			167
		165			166			167			168
		166			167			168			169
		167			168			169			170
		168			169			170			171
		169			170			171			172
		170			171			172			173
		171			172			173			174
		172			173			174			175
		173			174			175			176
		174			175			176			177
		175			176			177			178
		176			177			178			179
		177			178			179			180
		178			179			180			181
		179			180			181			182
		180			181			182			183
		181			182			183			184
		182			183			184			185
		183			184			185			186
		184			185			186			187
		185			186			187			188
		186			187			188			189
		187			188			189			190
		188			189			190			191
		189			190			191			192
		190			191			192			193
		191			192			193			194
		192			193			194			195
		193			194			195			196
		194			195			196			197
		195			196			197			198
		196			197			198			199
		197			198			199			200
		198			199			200			201
		199			200			201			202
		200			201			202			203
		201			202			203			204
		202			203			204			205
		203			204			205			206
		204			205			206			207
		205			206			207			208
		206			207			208			209
		207			208			209			210
		208			209			210			211
		209			210			211			212
		210			211			212			213
		211			212			213			214
		212			213			214			215
		213			214			215			216
		214			215			216			217
		215			216			217			218
		216			217			218			219
		217			218			219			220
		218			219			220			221
		219			220			221			222
		220			221			222			223
		221			222			223			224
		222			223			224			225
		223			224			225			226
		224			225			226			227
		225			226			227			228
		226			227			228			229
		227			228			229			230
		228			229			230			231
		229			230			231			232
		230			231			232			233
		231			232			233			234
		232			233			234			235
		233			234			235			236
		234			235			236			237
		235			236			237			238
		236			237			238			239
		237			238			239			240
		238			239			240			241
		239			240			241			242
		240			241			242			243
		241			242			243			244
		242			243			244			245
		243			244			245			246
		244			245			246			247
		245			246			247			248
		246			247			248			249
		247			248			249			250
		248			249			250			251
		249			250			251			252
		250			251			252			253
		251			252			253			254
		252			253			254			255
		253			254			255			256
		254			255			256			257
		255			256			257			258
		256			257			258			259
		257			258			259			260
		258			259			260			261
		259			260			261			262
		260			261			262			263
		261			262			263			264
		262			263			264			265
		263			264			265			266
		264			265			266			267
		265			266			267			

編 集 後 記

「鹿児島高専だより」第68号をお届けいたします。

今回の特集は、「大学間連携共同教育推進事業（9高専連携事業）」です。鹿児島高専が代表校となり九州沖縄地区の9高専が連携し、高専のグローバル化教育に取り組むことになりました。

平成25年度を振り返ると、学内では鹿児島高専が創立50周年という大きな節目を迎え、昨年11月1日に「創立50周年記念式典及び祝賀会」が盛大に挙行されました。今後の更なる発展が期待されます。また、12月15日には鹿児島高専を主幹校として、かごしま県民交流センターにおいて、「第23回九州沖縄地区高専フォーラム」が開催されました。

国内に目を向けると、「under control」と流行語大賞になった「お・も・て・な・し」（表なし？）で2020年東京オリンピックを勝ち取りました。事故発生以来3年が経過した東京電力福島第一原子力発電所では、相変わらず毎日700トンの放射能汚染水が溢れ続け、宣言とは裏腹に事故収束の見通しは全くついていません。技術者として看過できない事象です。人間の欲望のままに増大し続ける経済活動や地球環境変化に、技術者の倫理はどうあるべきなのでしょう。混沌としています。

最後になりますが、「高専だより」の発行にあたり、ご多忙の中、原稿執筆を快くお引き受け下さった執筆者各位に対し、委員一同厚く御礼申し上げます。

機械工学科 岩本 才次

「高専だより」専門委員会委員

委員長 岩本 才次（機械工学科）
委員 松田 信彦（一般教育科文系）
嶋根 紀仁（一般教育科理系）
逆瀬川 栄一（電気電子工学科）
島名 賢児（電子制御工学科）
玉利 陽三（情報工学科）
山内 正仁（都市環境デザイン工学科）

担当事務 協園 好光（総務課企画係長）

「鹿児島高専だより」第68号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報委員会

発 行 鹿児島工業高等専門学校

〒899-5193

鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1